

教会学校教案誌

2010.1.2.3月号



No.36

日本キリスト改革派教会
中部中会日曜学校委員会

2010年1～3月カリキュラム（第36号）

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第2年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
1月3日 新年	新しい一年	—	—
		詩編23編	詩編23:1
羊飼いである主なる神が共にいてくださることを信じて歩み始めよう			
10日	祈りのお手本	問77	ウ小99、ハイデ118, 119
		ルカ11:1-4	ルカ11:1（部分）
イエスさまの祈り「主の祈り」によって、祈ることを身につけよう			
17日	天の父よ	問78	ウ小100、ハイデ120-121
		マタイ6:9-13	マタイ6:9（部分）
神の子とされた感謝と喜びをもって、父の御名を呼ぼう			
24日	御名を あがめさせたまえ	問79	ウ小101、ハイデ122
		マタイ6:9-13	マタイ6:9（部分）
祈りとは神を神としてあがめることである。御名をほめたたえて祈ろう			
31日	御国を 来たせたまえ	問80	ウ小102、ハイデ123
		マタイ6:9-13	マタイ6:10（部分）
祈りとは御国の完成を待ち望んで生きることである。再臨を求めて祈ろう			
2月7日 (信教の自由)	御心の 天になるごとく	問81	ウ小103、ハイデ124
		マタイ6:9-13	ルカ1:38（部分）
祈りとは神の御心にわたしたちの心を重ねることである。御心を求めて祈ろう			
14日	日用の糧を 与えたまえ	問82	ウ小104、ハイデ125
		マタイ6:9-13	ヤコブ1:17（前半）
主がわたしたちの必要をご存じである。必要のすべてを求めて祈ろう			
21日 レント	我らの罪を 赦したまえ	問83	ウ小105、ハイデ126
		マタイ6:9-13	マタイ6:12
主が罪を背負って十字架につけられた。罪の赦しに生きることを求めて祈ろう			
28日 レント	悪より 救い出したまえ	問84	ウ小106、ハイデ127
		マタイ6:9-13	マタイ6:13
主が罪と悪に勝利しておられる。誘惑に打ち勝つことを求めて祈ろう			
3月7日 レント	頌 栄	問85	ウ小107、ハイデ128
		ヨハネ黙示録5:11-14	ヨハネ黙示録5:13
祈りは神をほめたたえて閉じられる。神に栄光を帰して祈ろう			
14日 レント	アーメン	問85	ウ小107、ハイデ129
		コリント二1:15-22	ヘブライ11:1
祈りはキリストの真実に支えられている。心から「アーメン」と言おう			
21日 レント	ゲツセマネの祈り	—	—
		マタイ26:36-46	マタイ26:39（後半）
主は祈りにおいてすでに苦しみを背負われた。主の御苦しみに目を留めよう			
28日 受難週	キリストの受難	—	—
		マタイ27:32-44	ヨハネ3:16
十字架から降りない救い主。十字架につけられたキリストを仰ごう			

も く じ

2010年1・2・3月カリキュラム

まえがき	木下裕也	4
巻頭説教	熊田雄二	5
日曜学校・教会学校訪問		
横浜教会教会学校の紹介	小宮直	8
特別寄稿 諸教会の教会教育事情		
契約の子供たちの霊的成長と地域伝道を		
祈る教会教育の現場から	坂井純人	12
「主の祈り」の研究	山中雄一郎	16
副読本のご案内		24
自由募金のお願い		25

聖書研究・説教展開例・分級展開例

1月3日	28
1月10日	35
1月17日	43
1月24日	50
1月31日	57
2月7日	64
2月14日	71
2月21日	78
2月28日	85
3月7日	92
3月14日	100
3月21日	108
3月28日	115

2010年4・5・6月カリキュラム

2010年度年間カリキュラム	126
執筆者よりひとこと・あとがき	128

まえがき

木下裕也（名古屋教会牧師）

新しい年となりました。この年も皆様の尊いお働きの上に主の祝福をお祈り致します。祈りと信仰をひとつにして、ともに教会学校教育のわざにたずさわっていくことができましたなら幸いです。

昨年5月に持たれた中部中会の教師会は、中会と宣教協力の関係にある高神の東釜山老会の先生方をお招きし、日韓合同セミナーのかたちで行われました。「福音宣教の喜びに生きる信徒の教育」の主題のもと、おたがいの中会における教育のいとなみを（「日曜学校教育」「青年・学生教育」「役員・信徒教育」のそれぞれについて）紹介し合いました。理論的にも実践の面でも、東釜山老会の取り組みから多くのことを学ばせていただきました。とりわけ教会教育のプログラムの充実ぶり、実際に見せていただいた各種テキストの内容の豊かさに圧倒される思いでした。

わたしたちの中会においても、長老主義教会における教育のありかたについて今一度確かめ合うこと、日曜学校教育のみならず、教会教育の諸側面について一定の理解と確信とを共有していくことが求められているのかもしれない。教会教育はまさに「胎を出した時から」「老いる日まで」のいとなみです。「生涯教育」の名に見合った、一本筋のおったカリキュラムの重要性を痛感させられたことでした。

もうひとつ、東釜山老会との交わりから覚えさせられたのは、教育と伝道との関係性の不可分ということです。これも目新しいことではなく、「教育的伝道」を自負してきたわたしたち

の教派にあっては自明のことではあるのですが、しっかりした教育の取り組みはそのまま伝道においても大きな収穫をもたらすのだということであらためて教えられました。

大会教育機関誌の発行、「信徒の手引き」の改訂、全国高校生キャンプの開催等、大会における教育関連諸委員会の働きがとみに充実を見ていることは大変喜ばしく、深く感謝しております。こうした取り組みが祝福されることは、近い将来伝道の面でも大きな実りをもたらしていくであろうことを信じるものです。

余談ですが、昨年東釜山老会の牧師先生をわたしたちの教会にお招きして主日礼拝の説教をいただいたときに、早めに着かれたので、日曜学校の中高生科に加わっていただきました。自己紹介のおり、韓国の教会は子どもたちがたくさんおられるでしょう、わたしたちは毎週このようなわずかな人数でやっておりますと申し上げると、小人数だからこそ日曜学校の先生たちと膝突き合わせての学びや交わりができるのです、これは幸いなことであり、ぜいたくなことでもあります、そう言って励ましてくださいました。

本当にそうかもしれません。わたしたちは教会が数多くの子供たちであふれ、満たされることを祈り願います。一方で、主が今わたしたちに与えてくださっている子どもたちにしっかりと向き合い、ひとりひとりの魂を大切に、ひとりひとりをそれぞれ「手塩にかけて」育んでいきたい。ていねいにみ言葉を語り続けたい。そのように思うのです。（教案誌編集部員）

「エマオの道で」

—ルカによる福音書 24章13～49節による説教—

熊田雄二（上福岡教会牧師）

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いて下さったときにイエスだと分かった次第を話した。

こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、

あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」こう言って、イエスは手と足をお見せになった。彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」
(ルカによる福音書 24章13～49節)

「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」。

復活されたイエス様は、エルサレムからエマオに向かう道で二人の弟子にお会いになりました。二人はイエス様が十字架で死なれたことを悲しみながら話し合っていました。イエス様は二人といっしょに歩きながら、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていること」を話されました(27節)。

さて、エルサレムからエマオまで「60スタディオン」ということですから、「60スタジアム」、東京ドーム60個分と考えて、10キロメートルくらいです。歩いて2～3時間の距離です。2～3時間のあいだに、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり」説明することが、どうして可能だったのでしょうか。

今私たちが持っている聖書で「創世記」から「マラキ書」まで全部読むとしたら、とても2～3時間では足りません。そこで、「聖書全体にわたり、御自分について書かれていること」のどういう部分をお話なさったか注目してみると、「メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったではないか」という部分です

(26節)。

このことは、エルサレムで他の弟子たちもいるところで、もう一度強調なさいました。「『わたしについてモーセの律法と預言者と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。』そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの目を開いて、言われた。『次のように書いてある。「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」と。』」(44～47節)

弟子たちが持っていた聖書は、まだ旧約聖書だけですが、旧約聖書を「モーセの律法と預言者と詩編」全部読んでも、「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国に人々に宣べ伝えられる」という、ズバリこの言葉どおりの箇所は見つかりません。でもイエス様は、「これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである」と言われましたから、新約聖書を持っている私たちには、これが大きなヒントになります。

つまり、新約聖書に引用されている旧約聖書

の箇所を追っていくと、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていること」を見出すことができます。また、「わたしについてモーセの律法と預言者と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する」と言われたように、約束の実現というテーマを追っていくと、旧約聖書の読み方を教えられます。

そこで、1986年に採択した、日本キリスト改革派教会創立四十周年記念宣言の「聖書論」第一節を注目していただきたいのです。そこにはコンパクトに聖書物語がつづられています。それは、約束の実現というテーマで旧新約聖書を読む読み方を導いています。これぐらいコンパクトになっていますと、2～3時間で旧約・新約の契約部分が救済史構造として自分の中にセットされます。これがセットされますと、あとは全ての箇所がそのどこかにセットされるようになります。

「礼拝指針」の中に教会学校のテキストを指定する文言がありますが、「聖書と教理問答」というのは少し説明がいります。2009年改訂版では「旧新約聖書とウエストミンスター信仰基準および、参考としてハイデルベルグ信仰問答やジュネーブ教会信仰問答など」となっていますが、同じです。「聖書」と言っても「旧新約聖書」と言っても、聖書が主となるテキストであることは当然ですから、教理問答と並べるようにして「聖書」というのは説明がいります。歴史的信条はどんなに権威があっても、聖書と並ぶ権威はありません。では、なぜ「聖書と教理問答」なのでしょう。

ここに、イエス様がエマオの道で弟子たちに教えられた聖書の読み方が大事なわけがあります。子供たちが幼い頃から、日曜学校その他で聖書物語に親しんでいることは、とても大事な

ことです。やがてそれが救済史として体系化されるとき、聖書真理の体系として、ものすごく大きな意味を持ってきます。物語の意味が体系化される時、それが聖書教理の骨格を豊かに肉付けするものとなります。教理問答だけでは骨組しかありません。その教理がダイナミックな聖書物語と共に語られる時、語る先生も聴く子供も、心が燃えるのです(32節)。

「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていること」(ルカ24:25-27, 44-49)を読むという方針で旧約聖書を読む一例を挙げると次のようです。

- 1 アダム契約 創世記1～3章
ノア契約 創世記6～9章
アブラハム契約
創世記12～22章
モーセ契約 出エ1～24章、
申命記29～30章
ダビデ王へのメシア契約
サムエル記下七章
- 2 メシア詩編 2、22、69、110、118
- 3 メシア預言の代表イザヤ書
前半 7、9、11、29、35章
後半 四つの僕の歌=42、49、50、52-53章
- 4 その他の預言書
ダニエル7(人の子)
ミカ5(ベツレヘム)
ゼカリヤ9(子ロバに乗る王)
マラキ3(契約の使者)
エレミヤ31:31-34(新しい契約)

これらをざっと読んでみると、2～3時間で読み切れるかは、試してみてものお楽しみです。

横浜教会教会学校紹介

小宮 直（横浜教会教会学校校長）

横浜教会は、横浜市の南部に位置する金沢区、横浜駅からは京浜急行線で10駅ほど下った富岡駅より徒歩約10分の住宅地の中にあります。1963年の伝道開始以来、日曜朝の教会学校による子どもたちへの伝道活動を続けてきました。

毎週の教会学校出席者数は、幼小科、中高科合わせて10名ほど。ほとんどが契約の子ではない、地域の子もたちです。「横浜」という土地柄ミッションスクールが多く、特に中学高校科では年度始めに学校からの紹介という形で初めて教会学校にやって来る子も多くいます。

しかし、幼小科の子どもたちはおもに習い事で、中高科になると部活動や塾などで、日曜日も忙しいようで、毎週続けて来られる子は多くありません。どこも似たような状況かもしれませんが、出席者が伸びないことは大きな課題です。分級などでは、ときに「個別指導」のような状況になってしまうこともあります。しかしこれも逆手に取れば、一人ひとりへのきめ細やかな対応ができると捉えることもできます。聖書の学びでも双方向的なやりとりなどしつつ、家族的なあたたかい雰囲気の中で、じっくりと御言葉を伝えることができますし、分級の時間などには、少人数だからこそ個人的な悩みや本音を語り合うことができるという良さもあると考えています。

現在は、車で5分ほど離れた場所に用地を取得し、新会堂の建築に向けて準備をしています。駅からは少し遠くなりますが土地の広さは現在の二倍以上になるので、新しい会堂では教会学校としてもゆとりのある空間を確保し、沢山の子どもたちを集めて礼拝や集会が行えることを

夢見ています。

1. 礼拝・分級

幼小科は午前9時～9時30分、中高科は9時20分～（分級なし）で行っています。担当教師は幼小科5名（事務担当を含む）、中高科3名＋牧師の9人です。礼拝開始まえには5分ほどの短い時間ですが、その日の司会者が聖書を朗読し、祈禱をして礼拝に備えます。幼小科では、月一回、牧師が説教をしますが、それ以外は校長を中心にCS教師が分担して礼拝のお話をします。また、長老には年一回ずつ、その他の何人かの会員にもお願いをしてお話をさせていただく機会をつくっています。会員の中には幼稚園や小学校の元教師などもいて、とても上手に子どもたちに話してくださり、一緒に聴いている我々CS教師も引き込まれてしまうようなことも度々あります。

以前には、毎月ごとに皆勤賞の表彰をしていましたが、今は、「10回賞」ということで、10回出席するごとにちょっとしたプレゼントと表彰をしています。掲示板に出席名簿を作り、毎週シールをはって10個シールがたまると礼拝



礼拝風景

後に表彰をします。子どもたちは教会に来ると真っ先にシールを貼りに行き、「あと〇回で十回賞！」などと言って励みにしているようです。

中高科の礼拝は、基本的に二人の教師が司会を兼ねて聖書のお話をします。聖書の学びはもちろんですが、ちょっとした雑談のような時間も大事にしています。学校での出来事を話したり、進路や将来のお話をしたりすることもあり、ほとんどの子がクリスチャンホームではない現在の状況で、教師がクリスチャンとしてまた人生の先輩としても、よき相談相手となっているようです。

分級は、幼小科のみ9時30分頃から30分ほど行います。人数が多いときでも3、4人ほどなので、現在は、子どもたち同士、子どもと教師がゆっくりとふれあい楽しく過ごすことを基本に活動します。ちょっとした工作をしたり、聖書絵本の読み聞かせをしたり、ときには近所の公園などにお散歩に行ったりするなど、担当教師が臨機応変に内容を決めています。

2. 行事

進級礼拝（4月）

幼小、中高、合同で礼拝を持ちます。その後、新たな学年ごとに生徒全員の紹介、担当教師の紹介を行います。生徒・教師全員が集まる数少ない機会です。

イースター礼拝（4月）

礼拝でイエスさまの復活を学び、分級の時間には、熱収縮フィルムを使ったイースターエッグ作りをします。毎年50個ほどをつくり、きれいにラッピングしたものを子どもたちが持ち帰ります。残ったものは教会学校への献金として会員の方々に買っていただいています。

親子（家族）礼拝（6月）

以前は、母の日・父の日に、それぞれお母さん、お父さんをご招待して特別な礼拝をしてい



イースターエッグ作り

ました。現在は、お祖父さんお祖母さんなども含め、家族を招待して一緒に「親子礼拝」をしています。子どもたちが招待状を作って家族を招き、礼拝後には一緒にゲームをして楽しんだり、お手紙のプレゼント、ミュージックチャイムの演奏（聴いてもらったり、一緒に演奏したり）をしたり、楽しく過ごします。

花の日礼拝（6月）

「花の日・こどもの日」をおぼえて礼拝をおこない、午後には同じ区内にある老人ホームを訪問しています。小さなホールのような場所に集まったおじいさん、おばあさんにお花をプレゼントし、賛美歌やミュージックチャイムの演奏を聴いてもらったり、一緒に童謡をうたったりします。キリスト教系の施設ではありませんが、毎年こころよく受け入れてくださり、入所者の方々も楽しみにしていただいています。子



花の日訪問

子どもと一緒に「いつくしみふかき」をロザさむ方や、子どもの手を握って涙をためながらお礼を言うてくださる方もいっしょに、子どもたちにとってもとてもよい経験となっていると感じます。

夏期学校（7月、8月）

今年で7回目くらいになるのでしょうか、「神奈川県合同夏期学校」ということで、県内の八つの教会から、子ども（未就学児から高校生まで）、教師、保護者合わせて100名ほどが集まり、金沢区の野島公園を会場に、一泊二日で行っています。海のそばで、緑も多く、芝生の広場やキャンプファイヤー場、宿泊（研修）施設も整っており、非常に恵まれた環境で二日間たっぷり学び・まじわりの時を持つことができます。二日目昼には恒例の「パーベキュー大会」をおこないます。参加者、その保護者、牧師先生なども加わり、毎年たいへんな盛り上がりです。



神奈川県合同夏期学校

子ども集会 “KIDS PARTY”（9月、10月）

新しい子どもを増やす目的で、日曜日の午後に行う「お楽しみ集会」です。ビデオやお話で御言葉も語りますが、初めての子どもでも楽しめる内容にということで、ゲームや工作、音楽など、知恵を絞って毎年いろいろな企画を立てています。腹話術師やミュージシャンなど、「ゲスト」を呼んでおこなうこともあります。今年は、少し時期を早め、初めての試みとして「アイスク

リームパーティ」を行いました。『歌やゲーム、おいしいアイスも!』という宣伝文句でチラシをつくり、小学校の校門前で配りました。初めての子が10人近くも集まり（特に男の子が多かった!!）元気に盛り上がり楽しい会となりました。



子ども集会

クリスマス礼拝（12月）

この日だけは、朝の礼拝を行わず午後に行います。ツリーの飾りやアドベントカレンダーなども子どもたちと一緒に準備をしてこの日を迎えます。一ヶ月ほど前から準備を始め、降誕劇やミュージックチャイムの演奏などをして、お家の方や新しくきた子にみてもらいます。しかし、普段の出席者が少ないため、やり方も練習も毎年ぎりぎりというのが現状です。



クリスマス礼拝

3. これから

これまでの約40年のあゆみを振り返ると、出席者数が減り続けている現在は決して満足できる状況とは言えません。しかし、契約の子はほとんどいないにもかかわらず、信頼して毎週お子さんを送ってくださる保護者がいること、中高科を中心に毎年新入生に教会を紹介してくれるミッションスクールとの関係ができていくこと、また、新会堂への移転を前にして、「30年ほど前に教会学校に通っていました」という

方が礼拝に出席されていることなどは、本当に感謝であり、長く続けてきたこのはたらきは、大きく目立ちはしなくても確かに成果をあげていると感じます。今後、新会堂での再出発に向けて、新たな伝道地域での教会学校のあり方も検討していく必要があります。これまでに築いてきたものを基にしつつ、ひとりでも多くの子どもたちと共に神さまの御栄光をあらわすことができるよう、祈りつつこの尊いつとめにあたっていきたいと思います。



契約の子供たちの霊的成長と地域伝道を祈る 教会教育の現場から

—北米改革長老教会日本中会の教会教育—

坂井純人（北米改革長老教会日本中会議長）

〈改革長老教会の紹介〉

このたび、御教会の教会学校教案誌に、改革長老教会日本中会の下にある教会教育、宣教の取り組みについて、紹介させていただく機会をお与えくださり、主にある幸いな交わりの恵みに心から感謝申し上げます。貴日本キリスト改革派教会とは、西部中会を始め、神戸改革派神学校の先生方を中心に長年の御交誼を賜り、多くの主にある交わりの恩恵にあずかってまいりました。改めて、深い感謝を申し上げます。

さて、日本にある改革長老教会は、現在、全体で四つの教会と一つの伝道所からなる小さな群れです。歴史的に遡ると、ジュネーブのジャン・カルヴァン、スコットランドのジョン・ノックスの流れを汲む長老主義教会です。本来は、北米改革長老教会の宣教師により、中国宣教が、共産主義化して、国外撤去せざるを得ない状況になった時から、日本宣教に幻が移され、そこから、日本における改革長老教会は始まりました。

日本中会は、1996年以前は、大会との関係では日本委員会と称し、中会形成への祈りを持っていましたが、1996年に日本中会を形成しました。現在、日本中会は、アメリカ合衆国とカナダを含む北米改革長老教会の憲法の下にあり、海を隔てた国の間で、同じ憲法を共有するユニークな形態での長老主義形成を営んでいます。北米大会には、日本も含めて七つの中会があり、教会数は約80、会員数は約6000人強です。さらに、日本中会は、北アイルランドの大会、スコットランドの中会、オーストラリア

の中会所属の改革長老教会とも親密な交わりがあり、国際信徒修養会への参加や、神学教師の派遣、夏期伝道における青年宣教チームの派遣と受け入れなどの交流の機会を得ています。

神戸市のカペナントー書店は、北米大会の管轄下にあり、戦後長らく日本のキリスト教文書伝道の一つの枝として、広く、改革派教会、長老主義の書物の販売に用いられてきたことも大きな恵みでした。ここから始まった宣教活動、バイブルクラス、礼拝が発展して、現在ある改革長老教会の礎が築かれました。聖書の頒布とキリスト教文書による教会教育活動と伝道へのビジョンこそが、日本の改革長老教会の発祥であったとも言い得るでしょう。

〈神戸神学館〉

教会教育活動の一環として、各個教会でのCS、中高生会、青年祈祷会での祈りと学び、成人クラス、バイブルクラスが典型的な例として挙げられます。中でもとりわけ、牧師養成機関として1996年に祈りの内に立ち上げられた神戸神学館は、いわゆる、「神学校（セオロジカル・セミナリー）」としてのみならず、むしろ、「セオロジカル・ホール」として、開かれた信徒のための聖書教育、教理教育のアドヴァンスト・コースとしての一翼を担っています。牧師としての召命を与えられる備えとしての意義も、着実な段階を経た準備教育の結晶であるとの考えからです。在籍する学生諸兄弟には、他教派からの出身者も多く、改革派神学の基礎を提供する場ともなっています。牧師志願者は、複数年

の修業年限の後、必要に応じて、北米ピッツバーグ市にある改革長老教会神学校の修士課程に進学できます。

牧師にならない女性信徒の方のキリスト教カウンセリングの学び等の研修例もあります。日曜学校、聖書クラス等の裾野から、セオロジカル・ホール、海外研修などへの可能性を国際的な交流の視野の中で持っていること、教会と信仰教育、それを支える神学的な教育の在り方を見つめる利点も与えられているということが大きな祝福であると、私たちは神様に感謝しています。

神学館では、一般信徒の為のコースがありますが、そこでは、日曜学校教師、長老、執事の研修、特に治会長老の説教免許過程の学びも提供しており、過去、3名の修了者が与えられています。教会教育の現場と神学校の橋渡しを聖書教育、教理教育の発展として教派的に位置づける試みとも言えるでしょう。一般に、献身者の不足を嘆く時代にも、クリスチャン・ホームの家庭教育、教会全体での地道な聖書教育の下地があって、次代の発展に結びつくという息の長い視点と行き方を選んでいると言えるかも知れません。

〈信条の適用—教会の祈りと誓約の実践〉

神学的強調点と実践においては、ウェストミンスター信仰基準に改革長老教会証言書、政治

基準、礼拝指針、訓練規定等が付加されて、教会生活全体を整える憲法が大会の下に構成されていて、これが教会活動の基礎となっています。特に教会教育や宣教活動においては、礼拝指針が重要な下敷きになっています。日曜学校、青少年教育、家庭礼拝、冠婚葬祭、牧会訪問などは、礼拝指針がその原則を伝えています。ただ、日本のような宣教地では、絶えず未信者への視点が英米以上に強く意識されますから、日本中会は、北米大会に対して、礼拝指針への日本的適用への答申を提出したり、改革長老教会証言書への付加を申請する等の努力を続けています。礼拝指針の中に、家庭礼拝の大切さ、安息日の礼拝の遵守が訴えられていますが、この点の実践、励行が大切な実りを生むと信じています。特に、中高生以上の年齢層の子供たちには、恵みの内に信仰の戦いが継続されている領域です。また、同時に、幼児洗礼の時の両親の誓約



五代目の子どもたち



改革長老教会連合青年修養会（キャンプ）



東須磨教会 CS 遠足

や、教会全体の愛と祈り、その契約の子供たちの為に捧げた誓約の内容が問われる面でもあります。現在、この祈りが聞かれて、実を結んでいる一例として、最初のクリスチャン（改革長老教会員）から数えて、五代目のお子さん（やしや孫）が、日曜学校、成人礼拝に続けて出席している家庭もあります。

〈教育活動の実例〉

今回の企画に寄稿させていただくに際して、幾つかの各個教会に教会教育の実情の実情について、資料の提出をお願いしました。典型的に良く組織化された会衆の場合には、次のような活動が報告されました。安息日の教会教育活動としては、子供クラス（幼稚科、小学生）、中学生クラス、高校生クラス、聖書入門クラス、成人クラス、平日には、婦人と高齢者を主な対象とした聖書の学びと祈りの交わりの会＝「ぶどうの木」、婦人会、男子会、婦人バイブルクラス、高校生バイブルクラス、特に高校生のバイブルクラスは、小中学の時代に比して、教会から足が遠のきやすい年齢層に対してのフォローアップでもあり、平日にも教会に来るきっかけともなっていたようです。

そして、この教会の場合、一時期、無牧であった時期にも、このクラス参加者から、三名の高校生男子が信仰告白をするという恵みにあずかりました。私自身、遣わされて、洗礼式の司式

をさせていただく中、大きな祝福と喜びにあずかりました。皆、幼い頃からの日曜学校以来の参加者でした。特に大切だと思われたのは、小さいころから、思春期、学校や対外活動が盛んになる時期にも、その年齢層の実情とニーズに即した（良く対象を理解した）働きかけと寄り添い方を、具体的なクラスの中で行っていたという点です。その内の一人は、まったく未信者の方の家庭から、一人で、日曜学校時代以来、教会に通い続けていました。

私が仕える東須磨教会では、礼拝の前に、成人クラスで、旧約聖書を信徒の方々が一緒に学び、長老のリードがあります。また、子供向けに、日曜学校（今は、幼児から小学校低学年までの子供たちが中心）があり、クリスチャン・ホームの子供たちと地域の未信者の方の御家庭からの参加があります。信仰告白希望者には、御言葉と教理を学ぶ〈信仰告白入門クラス〉があり、ここから、今年も信仰告白者（高校生男子）が一人、与えられました。希望者には、中学生から参加が可能です。このクラスには、すでに、洗礼を受けられた方の教理の学びのフォローを求めている成人の参加者も複数あります。平日、水曜日に隔週に婦人の聖書を学ぶ会（ルデヤ会）、第四安息日に、家長会、婦人会、青年会があり、随時、将来のクリスチャン・ホームの形成を祈る若い方々や、すでに結婚されて



東須磨教会クリスマス子供お楽しみ会



東須磨教会クリスマス子供お楽しみ会

いて、未信者の御主人を持たれる婦人の会があります。この会では、御主人への伝道や子供たちへの信仰継承について、近況を分かち合いながら、祈りの課題を共有します。そして、御言葉を学びながらその実情へのフォローを互いにしています。近く、家長候補の方々（青年男子）とも同様の祈り会、学びの時を持つ予定です。肝要な点は、同じ年齢層や、同様の課題を共有する層の方々との分かち合いと継続的な御言葉の学びを励行することだと感じています。

将来の家族伝道への実りを祈りつつ、期待しています。

〈地域伝道、未信者への宣教〉

地域伝道、未信者への宣教を視野に入れた取り組みに関しては試行錯誤がありますが、子供向けの英会話クラス、夏期学校、キッズ・ゲート、お楽しみ会、クリスマス時期の伝道集会（子ども向け）、などが試みられています。

〈教会学校テキスト〉

特に、日曜学校では、教会により、英文良書の翻訳を試みている例もありますが、既成の教案誌『成長』、手作りの紙芝居なども用いられています。今後の課題としては、独自の教育プログラムの成熟や教案誌の作成等が求められて来るでしょう。

〈成果と反省〉

契約の子供たちへの祈りと教育に、力を注い

できた反面、ある時期に教会を離れてしまって成人の年齢に至っている子弟に対し、今後も篤い祈りとフォローが必要と感じています。また、礼拝指針自体が、英米の事情を反映して、契約の子供たちへの幼児洗礼以後の導きや両親の誓約を中心に構成されている性格が強いと言えるかもしれません。そこから、さらに対外的にも視野を広げ、価値観の混迷する世界で、なお一層、未信者の家庭、個々人に届く働きかけが必要であると考えています。

〈祈りの課題〉

今後は、若い年齢層からのCS教師の確保、そのための養成が、教会教育そのものの中でも求められていくでしょう。また、学びのプログラムを考える上で、縦割りの多様化、伝道や教会奉仕に実を結ぶ為の励ましが必要と強く感じています。学びの喜びと祝福が自ずと実を結ぶことを期待しつつも、特に教会奉仕への献身を励まし、その心を養う場が必要であると思い、その実りへの主の祝福をお祈りしています。今後とも、貴日本キリスト改革派教会の教会教育への熱心と具体的な実践にも学びつつ、小さな歩みであっても主の前に、教会を愛し、教会に集う子供たちを愛し、主の御翼の陰で、共に成長する私たちの群れでありたいと願っています。

（北米改革長老教会日本中会東須磨教会牧師、
神戸神学館教授、神戸改革派神学校講師）

「主の祈り」研究

山中雄一郎（板宿教会牧師）

主の祈り①

天におられるわたしたちの父よ（マタイによる福音書 6章9節）

マタイ福音書の主の祈りは、山上の説教の中の祈りについての教えの中にあります。

主イエスは、信心を誇示するような祈りを避けて密室での祈りを命じた後（6:5～6）、主の祈りを教えられました（6:9～13）。主の祈りは共に集っての祈りの模範であるだけでなく、密室での祈りの模範でもあるのです。日々の祈りの生活に主の祈りを生かしたいのです。

また主イエスは、言葉数で神を動かし自分の願望を押し通そうとする異教的祈りを禁じられた後（6:7～8）、主の祈りを教えられました。主の祈りに導かれて祈るとき、私たちは自分の願望に固執する苦しい歩みから日々解放されるのです。実際、「父よ」との呼びかけは、愛の神への信頼へと私たちを呼び戻して、自分の願いに固執せず神に委ねることへと私たちを導きます。また、主の栄光、御国の到来、御心の実現を願う前半の三つの願いは、神を中心とする喜ばしい思いへと私たちを導いて、自己中心を放棄させます。そして、日ごとの糧、罪の赦し、試みからの救出を願う後半の三つの願いは、人間の真の必要を求めることへと私たちを導いて、眼前のことに夢中になり偏りがちな私たちの願いを、健やかなバランスの取れた願いへと修復します。主の祈りは自己固執的祈り、願望を押し通す祈りから、私たちを解放するのです。

主の祈りは、山上に集まった聴衆だけでなく、マタイ福音書の読者も祈るべき祈りの手本として記されています。その読者たちは主の十字架を知る人々です。ですから、主の祈りは、主イ

エスの十字架を心に刻みつつ祈るべき祈りです。

「父よ」と呼びかけてよい、と主イエスは教えられました。驚くばかりの恵みです。「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです」（ヨハネー3:1）。神の敵であった私たちを、神の子とするために、神様は御子を十字架に渡して私たちの罪を贖ってくださいました。「父よ」と呼びかけるたびに、私たちは十字架に現わされた限りない父の愛を思うのです。

この父は、不完全な地上の父と対比される「天の父」です。地上の父でさえ、子を愛し、子のために尽くすとすれば、天の父はさらに完全な愛で私たちを愛し、必要なすべてをくださるはずです（マタイ7:11）。

また、地上の父の不完全さを思うとき、天の完全な父に祈ることができることは恵みです。子を正しく愛せず、適切に守れず、地上の父は悲しみ、子も悲しむことがあります。天の父の愛は完全で、その御守りは適切です。深い信頼と喜びを抱いて、私たちは「父よ」と呼びかけるのです。

「わたしたちの父よ」との言葉は、兄弟と共に、また兄弟のために祈る人の言葉です。密室の祈り（6:5）だけが、真実の祈りなのではありません。神の目よりも人の目を重んじる過ちから自由であれば、兄弟姉妹と共に祈る私たちの祈りは主に喜ばれる真実の祈りなのです。そして、密室でも私たちは、「わたしたちの父よ」と祈り、兄弟姉妹のために執り成すのです。

主の祈り②

御名が崇められますように
(マタイによる福音書 6章9節)

主の祈りの最初の願いは「御名が崇められますように」です。

祈りの最初に「父よ」と呼びかけて、私たちは、私たちを子と呼ぶために神が注いでくださった驚くべき愛を思い起こしました。それに続けて私たちは、感謝と共に神を愛し、「御名が崇められますように」と祈るのです。

この祈りは、献身の心で献げる祈りです。

主イエスは、御自分の使命を自覚され、差し迫る十字架の深い苦しみを引き受ける覚悟を言い表されたとき、「父よ、御名の栄光を現してください」と祈られました(ヨハネ12:27～28)。「御名が崇められますように」と祈るとき、私たちはこの主イエスにならい、わが身のことよりも神の栄光を求める献身を表すのです。

けれども、これは祈りです。献身の決意表明ではなく、神への願いです。主イエスでさえ願いとして祈り、神の助けを受けました(ヨハネ12:28)。神の栄光を現す力のない私たちはなおさらです。この祈りにより、私たちは、御名の栄光が現れるように、ただ主に願い主に頼るのです。

伝道や信仰教育により、主の栄光を現したいと願うとき、私たちは、こう祈らずにられません。神様の愛と恵みはすばらしいのに、それを伝える私たちの力が弱いのです。その無力な私たちが主が力づけてくださり、私たちを用いて人々を信仰に導いてくださるよう願いつつ、「御名が崇められますように」と私たちは祈ってよいのです。

善き生活についても、わたしたちはこう祈っ

てよいのです。主イエスはこう教えられました。「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」(マタイ5:16)。私たちの善き生活により、人々が神様をあがめるようになる。これが私たちに与えられた課題です。この課題の前で自分の無力を思わされるときも、この私たちの生活がきよめられ、神様の栄光のために用いられるよう願いつつ、「御名があがめられますように」、と私たちは祈ってよいのです。

また、この祈りは、私たち自身が主の御名を豊かに崇める者となるように願うときにも祈る祈りです。

私たち自身、御名を崇める点で不十分です。神をほめたたえる心が弱り、神の愛を遠くに感じることがあります。そうとは思わないときでも、私たちの賛美は神の御栄光の豊かさに比べれば、貧しい賛美に違いありません。

そのようなことを覚えつつ、私たちは、この私の魂の目が開かれて神をさらに豊かに崇めることができるように、祈ってよいのです。すばらしい被造世界に目が開かれ、創造者であられる神の栄光を鮮やかに見ることができるよう、また、すばらしい神の救いの御業に目が開かれ、救済者であられる神の栄光を鮮やかに見ることができるよう、私たちは祈ってよいのです。

人の主な目的は神の栄光を現すことです。このいちばん大切なことについて、私たちは自分の力に頼らずに、神に頼るよう招かれているのです。

主の祈り③

御国が来ますように
(マタイによる福音書 6章10節)

主の祈りは、御名が崇められることを願った後に、主の御栄光が現れる具体的な道筋として、「御国が来ますように」と祈ります。

御国とは神の王国（神の王的支配）のことで、罪と悲惨の内に人間を閉じ込め、神の栄光を曇らせているサタンを打ち破って、恵みの神の御支配がついに世界を包むように、神様は御国を実現する御計画を立てられました。

この御国は小さな仕方で始まり、大きな姿で完成します。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」（マタイ13:31～32）と主イエスが教えられたとおりです。

福音書に見られる主イエスのお働きは、その小さな始まりでした。まだ、主イエスの周りという小さな範囲でしたが、そこでサタンの支配は打ち破られて、神の支配が現れました。主イエスが「神の国はあなたたちのところに来て」（マタイ12:28）と言われたとおりです。

やがて、主イエスは、十字架と復活の後、御自分が世界の支配権の一切を授けられたと宣言され、世界伝道を命じられました（マタイ28:16～20）。神の国の本格的開始です。人間を罪と悲惨の内に閉じ込めていたサタンの支配は、主の十字架と復活により完全に打ち破られました。十字架と復活を告げる世界伝道によって世界の人々は完全な罪の赦しを受け、サタンの束縛から自由にされ、神の支配に立ち帰る者とされたのです。神の国の大きな姿の現れです。

けれども、神の国はなお未完成です。罪と悲

惨がなお世界を覆っています。信仰者も、罪を悔いては犯す者であり、悲しみを味わっています。やがて世の終りに、御国は完成し世界は天国に変わります。罪と悲惨は世界から消え、信仰者は完全にきよめられ、神に完全に従うのです。そのときに、神の国の大きさがあますところなく現れます。

神の国のこのような進展の途上にいる者として、私たちは「御国が来ますように」と祈るのです。

主の十字架と復活により、今、神の国の恵みは、私たちに届いています。罪を赦されて義と認められ、神の子とされた喜びが始まり、心をきよめられて神と人を愛する心が芽生え育ち始めています。この恵みが私と兄弟姉妹の内さらに豊かに深められるように、霊的成長を願い、私たちは、「御国が来ますように」と祈ります。

また、さらに多くの人々が救われて、神の国の恵みにあずかるように、伝道の進展を願って、私たちは「御国が来ますように」と祈るのです。

さらに、私たちは世の終りにまで思いを向けて祈ります。そのとき神が力を振るって神の国を完成してくださり、私たちと世界とは新しくされ、罪と悲惨は完全に姿を消します。この日に希望を抱き、「御国が来ますように」と祈りながら、私たちは自分の罪と戦い、伝道と奉仕に力を尽くし、世界に広がる悪の力と戦うのです。

始まった神の国を感謝し喜び、なお残る罪と悲惨を悲しみ、完成の希望を抱いて、私たちは「御国が来ますように」と祈り続けるのです。

主の祈り④

御心が行われますように、天におけるように地の上にも
(マタイによる福音書 6章10節)

「御心が行われますように」との祈りは、「御国が来ますように」との祈りに続いています。神様の御心の中心は御国の実現です。私たちと世界に救いをもたらすこの喜ばしい御心を思いながら、私たちは「御心が行われますように」と祈るのです。

主イエスは、ゲツセマネで、「御心が行われますように」と祈って、神の国を実現される神の御心に自ら従い、十字架を引き受けられました(マタイ26:42)。主イエスの模範はあまりにも高すぎますが、私たちも、この祈りを祈るとき、神の国を実現される神の御心に自ら従うことを願うのです。

神の国の実現のために、神は私たちに何を願っておられるでしょうか。

まず、私たち自身が神の国の恵みにあずかることを神は願っておられます。神の愛を幼子のように受け入れ、神によって造り変えられて、神と人を愛する者となることです。「あなたの愛を幼子のように受け取らせてください。あなたと人々とを愛することができますように」。そのように日々祈るなら、この祈りは喜びの湧き出る祈りです。「御心を行いたい」との願いは、この喜びの中で強められるのです。

けれども、御心を行うことは、容易ではない面もあります。

第一に、私たちの知恵は不完全で、具体的な歩みの中で何が神の御心であるかを悟ることができないことがあります。

第二に、さらに深刻なのは、私たちの意志が

神の御心に従うことを嫌がることです。この祈りをする時、私たちは、人を愛し赦すことや、神の国の実現のために自分を献げることにについて、御心に抗おうとする自分に気がつくことがあるのです。御心に従うには戦いが必要なのです。聖なる主イエスがゲツセマネで血のしたたりのような汗を流して祈られたのなら、罪人の私たちはなおさら、汗をかきながらこの祈りを祈らなければならないことがあるのです。

しかも主の祈りは、「天におけるように、地の上にも」と教えています。自分の弱さに合わせず、本来の主の御心を尋ね求め、完全に主の御心に従うことを目指して祈るのです。

御心に従うことの困難を思うとき、このようなことについて、神に願い求めて良い、と許してくださった主の祈りは恵みです。私たちは自分の力で、人を愛したり、赦したりできません。自分で自分の願いや望みを打ち砕いて、神に従う心を作ることはできません。「御心が行われますように」。これは、私たちの決意表明ではなく、神様への切なる願いです。「神様、どうぞ私を造り変えてください。私の願いをかなえてくださって、兄弟姉妹を心から愛することが出来ますように。心から赦すことが出来ますように。御国が実現するためにあなたが求めておられる働きを少しでも豊かに行うことが出来ますように」。そう私たちは祈るのです。そう祈って良いのだ、と主イエスは励ましてくださいました。

そして、この願いを許してくださった神様は、実際に私たちを造り変え、御心を行う力を増し加え続け、世の終りに完成してくださるのです。

主の祈り⑤

わたしたちに必要な糧を今日与えてください
(マタイによる福音書 6章11節)

主の祈りの後半は、「わたしたち」の必要について祈る三つの祈りです。その最初は糧（パン）についての祈りです。

主の祈りは、最初の聴衆だけでなく、教会の全員が祈るべき祈りの手本として記されています。そう理解するなら、パンについての祈りは一般化して受け止めてよいと思います。食べ物で代表されていますけれども、これは、着物や健康や仕事や経済状態など、私たちの生活の必要についての祈りです。

キリスト者でなくても本能的にするこの祈りを、私たちはキリスト教信仰を表して祈ります。

第一に、この祈りにより、私たちは神への信頼を言い表し、育てます。祈りの初めに「父よ」と呼び掛けた神は、求めない先からすべての必要を御存知の方であり（マタイ6:8）、生活の必要を「切に求める」異邦人の不安から私たちを救ってくださる方なのです（マタイ6:32, 33）。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」と主イエスは言われました（マタイ4:4）。イスラエルがマナを通して学んだこの教訓（申命記8:3）を、私たちは、この祈りを祈りつつ、学んでいくのです。

父なる神への深い信頼から祈り、祈ることでさらに深い神信頼を私たちは学ぶのです。

第二に、この祈りは主に栄光を帰す祈りです。主の祈りは、最初の三つの祈りで神の栄光を求めました。その思いを持ち続けつつ、「必要な糧を今日与えてください」と祈るのです。

神は、悪人にも異教徒にも太陽と雨を与え、食物を与える方です（マタイ5:45; 使徒

14:16）。私たちも神様を信じる前は、祈らずして神から食物を受けていたのです。主を信じた私たちはそのような態度を改め、これからは、祈りながら神の恵みを頂くのです。そのようにして、私たちが養ってくださる神に栄光を帰すのです。

神に感謝して食べるなら、その人は、神のために食べている、神のために生き、死ぬんだ、とパウロは言いました（ローマ書14:6~8）。パンのために日々祈る人が、この感謝をするのです。

今までは、自分の手で食べ、自分の手で健康を保ち、自分の力で進学し、就職し、仕事をし、来たように生きていた人が、主イエスを信じた時から変わります。自分は実は生かされて来たのだ、養われて来たのだ、と知ります。そして、私を養い、生かしておられる主の御手に驚き、主に栄光を帰し、主に感謝するのです。

パンのために祈るクリスチャンの祈りは、この点で、特別の祈りなのです。

第三に、この祈りは兄弟姉妹を愛する祈りです。私たちは、「わたしに必要な糧」ではなく、「わたしたちに必要な糧」を祈り求めるのです。

主の祈りに導かれて、私たちは兄弟姉妹の生活の必要のために祈ることを訓練されるのです。パンのことだけでなく、健康のことも、仕事のことも含むなら、私たちは、常に祈禱課題を与えられていると言ってよいでしょう。パンのための祈りは、単純に本能的な祈りではなく、キリストから与えられた兄弟愛を現す信仰者の祈りなのです。

神を信頼し、その栄光を求め、兄弟姉妹を愛しつつ、私たちはこの祈りを献げるのです。

主の祈り⑥

わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように
(マタイによる福音書 6章12節)

日々の糧を願う祈りに続くのは、罪の赦しを
求める祈りです。罪の赦しの願いは、特別の日
に限らずに、日々祈るべき事柄なのです。

罪の赦しを日々祈るなら、私たちの日々の
歩みは豊かです。

第一に、罪の赦しを祈って、それを受けると
き、私たちは、神の怒りの下にある悲惨から救
い出されます。私たちの人生を覆う最も恐ろし
い暗雲から日々自由にされるのです。

第二に、罪の赦しを日々祈るとき、主イエ
スの十字架の大きな愛はいつも生き生きと私
たちに届きます。そうでなければ、十字架の愛は
ぼやけて分からなくなるでしょう。

第三に、罪の赦しを日々祈る時、私たちは、
本当の意味の謙遜に導かれます。自分の落ち度
は認めず、人の落ち度ばかりを責め立てる高慢
は誰でも陥りやすい過ちです。罪の赦しを日々
祈るなら、この過ちから救われるのです。

第四に罪の赦しを日々祈って、それを受け
る時、のびのびとした自由が魂を訪れます。自
分を責め続ける辛さからも、弁解を続ける苦し
さからも、人目を気に病む辛さからも、私たち
は自由にされ、のびのびと生きる力を与えられ
るのです。

ヨハネは、「自分に罪がないと言うなら、自ら
を欺いており、真理は私たちの内にありません」と
教えました(ヨハネ1:8)。誠実に自分を見
詰めるなら、だれでも罪に気づくはずです。

神の前に静まり、自らを省みる時を日々取り
、罪の赦しを願い求めたいのです。

「私たちに負い目のある人を赦しましたよう
に」という言葉は、私たちが赦される根拠を言
う言葉ではありません。赦しの根拠はただ一つ、
主の十字架だからです。

けれども、私たちが罪の赦しの恵みにとどま
るためには、人の罪を赦すことが必要なのです。

マタイ福音書で、主は、このすぐ後にこう言
われます。「もし人の過ちを赦すなら、あなたが
たの天の父もあなたがたの過ちをお赦しにな
る。しかし、もし人を赦さないなら、あなたが
たの父も、あなたがたの過ちをお赦しにならな
い」(マタイ6:14,15)。また、ルカ福音書の主
の祈りでは、「負い目のある人を赦しましたよ
うに」ではなく、「負い目のある人を皆赦しま
すから」です(ルカ11:4)。人の罪を赦したこ
とが、自分の罪の赦しを願う理由になっている
のです。

私たちは、人の罪を赦したことの報賞として、
神から罪を赦していただくわけではありません
が、罪の赦しの恵みを受け続けるためには、人
の罪を赦さなければならないのです。主イエ
スはこのことを明快な譬で示されました(マ
タイ18:21~35)。神の前での私たちの罪は大き
く、主の十字架によるほかに赦されないほどで
した。それほど大きな罪を赦された私たちが、
人々から受けた小さな悪を赦さないなら、神の
大きな赦しは取り消されるのです。

罪の赦しを日々願うなら、味わうならば、人
の罪を赦す心は必ず始まります。完全でなくとも
その心が始まっているなら、神からの赦しそ
の人の心から取り去られることはないのです。

主の祈り⑦

わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください
(マタイによる福音書 6章13節)

主の祈りは罪の赦しを祈ったあとに、誘惑から守られ、サタン（悪い者）の力から救い出されるように祈ります。罪の赦しの恵みを受けた後に、これからは罪を犯すことがないように、と祈り求めるように、主は教えられたのです。

主イエスは、重い罪を犯した人に言われました。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」（ヨハネ8:11）。罪を赦してくださる主は、私たちが罪と戦い打ち勝つことを期待し、求め続けてくださるお方です。この方の恵みと期待に応えて、私たちは、罪の赦しを祈ったあとに、「悪い者からお救いください」と祈り、罪の力と戦うのです。

私たちは日ごとに罪を犯します。罪を赦された後、罪の力と完全に訣別できないのです。主の祈りは、そのような私たちに、繰り返し、罪の赦しと罪の力からの救いを願い続けるように教えています。罪の赦しの恵みの中で、私たちは生涯に渡って、罪と戦うことができるのです。

罪の赦しと罪の力からの救いは、神の国の恵みの中心です。罪を赦されて初めて私たちはサタンの支配から救い出され、神に支配していただく身とされました。その神の御支配は、私たちを悪の力から救出することで現わされます。実際、小さく不完全であっても、私たちの内に、神と人を愛する願いは始まっています。罪を赦され、悪の力から逃れ始めているしるしです。「御国が来ますように」と祈った私たちは、神の国の恵みが始まっていることに感謝しながら、罪の赦しと悪の力からの救いを願うのです。

この祈りは、主の祈りの最後に置かれています。祈りを閉じるときの願いです。祈りの時は生活の中で霊的に最良の時です。しかし、祈りを閉じるとき、私たちは現実生活に引き戻されます。祈りを終えてわずかの時間の内に、怒りの衝動、狡猾への誘惑、悪い欲望の刺激、神の愛への信頼を揺るがす苦難など、様々な誘惑が、私たちを神様から引き離そうとします。ですから、祈りを閉じて現実生活に戻るとき、私たちは、神様が誘惑から守ってくださり、悪魔の力から救ってくださるように祈るのです。

けれども、この祈りは聞き届けられる祈りなのでしょうか。私たちは日ごとに試練と誘惑に遭い、祈ったのに聞かれない体験を繰り返しているのではないのでしょうか。

しかし主は、このように祈れと励ましてくださいました。これは聞かれる祈りなのです。

「誘惑」は、「試み」「テスト」とも翻訳することができる言葉です。この祈りは、苦難や快樂等々により、私がテストにさらされて、罪と弱さの実態があらわにされることがありませんように、との祈りです。

十字架の前夜、ペトロがサタンにテストされたとき、彼は、主イエスの執り成しの祈りによって完全に守られていました（ルカ22:31,32）。彼は本当の意味のテストからは守られていたのです。主は試練と共に逃れる道も備えてくださいます（コリント一10:13）。この主に信頼して、私たちは、この願いを神に祈り求めるのです。

主の祈り⑧

国と力と栄えとは限りなく汝のものなればなり、アーメン

主の祈りの結びの言葉は、マタイ福音書の主の祈りにはありません。多くのギリシャ語写本にありましたので、古い英訳聖書にも印刷されていますが、研究が進んで、元々のマタイ福音書にはなかったと結論されています。

けれども、多くのギリシャ語写本にあるのは、この言葉が教会によって受け入れられて来たことを現しています。教会の非常に古い文書である「十二使徒の教訓」にも似たような結びの言葉がありますから、教会は最初から主の祈りを結びの言葉を加えて祈っていたのかも知れません。イエス様の頃は、お祈りの最後にこのような結びの言葉を加えるのは普通のことでしたから、イエス様御自身、御自分が教えられた主の祈りにこのような結びの言葉がつけられることを予期しておられたかも知れません。

いずれにせよ、この結びの言葉は、主の祈りの内容にぴったりの言葉ですし、主の祈りを実際に祈るときにはある程度の自由が許されたのでしょうから（ルカ福音書の主の祈りはマタイ福音書とかなりの点で違っています）、私たちも代々の教会と共に、この結びの言葉を加えて祈ってよいのです。

この結びの言葉は、主の祈りにある六つの祈願を捧げる理由を言い表すことで、祈りの終りに神様をほめたたえようとしています。

国（神の国＝救いの完成に向かって世界と歴史を支配される神様の権能）と力と栄えとがいつまでも神様のものであることが、六つの祈願を献げる理由です。

このように理由を語ることによって言い表されている第一のことは信頼です。救いに導く神様の御支配、全能の御力、愛にも知恵にも欠けることのない神様の栄光（すばらしさ）に信頼して、私たちは祈りが聞かれることを確信し、主に期待しつつ祈るのです。

第二のことは、神への賛美です。私たちの真の必要のすべてについて神様に願いを捧げることで、神様こそ、これらすべてを満たして下さる力と栄光にあふれた支配者であることを言い表すのです。

主の祈りは前半の三つの願いで神様の栄光・御国・御心に関して祈り、後半の三つの願いで私たちの必要について祈ります。それは、最初に神様のために祈り、次に私たちのために祈るということではありません。神様の栄光と私たちの喜びとは深く結びついているのです。

主が御名をあがめさせてくださり、御国を来たらせてくださり、御心を行わせてくださることが、私たちにとり限りない喜びです。そして、日々のパンと罪の許しと試練からの救いという私たちの真の必要のために神様に頼るとき、私たちは、神様に栄光を帰しているのです。

すべての祈願を献げたあとに、この結びの言葉を祈って、私たちは、このことを言い表すのです。

主の祈りの結びは「アーメン」（真実に）という言葉です。主の祈りを言葉のとおり祈るときにも、この祈りに導かれて自分の言葉で祈るときにも、心を注ぎ出して祈り、「アーメン」と心から唱えて祈りを閉じたいのです。

副読本のご案内

『主は羊飼―中高生のための教理入門―』

価 格 800円

著 者 木下裕也

(名古屋教会牧師・教会学校教案誌編集員・神戸改革派神学校講師)

ぜひお買い求めください。ご注文は教案誌編集部まで。

● 人生の目的―神礼拝

もうかなりのお年になってから教会に連れ始められた方と聖書の学びをしていたときのことです。そのときたまたま一緒に、ウェストミンスター小教理問答の問1を読みました。その問いは「人のおもな目的は何であるか」です。

この問いを読まれて、その方はつぶやくようにおっしゃいました。一わたしはもう何十年も生きてきたのに、人生のほんとうの目的などということを考えたこともありませんでした、と。

人生の目的とは何か。このことをはっきり知っているのと、知らずにいるのとでは、やはり生きかたが大きくことになってくるのではないのでしょうか。

さまざまなことが人生の目的になり得ます。お金をもうけること、地位や名誉を得ること、仕事で成功をおさめること、熱烈な恋愛をすることなどです。これらのことは人生にある幸せをもたらすでしょう。

けれども一方で、そのどれもが不確かです。お金は一瞬にして失われることがあります。地位や名誉を得たとしても、たった一度のあやまちでそのすべてを禱にふることもあります。熱烈な恋もさめることがあります。とすれば、これらはいずれも人生の究極の目的とはなり得ないでしょう。

さらに、私たちの命そのものも不確かなものです。明日この地上に生きているという保証を、私たちはだれひとり持たないのです。

では、私たちはついに人生の確かさ、人生のほんとうの目的を見出すことはできないのでしょうか。

いいえ、私たちは人生の真の目的を知ることができます。ほんとうに確かで、生きがいのある命と人生を生きることができるのです。

もういちどウェストミンスター小教理問答の問1を見ましょう。

問 人のおもな目的は何であるか。

答 人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

もうひとつ信仰問答を見ましょう。ジャン・カルヴァンの手になるジュネーブ教会信仰問答の問1はこうです。

問 人生の目的は何ですか。

答 神を知ることです。

人生の目的は神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜ぶことにあります。すなわち、神さまを礼拝することこそが人生の真の目的なのです。

人生の確かさは私たち自身の中にはありません。私たち自身何かを頼りにしているかぎり、私たちの人生は不確かです。

けれども神さまは確かなお方です。神さまこそ私たちの人生のゆるぎなき土台、岩、命のとりです。なぜなら神さまは天地の造り主であられ、私たちの命の与え手であられ、この世界のいとなみと私たちの人生の歩みのすべてをみ手のうちに握っておられるお方だからです。

『教会学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあげます。

中部中会日曜学校委員会（2007年4月中部中会第一回定期会で教育委員会から改組）は、日本キリスト改革派教会をはじめとする改革・長老主義諸教会の教会学校・日曜学校教育に資することを目的として、『教会学校教案誌』を発行しています。2001年4月に始まり、すでに満9年となり、第36号まで発行して参りました。中部中会では7割ほどの教会により採用され、改革派教会全体でもおよそ60教会で採用されています。大会教育委員会もご支持を表明してくださっています。皆様のご支援に心からの感謝を申し上げます。

『教案誌』の発行は中部中会の事業として行われておりますが、中部中会日曜学校委員会では、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願っています。子どもたちの信仰教育のために、ぜひ皆様からのお祈りと募金のご支援をいただきたく、よろしく願い申し上げます。教案誌を購入していただきやすくするために、教案誌の頒布価格を印刷・製本単価ぎりぎりにおさえています。『教案誌』をご購入くださることも発行のための支援となりますので、ご購入いただくことによってもご支援くださいますよう、お願いいたします。

目標金額 30万円／年

送金先 郵便振替 伊藤治郎

00890-2-148183

※通信欄に「教案誌のための自由募金」と明記してください。

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

詩編の中で最も愛されてきた、主なる神への静かで揺るがない信頼を飾らない文体で謳い上げる美しい詩。形式からは「個人の嘆きの歌」に属する「信頼の歌」へ分類されるが、本詩は先行する22編の続きであり、その嘆願に対する主の答えとして意味をもつ。「遠くにいないでください」と願った「わたし」が、今、「まことにあなたが共にいる」との信頼に導かれる。「羊飼い」の隠喩は福音書でキリストにも適用されて、キリスト教会における主要なイメージとして定着している。日本文化と牧羊者との関係は殆ど無いので、我が国で本詩が愛好されるのも不思議といえぬ不思議。

1～5節で描かれる、羊飼いに導かれる羊の表象は、トローラー（五書）に描かれる荒野の旅を背景とする。「欠けることがない」という訳では個人的な資質の問題とされかねないが、直接的には水や食料が底をつく経験に対応する（もっとも、本詩の心理的な解釈を否定するわけではない）。ここで「わたし」は良い羊飼いに養われる群の一匹である。広々とした青草の原で身を伸ばして横たわり、悠々と草を食む。また、水辺に導かれて喉を潤し、息をつく（2節）。それによって心も体もリフレッシュするのだが、さらにわたしは「義の轍（わだち）」に導かれる。「轍（わだち）」とは人生を指し、神の義に生きる生き方に歩み始めることを意味する。これはイスラエルに対するモーセ律法の授与を考えればよい。ここまでで一つの重要な使信に至る。即ち、主なる神によって自由へと解放された「わたし」が充分に魂を養われて命を吹き返し、生きる指針である律法を与えられて、「御名のために」生きはじめる（3節）。これは「イスラエル」の歴史的経験に基づく救いのかたちを示す。

4節・5節も律法を与えられたイスラエルの信仰を明らかにする。4節は「死の陰の谷」と翻訳されて来たが、元の語は「暗い谷間」。「陰府」の

暗喩として訳出すれば、次行に表れる「災い」も「悪」としてよい。象徴的な表現と初めから見なさずとも、4節が全体として人生の暗夜に適用されることは詩人の念頭にあったことと思われる。5節の「鞭・杖」は主の力・権威を表すが、懲らしめをも示唆する。それで、御言葉が「鞭・杖」と見なされる。それらは私を元気づける源であるが、「元気づける」は他の箇所では「慰める」（イザヤ書40章1節など）とも訳される。

6節・7節では場面が変わり、おそらく神殿が舞台である。6節の描写は、敵に取り囲まれながらもエルサレムの神殿で祭りが行われ、犠牲が薫り高くささげられている様子を想起させる。「頭を油で潤す」のは、いわゆる「油注ぎ」ではなく、火急の危機に直面しても食卓が準備され、髪には油がさされ、杯には酒が満たされて祝宴が開かれている風景の一部をなす。そこで泰然としている「わたし」は、やはり王が相応しい。

7節では祝福の成就が歌われ、締めくくりに終末的な希望が語られる。「追ってくる」とは通常は敵のことだが、ここでは事態が逆転して神の幸せ（よきもの）と慈愛が迫ってくる。続く「主の家」は神殿であり、これも現実に神殿を住まいとすることより、主の臨在に憩うということを目指す。もっとも、ここにも終末の来るべき神殿のような黙示的な幻を想定することは可能であろう。しかし、こうした生涯に渡っての主の伴いを感謝できるのは、「主が共におられる」覚醒に至ったからであり、生きるべき指針が御言葉において備えられているからである。「主の家に住む」は読み替えて、原語の通りであれば「主の家に帰る」となる（文法的に違和感があるため、「住む」と読む注解者が多い）。「帰る」とはエルサレムへの帰還を指す場合が多く、同時に悔改めをも表す。そこからすれば、本詩は信仰を通して主に立ち返った者の魂の平安を歌うものとして、時代と状況を越えて、主にある民の歌となる。

（牧野信成）

(単元のねらい)

新年最初の説教に、もっとも広く愛唱されている詩編のひとつである、詩編23編が選ばれました。この詩編を通して、私たちは、慰め、励まし、安心、勇気、喜び……など、神様のさまざまな導きをいただけますので、いろいろな角度からお話を準備することができますと思います。どのように語るとしても、今年も主イエスさまがいっしょに歩んでくださることの喜びとその誇らしさに、子供たちとともにあずかることができたら、すばらしい新年のスタートをきれることになるでしょう！こども礼拝における主の御臨在と御言葉の力に信頼して、語っていきましょう。

(関連こどもカテキズム：問1、3、13、14、33、34、など)

(ポイント)

聖書 1～4節の「羊飼いのたとえ」。特に1節に集中。

カテキズム 問35

対象 小学3、4年。小学下級以下は下記「ねらい」の①②に絞った方がよいと思われます。

ねらい ①ひとつひとつの言葉（「主」「欠けることがない」「羊飼い」）の意味を理解できるように。

②羊飼いの、羊にかける愛をとおして、主イエスの愛に思いをはせることができるように。

(羊飼いの仕事については、ヨハネ10:7～、ルカ2:8、サムエル上17:34～など)

③作者ダビデの苦難と祝福を知ることができるように。

④カテキズム問35を引用して、歌いつつ歩むことができる歩みに心開かれるように。

(推薦さんびか)

「ひとりひとりのなをよんで」(『幼児さんびかⅡ』)

「主イエスのひつじ」(『こどもさんびか』)

「私の牧者」(『新しい歌を主に』、尾上聖愛教会、いのちのことば社)

「ハ、ハ、ハ、ハレルヤ」(『子どもリビングブレイズ』、ノア)

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

「イエスさまは羊飼い」

みなさん、あけましておめでとうございます。

①1節について

「主は羊飼い。私には何も欠けることがない。」

さきほど司会者に読んでいただいた、最初の聖書のことばです。主とは誰ですか？ まことの神様、私たちの大好きなイエスさまのことですね。「何も欠けることがない」って書いてあるけどこれは「ぜったいあんしん！」という意味です。主イエスさまが羊飼いなら、私たちは、何にたとえられますか？ そうです。羊ですね。

②羊飼いのお仕事

この詩を書いた人はダビデという人です。ダビデは、少年のころ羊飼いでしたから、羊飼いのお仕事がどんなに大変かよく知っていました。羊飼いはたくさんの羊の一匹一匹の名前をおぼえます。そして一匹でもいなくなれば探します。また、突然岩のかけからライオンやオオカミが飛び出してきて羊をたべようとする場合があります。そんなとき、羊飼いは命がけでライオンやオオカミと戦って、羊を守ります。夜は特に大変です。羊たちを守るために、羊飼いは寝ないで見張りをしま

す。何キロも歩いて、羊たちをおいしい草のあるところへ連れて行かなければなりません。羊にとって、羊飼いは守ってくれる人、ごはんをくれる人、とても大切にしてくれる人です。イエスさまは羊飼い、私たちは羊です。だから私たちにとってイエスさまは、守ってくれる人、ごはんをくれる人、とても大切にしてくれる人なのです。

③ダビデの苦難

どうしてダビデは、神様のことを「主は羊飼い」と歌ったのでしょうか。じつは、ダビデには、くらしいことやかなしいことやこわいことがたくさんありました。たとえば、ダビデを殺そうとしたサウル王から追いかけられました。なかよしのヨナタンとのつらいお別れがありました。生まれたばかりの赤ちゃんが死んでしまいました。ほかの息子に裏切られました。ほんとうにたくさんつらいことがありました。でも、どんなときでも神さまから守られ、慰めを受けたので立ち直ることができました。だからダビデは神さまのことを羊飼いのように思ったのです。そして、「私には何も欠けるところがない」つまり、「私はぜったいに安心だ!」と歌うことができたのです。詩編は歌です。ダビデはこの詩編の言葉にメロディーをつけて歌っていたかもしれませんね。

④歌いつつ歩もう!

子どもカテキズム問35にこう書いてあります。

問35 どこを目指して歩むのですか。

答 イエスさまが再び地上に来られる再臨の

日、天の国を目指して歌いつつ歩みます。

私たちは歌いつつあゆむことができます。いいかえれば、歌いつつ生きることができるのです。自然と口から歌が出てくるときはきげんがよいときとか、うれしいことがあったり、たのしみがあるときですね。

でも、うれしいことやたのしいことばかりおきればいいけど、かなしいこと、くやしいこと、つらいこと、いやなことだつてきつとおきますよね。そんなときは歌えないですね。おちこんだり、泣いたり、怒ったり……。でも忘れてほしくないことがあります。それは、イエスさまは羊飼いのように、いつもみなさんひとりひとりの名前を呼びつづけてくださるということです。「〇〇よ、私のもとに来なさい。△△よ、私のもとに来なさい。やすませてあげよう。」と。みなさんは羊飼いであるイエスさまについていけますか。へんなおじさんにはついていってはいけませんよ。でも、私たちのために十字架の上で命を捨ててくださったお方が呼んでくださるのです。私はついていきたいと思います。どうやってついていけばいいですか? お祈りすればよいのです。疑わないで、こうお祈りしましょう。「はいイエスさま、ついていきます。」そうすれば、たとえ悲しくなっても、おちこんでも、立ち直って、また歌いつつ歩き出すことができますよ。

もう一度聖書のことばをみんなで読みましょう。「主は羊飼い。私には何も欠けることがない。」

(山口英俊)

[今週の暗唱聖句]

詩編 23編1節

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。



〈ねらい〉

神様が共にいてくださることを、子どもたちが知り、安心して新しい一年を歩み始める。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

スペースが許せば、テーブルの周りなどをいっしょに歩きながら歌う(この場合、歌うのは大人中心)。大人が二人以上いれば、トンネルを作って子どもたちをくぐらせて、最後にだれかを捕まえても楽しい。どんどんスピードを早くすると、子どもたちは大喜び。

※楽しく動き回った後は、静かにお話を聞ける姿勢になれるよう、静と動のメリハリをつけることがポイント。

〈おはなし展開例〉

みんなはお正月どんなことをしたかな? おもちをたべた? たこあげしたかな? スキーに行った? お年玉もらった? おいしいものいっぱい食べたかな? お正月は楽しいね。じゃあ、どうしてお正月はみんなでお祝いするのかなあ?……それは、新しい年に変わったからだね。2009年が終わって、2010年が始まったんだよね。だから、お祝いするだけじゃなくって、お正月はこんなお祈りもするんだよ。「神さま。2009年がぶじにおわってありがとうございます。2010年もわたしたちをおまもりください。」

きょうのれいはいで、神さまは、羊さんといっしょにいる羊飼いさんのようですよっていうおはなしをきいたね。ひつじさんは、とおくのものが見えないんだって。近くのものしか見えないから、

おいしい草をいっしょうけんめいたべているうちに、迷子になっちゃうことがあるんだって。でも、「こっちだよ」ってつれてかえてくれる羊飼いさんがいれば安心だね。

わたしたちも、羊飼いさんのような、神さまがいつもいっしょにいてくれるから安心です。

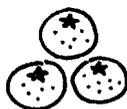
2010年はどんなことがあるかな? みんな一つおにいさんおねえさんになるね。〇〇ちゃんは、小学校に入るんだよね。楽しみだね。△△くんは、お母さんのお腹に赤ちゃんがいるから、おにいちゃんになるんだよね。楽しみだね。うれしいことが色々あるとき、神さまがいっしょにいてよこんでくださるんだよ。だから、「かみさまありがとう」ってお祈りしようね。神さまは、みんなに必要なものを知っていて必要な時にくださるんだよ。だから何でも神さまにお祈りしようね。そして、みんなやみんなのおとうさん、おかあさんを、きけんなことから守ってくださるんだよ。だから、安心して新しい一年も神さまといっしょに歩いていこうね。

〈あんしょうせいく〉

「主はひつじかい、わたしには何も欠けることがない」。詩編23編1節

〈お祈り〉

天のおとうさま。2009年もぶじに守られて元気にすごせたことをありがとうございます。2010年も元気に過ごせますように。うれしいときも、かなしいときも、神さまがいっしょにいてまもっててください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

新しい年が始まりました。今年も主が共にいてくださり、色々なことがあったとしても、神さまがすべてを守り導いてくださることを知りたいと思います。

〈展開例〉

新しい年を迎えました。今年も神さまと一緒に歩んでいきましょう！

「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない」(1)。

この御言葉の詩をつくったのは、イスラエルの王様であったダビデです。ダビデは、イスラエルの歴史の中で最も素晴らしい王様であると言われました。

周りの国々を治め、イスラエルを強力な国として建て上げた王様です。彼の周りには多くの兵隊がおり、多くの部下がおり、イスラエルの歴史の中でダビデ以上の王様はいないと言われていました。

しかし、そんなダビデですが、様々な苦難にあり、色々な失敗をしました。自分の前の王であるサウルに憎まれ、追いかけて、敵国に身を隠さなければならないようなこともありました。自分の息子に刃をもって追いかけて、命からがら逃げ出したこともあったのです。また、バト・シェバという人と不適切な結婚をしたこともありました。

彼は、イスラエルに神殿を建てようとした。しかし、「ところが主の言葉がわたしに臨んで、こう告げた。『あなたは多くの血を流し、大きな戦争を繰り返した。わたしの前で多くの血を大地に流したからには、あなたがわたしの名のために神殿を築くことは許されない』」(歴代誌上22:8)

と、聖書が言っていますように、イスラエル王国に神殿を建てたのは、結局、ダビデではなくて、その息子ソロモン王だったのです。

このダビデの人生をひと言で言い表せば、それは波乱万丈の人生、本当に色々なことがあった人生であるということができると思います。良いこともありました。悪いこともありました。でも、神さまが良いことを通しても、悪いことを通しても働いてくださって、すべてを一番良い方向に導いてくださったのでした。

ダビデはもともと羊飼いでしたから、羊飼いが羊をどのように導くかよく知っていました。その昔の自分の姿を思い出しながら、ダビデは自分の人生を振り返って、「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない」(1)、このように告白をしたのです。

今年も新しい年の幕が切って落とされました。今年、神さまは、私たちの人生に、毎日の生活に、どのようなことをしてくさるでしょうか。どのようなことがあったとしても神さまは、羊飼いが羊を守り導くように、私たちを守り導いてくださるのです。

今年も神さまを見上げて、歩んでいこうではありませんか。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、新しい年が始まりました。今年もきっと色々なことがあると思いますが、羊飼いである神が私たちを導き、すべてを満たしてくださることを信じます。どうぞ今年も神さま、あなたと共に歩むことができますように導いてください。イエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。

〈ねらい〉

神様のお導きを感じて、感謝して歩む者となりましょう。

〈展開例〉

一緒に詩編23編を朗読しましょう。

1. 主とは誰ですか？

2. わたしとは誰ですか？

ダビデですが、主はダビデにだけそうして下さったのでしょうか？

私たちにも同じ恵みを与えてくださいます。

「わたし」のところに自分の名前を置き換えて読んでください。

ダビデと同じように主に愛され導かれていることが解るでしょう。

3. 年の目標はきめましたか？

教会の目標 学校などの目標

書いてみましょう。

発表しましょう。

4. お互いの目標のために祈りあいましょう。

〈祈り〉

天の父なる神様、私たちに新しい年を迎えさせてくださり感謝します。今年も様々な出来事に出会おうと思いますが、どんな時もイエス様のもとに戻って感謝して歩めますよう、お導きください。アーメン。



〈ねらい〉

- 主がどのように私たちを守り導いてくださるか学ぶ。
- 新しい一年も主と共に歩むことを決意する。

〈展開例〉

質問1 1～3節で、主は、私をどのように扱ってくださるとあるか。

質問2 4節で、私はなぜ死の陰の谷を行くときも災いを恐れないのか。

質問3 5節の、私を苦しめる者を前にして食卓を整えてくださるとはどういう意味か。

質問4 6節の、恵みと慈しみはいつも私を追うとはどういう意味か。

質問5 なぜダビデは主を羊飼いに例えたのだと思うか。

まとめ

この有名な詩編の作者であるダビデは、王として油注ぎを受ける前には、羊飼いで働いていた。羊飼いは、猛獣などの敵が弱い羊たちに襲いかかろうとする時には、自分の体を張って羊たちを敵から守る。主は、同じように、弱く愚かで、自分たちの力では救いを得ることができない私たち人間のために、独り子イエスを犠牲にして私たちのために救いの道を拓いてくださった。

ダビデは、主を羊飼いに例えて、そのケアが完全であるがゆえに、私たちは何も欠けることがな

いと歌う。青草や水は、羊にとって食物であり欠かせないものであるが、それらが豊かなところへと主は導いてくださる。そのように主は、私たちの魂に必要な糧を備えてくださり、養ってくださるのである。

主は、私を正しい道に導かれる。その過程でたとえ命の危険を感じるような、死の陰の谷を歩むことがあっても、主が共にいてくださるおかげで、私は災いを恐れることがない。主が必要な助けをいつも与えてくださるからである。時として、主は私たちを戒めるために、鞭や杖で懲らしめられる時もあるが、それは一時悲しいものではあっても、必ずそれによって私たちは成長することができる。たとえ、私たちを憎み苦しめる者が目の前にいても、主は、私たちを守り、必要を備えてくださる。それは、あたかも王の宴会のような豊かさだ。主の恵みと慈しみは、生きている限り、私たちにいつも迫ってくる。恵みと慈しみが水であふれる川のような豊かさで私たちに迫ってくるのである。

新しい一年が与えられたことを主に感謝したい。この一年も主と共に歩み、主に従う者に約束された守りと祝福を豊かに受ける者とさせていたきたいと願う。

〈祈り〉

神様、私たちに新しい一年を与えてくださって、ありがとうございます。この一年も、私たちを愛し導いてくださるあなたと共に歩み、豊かな守りと祝福をいただけるようどうかお導きください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



テキスト ルカによる福音書 11章1〜4節

〈祈りの手本〉

「祈りを教えてください」。いわば、祈りのベテランであるはずのユダヤ人の弟子たちは、あらためて「祈り」を教えてくださいと願いました。主イエスとともに生き、祈りをしながら、そこに異質なものを覚えたからです。そこで与えられたのが、「主の祈り」でした。これは祈りの中の祈りです。なぜなら、この祈りは、人となりたもうた主イエスが地上で祈られた祈りそのものだからです。第二に、「このように祈れ」と、祈りそのものと祈りの言葉を教え命じられたものだからです。祈りの神髄、お手本です。

〈主の祈りの内容〉

六つの祈願の前半の三つは、神のための祈り、神の栄光を求める祈りです。後半は、私どものための祈り、命と救いにかかわる祈りです。しかし、私どもの救いも神の栄光となりますから、主の祈りの内容とは、徹底的に、神中心、神の栄光のためのものなのです。この祈りを説くことは、聖書全体の教理を説くことにもなります。福音の豊かな内容をたたえているのです。

〈なぞる祈り〉

ここでの解説を丁寧に学ぶために、ぜひ、既刊第8号所収の拙稿、巻頭説教「祈りを祈る—信仰を生きるとは—」をご参照ください。

主イエスの祈りを自分の口にのせるとは、先立って祈っておられる主イエスご自身とその言葉をなぞるかのようです。主の息吹が込められたよ

うな祈りの言葉を口にすると、主の臨在は鮮明になります。主の祈りの言葉とわたしの祈りの言葉とがびたりと重なるとき、まさに主と一つになるのです。この出来事こそは、まさに、主イエス・キリストと私どもとが聖霊によって一つとされていることを、お教えくださる恵みの手段、通路そのものでなくてなんでしょうか。祈り、とりわけ「主の祈り」によって、主イエスと私どもとが結び合わされるのです。主の祈りを祈るときと場所は、主がともにおられることを思い起こすときと場所になるのです。主の祈りは、子どもたちに「イエスさまが共におられること」を分からせることをこめざして教えられるべきです。

さらに、主の祈りは、礼拝式で祈られてまいりました。それは、すべての神の民、教会の仲間たちが一つにさせられることを教会は知っているからです。キリストのみ体なる教会を形成する祈りです。各個教会ばかりか、世界中の神の民をも一つに結び合わせる祈りです。

〈祈りを待つ神〉

祈りは「信仰の呼吸」と呼ばれます。ですから毎日祈るのです。なによりも、神こそが祈りにおいて私どもと一つになることを欲し、待っておられるのです。
(相馬伸郎)

※1月17日〜2月28日は、聖書研究はありません。
山中雄一郎教師による「主の祈り」研究を掲載しましたので、ご参照ください。



カテキズム 子どもカテキズム 問77

子どもカテキズム

問77 御言葉の中にあるお祈りのお手本は、何ですか。

答 イエスさまが「こう祈りなさい」とお命じくださった、主イエスの祈りです。

「主の祈り」を祈るとき、イエスさまが共におられることが分かります。

なぜなら、イエスさまのお祈りをなぞることだからです。

私たちがイエスさまと一つに結んでくださる祈りです。

イエスさまと結ばれた神さまの子どもの私たちの祈りを、

天のお父さまは待っておられます。

私たちは、毎日、イエスさまのお名前によって、天のお父さまにお祈りします。

証拠聖句 マタイ6:9～13、詩62:8、エフェソ6:18、ペトロ3:12

参考教理問答 ウ小教理99、ウ大教理186～188、ハイデルベルク118～119

〈恵みの手段をよく用いるための手本〉

イエス様の贖いによる益を、私たちに与えられる通常的手段（恵みの手段）は、「御言葉と礼典とお祈り」（問68）でした。そして、問76で、祈るためには「御言葉に聴くことが必要」であると教えられました。御言葉全体を通して、主を知ることによって、私たちの祈りは豊かになります。

特に「主の祈り」は、御言葉が直接的に祈りの手本を示してくれたものです。ですから、「主の祈り」から祈りについて、たくさんのことを学ぶことができます。そこには「霊的また肉的に必要なすべてのこと」が祈り求められています（ハイデ118）。具体的には、序文、六つの祈願、結びの言葉から構成されています（ウ大教理188）。その一つひとつの要素をこれから毎週、取り上げていくこととなります。

〈祈りそのものとして〉

「主の祈り」は、単に祈りの手本としてだけでなく、きちんと内容を理解し、信仰をもって祈るならば、祈りそのものとして祈ることができます（ウ大教理187）。何も考えずに口に出して唱えることに意味があるわけではありません。

共同の礼拝において、イエス様が教えてくだ

された「主の祈り」によって、共に祈るとき、私たちはイエス様において一つとされている恵みを味わうことができます。

「主の祈り」が、イエス様が祈られた祈りであるかどうかについては、ウ信仰基準を採用する教会の中でも、それを否定する意見があります（参照：『ウ大教理講解（下）』、ヨハネス・G・ヴォス著、玉木鎮編訳、P.191）。その理由は、罪のないキリストが罪の赦しの願いを含んだ祈りをささげられるはずがないというものです。しかし、罪人の間に宿られ、罪の洗いを象徴する洗礼を受けられ、罪人の一人として数えられ、罪人として十字架で死んでくださったイエス様が、私たち罪人のために、この祈りを与え、私たちと共にいてくださる方として、この祈りをも共にしてくださると考えて良いように思います。少なくとも、イエス様は、この祈りを、ご自身の名において、父なる神様に執り成してくださる方であると言うことはできるでしょう。

その意味で、「主の祈り」は、私たちの罪のためにご自身をささげてくださいましたイエス様ご自身が、共に祈ってくださるのであり、イエス様と私たちを結び合わせてくれる祈りであると言うことができます。（大西良嗣）

テキスト ルカによる福音書 11章1～4節
カテキズム 子どもカテキズム 問77

〔単元のねらい〕

主の祈りは、神様の独り子イエス様が「こう祈りなさい」と教えてくださったお祈りなので、神様御自身が教えてくださったお祈りであること、そして、何よりも、神様が必ず聞き届けてくださるお祈りであることを子どもたちに知らせたい。願わくは、子どもたちが、主の祈りを自分の口でなぞることで習得し、その意味を十二分に理解でき、自分の言葉で、天のお父様にお願いできますように。

「主イエス様のお祈りにならおう！」

愛する子どもたち、おはようございます。

新しい年2010年を迎えて、二回目の主の日、天のお父様でいらっしゃる神様をみんなで礼拝する日となりました。

さて、みんなは、新しい年を迎えて、いろんなことを天のお父様にお願いしたと思います。もちろん、先生もお願いしました。先生は、教会の周りの一人でも多くの子どもたちが、日曜学校に来て、聖書のお話を聴くことができますようにとお願いしました。ところで、新しい年を迎えて、いろんなお願い事をするのは、日曜学校に通っているみんなだけではありませんね。日曜学校に通っていない、みんなの学校とか幼稚園のお友だちも、全国的に有名な神社やお家の近くの神社に行つて、いろんなお願い事をしたと思います。

普通、お願い事は、自分のためのお願い事が中心となってしまいます。先生は、二十歳の頃に、イエス様と出会って、イエス様を信じる人になりましたが、イエス様を信じる前も、みんなのお友だちのように、お正月になると、神社なんかに行つて、お金を賽銭箱に投げ入れて、手を合わせて、お願い事をしていました。高校を受験する時なんかは、いろんな神社に行つて、お願い事をしました。「〇〇高校に合格しますように」、「××高校に合格しますように」。そのように自分のためのお願い事が中心でした。

そんな中で、毎朝、ラジオのスイッチをひねると聞こえて来る聖書のお話を通して、イエス様と

出会って、教会に通うようになって、洗礼を受けて、イエス様を信じる人となったのです。

それで、教会に初めて行ったのが、水曜日の祈禱会でした。その時のことを今でもはっきりと憶えています。一人ずつ順番にお祈りするのですが、みんな自分のことはあまりお願いしないのです。先生は、自分のお願ひ事中心のお祈りしか知らなかったもので、みんなが自分のお願ひ事をあまりしないので、いざ、自分の順番になると、頭が真っ白になってしまいました。けれど、つかえつつかえでしたがお祈りできて、自分中心のお祈りでしたが、最後にみんなが大きな声で言ってくださった「アーメン」が今でも耳に残っています。そして、最後にみんなで「主の祈り」をお祈りしました。

最初、この主の祈りは、昔の言葉が使われているので、その意味がよく分かりませんでした。教会の牧師先生と一緒に聖書を学んで、主の祈りについて教えられる中で、本当の神様、天のお父様へのお祈りは、自分のためのお願い事が中心ではないこと、何よりも、神様のためのお願い事が大事だということを教えられました。主の祈りの前半です。「願わくは、御名をあげめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」。その上で、私たち、ほくたちのためにお願いすることが大事だと教えられました。主の祈りの後半です。「我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯す者を我らが

赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」。

この主の祈りは、主イエス様が、「祈るときには、こう言いなさい」（ルカ11:2）と教えてくださったお祈りなので、「主の祈り」と呼ばれています。この主の祈りに含まれているお願い事は、全部、神様の愛する独り子イエス様が教えてくださったお願い事ですから、天のお父様が必ず聞き届けてくださるお願い事なのです。たとえば、お願い事の中に、私たち、ぼくたちのためのお願い事として、「我らの罪をも赦したまえ」というお願い事がありますね。これは、私たち、ぼくたちを赦してくださいというお願い事です。私たち、ぼくたちは、いろんな罪を犯してしまいます。いろんな悪いことをしてしまいます。神様のおっしゃることなんか知らないと思ったりします。お父さん、お母さんの言うことを聞かないで、わがままを言ってしまいます。お友だちに悪口を言ってしまいます。そういうことが悪いことだと分かっているのに止められないが私たち、ぼくたちです。先生もそうです。しかし、悪いことをした時に、「それは仕方ない」ではなく、「神様、ごめんなさい」とお願いするのが、神様の子どもなのです。神様は、そういうお願い事にちゃんと応えてくださって、赦してくださるのです。だって、私たち、ぼくたちを赦すためにこそ、天のお父様は、愛する独り子イエス様を十字架にかけて、私たち、ぼくたちの代わりに罰してくださったからです。このように神様が必ず聞き届けてくださるお祈りがみ

んなには与えられているのです。これはとてもすばらしいことです。

そうすると、みんなは、いつもお祈りする時、私の、ぼくのお祈りは、神様が聞き届けてくださるだろうか、心配するかも知れませんが、そんな心配が全然いらぬお祈りが、主の祈りということになります。ですから、主の祈りをお祈りすれば良いのです。イエス様が教えてくださった通りに、主の祈りを自分の口でなぞれば良いのです。でも、意味が全然分からないというお友だちもいるかも知れませんか。みんなには分かりにくい昔の言葉も使われているからです。ですから、一つひとつのお願い事をみんなに分かる言葉で言い換える工夫も必要でしょう。そのために、今、日曜学校の先生たちが協力し合って、みんなに分かる「主の祈り」を考えています。あるいは、これから、主の祈りのお願い事の一つひとつを少し丁寧にお話ししていきますが、主の祈りのお願い事の一つひとつの意味をよく心で消化して、自分の言葉でお祈りすることも大事ですね。

いずれにしても、主イエス様が教えてくださった主の祈りは、みんなのお祈りのお手本です。そして、主の祈りは、イエス様としっかり結ばれて、さらに天のお父様としっかりつながるための大事な手段です。まず、イエス様が教えてくださった主の祈りにならって、天のお父様にいつもお願いする、そういう神様の子どもとされたいです。

（長谷川潤）

〔今週の暗唱聖句〕 ルカによる福音書 11章1節

主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください。



〈ねらい〉

子どもたちは、他の人たちのお祈りを見ている。どうしたらあんな風に祈れるのかと思っている子もいるかもしれない。一緒に祈りながら、自分にもできるという手ごたえをつかんでもらう。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることです。きょうから、おいのりについて教えてもらいます。

教会のせんせいたちは、いつも上手においのりするよね。おとなの人たちは、どうしてお祈りができるのかな？ せんせいも、みんなぐらいの時は、どうやってお祈りしたらいいかわかりませんでした。でも、教会でおしえてもらったり、ほかの人のお祈りをまねっこして、少しずつ自分でお祈りできるようになっていったんです。

イエスさまのお弟子さんも、どうやってお祈りしたらいいか分からなかったみたいです。イエスさまは、こうやってお祈りするんですよって教えてくれました。それがきょう教え てもらったお祈りです。なんていうおいのりだけ？

そう。「主のいのり」だね。お弟子さんたちとおなじように、これから少しずつ主の祈りを教えてもらいましょう。

お祈りはまねっこしてできるようになるので、今日は、みんなでせんせいのまねしてお祈りしてみましよう。

〈お祈り〉

てんのおとうさま (てんのおとうさま)。きょうかいがっこうにくることができて (きょうかいがっこうにくることができて)、ありがとうごさいます (ありがとうごさいます)。イエスさまのおなまえによっておいのりします (イエスさまのおなまえによっておいのりします) アーメン (アーメン)。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」を作る。

材料

- ・ A4版色画用紙1/2サイズを2枚 1/4サイズを1枚。
- ・ 巻末の表紙原稿をコピー。

作業

- ・ 1/2サイズの画用紙を二つ折りにして重ね、1/4サイズの画用紙を中に入れて端をホチキスでとめる (台紙完成！)。
- ・ 表紙 (p.120①) を各自好きなように色ぬりして、台紙に貼る。

〈ねらい〉

主の祈りは、イエスさまが私たちに、祈るときにはこう祈りなさいと教えてくださった祈りです。主の祈りを通して祈りに応えてくださる神さまについて学びたいと思います。

〈展開例〉

新しい年を迎えました。今年も神さまと一緒に歩いていく中で、イエスさまが教えてくださった主の祈りから、祈りのお手本について学びましょう。

「イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、『主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください』と言った」(1)。

僕たち私たちは、毎日の生活の中で、色々なことがあって、どう祈ったらよいか分からない、そのようなことがあると思います。そのような、僕たち私たちに、イエスさまは主の祈りを教えられるのでした。

祈りには、もちろん自分のことを祈ることも大切ですが、正しい祈りはまず、「そこで、イエスは言われた。『祈るときには、こう言いなさい。「父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。』」(2)、と教えられています。僕たち私たちを創ってくださった神さまをほめたたえる、そのことから始まっていくのです。神さまをほめたたえること、これがすべての祈りの基本です。このことをまず第一に、心にとめましょう。

次に祈ることが、自分の必要についての祈りです。「わたしたちに必要な糧を毎日与えてくださ

い」(3)。

神さまは生きて働かれています。生きて働かれて、私たちの毎日の必要を満たしてください。神さまは、天のお父様ですから、私たちに毎日必要なものをご存じなのです。

そして次に大切なことが、「わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください」(4)と、聖書が言っていますように、自分の罪を赦していただくことです。そして、それだけではないのです。いつも心の中で思ってしまう、お友だちへの悪口を止めて、お友だちに対する悪意を捨て去ってしまうことなのです。

また、「わたしたちを誘惑に遭わせないでください」(4)と、神さまによって様々な誘惑や罪から守っていただくことも大切です。

今年も主の祈りを通して、神をほめたたえ、必要を満たしていただき、自分の罪を赦され、そして人罪も赦し、誘惑から守っていただく、そのような歩みをさせていただく者でありたいと思います。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、新しい年が始まりました。今年も主の祈りを通して、神さまをほめたたえ、神さまが生きて働かれています。お方であることを知ることができるように導いてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

イエス様が教えてくださった祈りを知り、意味を知って主の祈りを祈れる者となろう。

げるとよいのでしょうか。

お祈りのお手本は、イエス様が教えてくださいました。主の祈りです。

〈展開例〉

1. 毎日お祈りしていますか？
2. どんな時お祈りしますか？
3. どんなことをお祈りしますか？
4. お祈りは「信仰の呼吸」と言われています。毎日祈る者となりましょう。
5. 神様が私たちの祈りを待っておられます。
6. それでは、わたしたちはどんなお祈りをささ

7. 主の祈りは六つの祈りがあります。前半の三つは、神様のための祈り、神様の栄光を求める祈りです。後半は、私たちのための祈り、命と救いにかかわる祈りです。しかし、私たちの救いも神様の栄光になります。ですから、主の祈りは、神様の栄光のためのものなのです。

〈祈り〉

天の父なる神様、いつも神様にお祈りし、霊的呼吸を欠かすことなく続けられますよう、お導きください。自分のことばかりでなく、人々の救いのためにも祈れる者とならせてください。アーメン。



〈ねらい〉

- 主の祈りとはどういうものなのかを理解する。
- 主の祈りを祈る時、私たちに何が起こるかを理解する。

〈展開例〉

質問1 弟子は、イエスに何をさせていただきたいと願ったか。

質問2 それに対して、イエスは何と答えられたか。

質問3 子どもカテキズム問77によると、祈りのお手本は何だと書かれているか。

質問4 子どもカテキズム問77によると、主の祈りを祈る時、私たちはどういうことが分かると書いてあるか。

質問5 私たちはなぜそうなるのか。

まとめ

イエスが祈り終えられた時、弟子の一人がイエスに近寄って、祈りを教えてほしいと請うた。イ

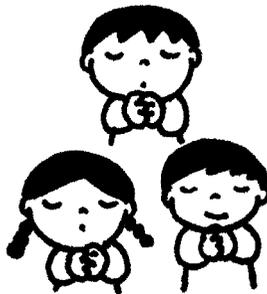
エスはそれに対して、六つの祈願から成る主の祈りを弟子たちに教えられた。

子どもカテキズム問77では、この主の祈りを祈りのお手本と呼んでいる。この祈りは、イエス自らが、このように祈りなさいと命じられたものであり、神の子自らが祈られた祈りそのものであるからである。

主の祈りを祈る時、私たちは、イエスが共におられるという臨在感を強く感じる。なぜなら、イエスの祈られた言葉が私たちの口に上る時、私たちは、イエスの御言葉をなぞり、主と共に祈ることになるからである。イエスと私たちを結んでくれる祈り、それが祈りのお手本である主の祈りである。

〈祈り〉

神様、私たちに主の祈りを与えてくださって、ありがとうございます。私たちは、祈ることがわからない者ですが、イエス様が祈りについて教えてくださいのおかげで祈りとは何かを知ることができるようになりました。私たちがいつも主の臨在を覚えつつ、イエス様と共に主の祈りを祈る者とならせてください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



子どもカテキズム

問78 「天にまします我らの父よ」の呼びかけは、私たちに何を教えてくれますか。

答 イエスさまが成し遂げてくださった十字架と復活の恵みによって、
私たちが罪赦されて神さまから子どもと呼ばれる者となった喜び、
聖霊なる神さまが私たちの内にお住まいくださる喜びを
繰り返し思い起こさせてくださいます。

「私たちの天のお父さま」とお呼びするとき、

私は一人ぼっちではなく、神さまの家族の一人であることに気づきます。
ですから、自分のことだけを祈ることはできません。

証拠聖句 ローマ8:14~17、ガラテヤ3:26~28

参考教理問答 ウ小教理100、ウ大教理189、ハイデルベルク120~121

〈父よ〉

イエス様の贖いによって、罪の奴隷であった私たちは、神の子とされました（問31）。それは、『アッパ、父よ』と叫ぶ御子の霊 すなわち聖霊を受けた事実から分かることです（ガラテヤ4:6）。ですから、私たちは、神様を親しく「お父さま」とお呼びすることが許されているのです。人間の父親が「お父さん」という呼びかけを拒まないように、今や、神様は私たちが「父よ」と親しく呼びかけることを拒まれることはありません（ハイデ120）。

イエス様は、そのように親しく、また信頼して神様に近づくことができる救いを与えてくださいました。同時に、その特権を与えられた者として親しく、信頼して神様に近づくように命じられているのです。私たちは、「父よ」と呼びかけるたびに、このような素晴らしい恵みにあずかっていることを喜び、感謝します。

〈天にまします〉

「天にまします」という言葉は、マタイ6章9節に記された主の祈りに記されています（先週の聖書箇所ルカ11章2節には記されていません）。

「天」は私たちの力をはるかに超えた神様のご存在を示しています。私たちの属する地上とは区別された、神様に属するものです。「天にまします」

と祈るとき、神様が全能なるお方で、私たちの体と魂に必要なすべてのものを与えることができるという信仰が示されています（参照：ハイデ121）。

〈我らの〉

神の子とされたのは、私一人ではありません。キリストを信じる者すべてが、神の子として受け入れられました。教会は、キリストにおいて神の子とされた者たちの群れです。

したがって、私たちは、共に神の子とされた教会に連なる者として、「我らの」父よと呼びかけます。「主の祈り」は、その意味で共同体の祈りです。

同時に、祈りの手本である「主の祈り」は、私たちに共に「我らの父よ」と主に呼びかける神の家族がいることを教えます。私たちにはどのようなときにも共に祈ることのできる神の家族が与えられているのです。

「主の祈り」は、神の家族が隣人として与えられていることを教えます。隣人を愛するように命じられている私たちは、彼らを愛し、彼らのためにも祈るようにも召されているのです。

「他の人々と共に、そして、他の人々のために、祈るべき」（ウ小教理100）であることが、「我らの」という呼びかけから教えられます。（大西良嗣）

テキスト マタイによる福音書 6章9～13節
 カテキズム 子どもカテキズム 問78

〔単元のねらい〕

神様が、イエス様を信じる者の天のお父様として恵み深く臨んでくださることを子どもたちに知らせたい。願わくは、子どもたちが、神様が罪ある人間を赦して神様の家族の一員とするためにイエス様の尊いお命をかけてくださったことを知ることで、天のお父様に感謝と信頼を込めて呼びかけることができますように。

「天のお父様に呼びかけよう」

愛する子どもたち、おはようございます。
 さっき、みんなで元気よく歌ったこどもさんびか
 かは、先生が大好きな讃美歌の一つです。

ことりたちは 小さくても
 おまもりなさる 神さま
 わたしたちは 小さくても
 おめぐみなさる 神さま
 わるいことは 小さくても
 おきらいなさる 神さま

（『こどもさんびか』10番より、
 日本基督教団出版局）

さて、この子どもの讃美歌は、神様をほめたたえる讃美歌ですが、神様が、私たち、ぼくたちの天のお父様でいらっしゃる、そして、私たち、ぼくたちが天の神様の子どもとされることをよく表してくれていると思います。神様は、この世界を造られて、今も、この世界が罪や悪の力で滅びないように守ってくださる天の御父様でいらっしゃいます。この天のお父様は、小鳥たちはもちろんですが、特に私たち、ぼくたちを守ってくださるのです。それで、この天のお父様は、何よりも、イエス様のお父様でいらっしゃいます。

今、みんなは、このお部屋で、イエス様を信じている日曜学校の先生たちと一緒に天のお父様を礼拝していますが、実は、ここにいる先生たちは、みんな、天の神様の子どもたちで、兄弟姉妹なの

です。家族でもないのに不思議なことを言うな、と思うかも知れませんが、実は、イエス様を信じる人たちが集まる教会は、イエス様をご長男とした、天のお父様の大家族なのです。今、テレビで、大家族のことが紹介される番組が人気のようだけれど、そういう大家族もかなわないようなメガ・ファミリーが教会なのです。だって、教会は、みんなが通っている〇〇教会だけではありません。世界中に教会があります。また、昔からあったし、これからも、イエス様がもう一度お出でになる時まであります。さっきみんなで唱えた「使徒信条」の中で、「聖なる共同の教会」とありましたね。実は、それが、テレビに出て来る大家族もビックリの神様のメガ・ファミリーのことなのです。天のお父様の家族、イエス様の兄弟姉妹は、それぞれ天の星、海辺の砂のように数え切れないぐらいにいるのです。

天のお父様が、ご自分のそういう家族をかたち造ってくださって、いつもお恵みくださり、罪や悪の力から守ってくださるために必要だったのが、愛する独り子イエス様の尊いお命でした。本当ならば、私たち、ぼくたちは、死んで、天のお父様から、わがままの罪への罰を受けなくてはならなかったのです。そして、永遠にひとりぼっちでなければならなかったのです。ところが、天のお父様は、そんな私たち、ぼくたちを愛し憐れんでくださって、ご自分の独り子に私たち、ぼくたちの罪を全部背負わせて、十字架の上で罰するこ

とで、私たち、ぼくたちを赦して、ご自分の家族の一員として、永遠に一緒にいてくださるようになさったのです。それで、イエス様を信じるならば、そういう天のお父様の家族の一員にされます。そして、神様のことを「天のお父様」と呼びかけるようになるのです。

ところで、今、イエス様を信じるとか、神様のことを「天のお父様」と呼びかけるようになると言いましたが、元々、わがままの罪のとりこになっている私たち、ぼくたちが、イエス様を信じることができる、そして、神様を”天のお父様”と呼びかけるようになる、これらも、全ては、天のお父様からのお恵みによること、特に聖霊なる神様のお働きによることを覚えましょう。聖書のお言葉を二箇所お読みします。

「ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも『イエスは神から見捨てられよ』とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」(コリント一12:3)。「あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッパ、父よ』と呼ぶのです」(ローマ8:15)。

そのままだと死んで、神様から見捨てられて、永遠にひとりぼっちでなければならなかったので

すが、わがまま過ぎて何のお恵みをいただく資格もないのに、天のお父様は、私たち、ぼくたちを一方的に愛し憐れんでくださって、聖霊なる神様が、イエス様を信じることができるようになってくださって、さらに神様を「天のお父様」と信頼を込めて呼びかけることができるようになってくださったのです。このお恵みを想うならば、天のお父様にまず感謝をささげないではられません。「天のお父様、ありがとうございます」。

さらにイエス様を信じる人は、天のお父様の家族の一員ですから、自分のお願い事だけささげるのではなく、教会の兄弟姉妹のためのお願い事をささげることも大事になって来るのです。自分のためだけでなく、お兄さんお姉さんのお仕事や健康のためにお祈りする、あるいは、弟、妹のお勉強やお家での生活のためにお祈りすることも大事になって来るのです。何よりも、教会のために働いているお兄さん、お姉さん、牧師先生や役員さんのためにお祈りすることがとても大事になります。

天のお父様は、イエス様を信じるみんなのお願い事にしっかりと耳を傾けてくださいます。「天のお父様」と、神様にいつでも感謝し信頼して呼びかける、そういう神様の子どもとされたいです。

(長谷川潤)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 6章9節より
天におられるわたしたちの父よ。



〈ねらい〉

天の神様に向かって「おとうさん」と呼ぶことができる関係に招かれていることを知る。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかながえてみましょう。

アンパンマンに出てくるバイキンマンって知ってるかな？ お友だちを泣かせたり、いたずらしたり、悪いことをするんだよね。そんな子がここにいたら、あんまり仲良くしたくなくなっちゃうね。

神さまはそんな悪いことをする子のことをどう思っているのかな？ 神さまは、どんなに悪いことをする子にも、「お父さん」って呼んでいいよって言ってくださるんだよ。神さまは悪いことは嫌

いだけど、どんなに悪いことする子にも、「大好きだよ」って言ってくださるんだよ。それは、イエスさまが、十字架にかかってくださったおかげなんだ。だから、神さまにお祈りするとき、みんな「おとうさん」と言って始めることができるんだね。

それに、神さまは、この世界を創ったお方なんだよね。「天の」っていうのは、わたしたちが考えられないくらいすごい力をもっているお方っていう意味なんだ。その天の神さまは、わたしたちに必要なものをくださるお方なんだ。だから、みんな、「天のお父さん」と言って何でもお祈りしようね。

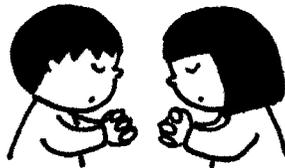
〈お祈り〉

天のお父さま、お父さんと呼ぶことができることをありがとうございます。わたしたちが良い子じゃなくても大好きでいてくださることをありがとうございます。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.120②を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

主の祈りを通して、天の父なる神さまが私たちの神さま、私たちの天のお父様であることを信じることができるように導く。

〈展開例〉

僕たち私たちには、お父さんがいますね（どんなお父さんなのか聞いてみる……）。優しいお父さんもいれば、厳しいお父さんもいれば、楽しいお父さんもいれば、カッコいいお父さんもいますね。

では、ぼくたち私たちにとって、天の父なる神さまは、どんな神さまなのでしょう（どんな神さまのイメージなのか聞いてみる……）。

イエスさまは、ぼくたち私たちに、祈りの手本としての主の祈りを教えてくださいました。なぜ、イエスさまは、ぼくたち私たちに、主の祈りを教えてくださいましたのでしょうか。それは、主の祈りは、ぼくたち私たちの、天の父なる神さまに祈る祈りだからなのです。ぼくたち私たちのお父さんが、ぼくたち私たちのことを心配してくれるように、天の父なる神さまは、いつも、ぼくたち私たちのことを心配してくださる、真の天のお父様なのです。だから、ぼくたち私たちは、「天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように」（9）と、確信をもって、心から祈ることができるのです。そして、神さまは、ぼくたち私たちが祈るこの祈りに応えてくださる神さまです。

イエスさまはいつも天の父なる神さまに祈られました。一日の初めに祈られました。一日を過ごす、その時間の中でも祈られました。そしてすべての働きを終えて、一日の終わりにも祈られました。それほど親しい交わりを、イエスさまは天の父なる神さまと持っておられました。その証拠にイエスさまはいつも、天の父なる神さまに「アッパ」と話しかけられました。これは、アラム語で、「お父ちゃん」という意味で、一般的には幼児語、小さな子どもが自分の父親に話しかけるときに使う言葉です。それほど、親しい交わりをイエスさまは天の父なる神さまと持っておられました。それほどに、イエスさまは、天の父なる神さまを自分の本当のお父様として歩んでいたのです。それほど信頼をもって歩んでいました。

ぼくたち私たちも、このイエスさまのように、天の父なる神さまを本当の天のお父様として信頼して祈っていく者でありたいと思います。天の父なる神さまこそが、みんなの本当の天のお父様なのです。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、あなたこそ、私の本当の天の父なる神さまです。どうか新しい年も、あなたを信頼して祈ることができるように導いてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。

〈ねらい〉

「天にましますわれらの父よ」と祈る時に、わたしたちを神の子どもとして愛して下さり、どんな時も共にいてくださる天のお父さまがいらっしゃることを信じて祈ることができますように導きましょう。

〈展開例〉

1. 天とはいったいこのことでしょうか？ 宇宙のかなたなのでしょうか？

「天」とは、高い大空や宇宙のかなたのではありません。「天」とは神様がいらっしゃる御座です。罪がなく愛に満ちた厳かな神様のいますところなのです。

「天にまします」と祈る時、この偉大な栄光に満ちた神様の前に立っていることを覚えましょう。礼拝はこの厳かな神様の前に出るときです。心の耳をすまして、みことばをしっかりと聴きましょう。ふざけたりおしゃべりしたりしないように気をつけましょう。

2. 「われら」っていったい誰のことでしょうか？

「われら」とは、「わたしたちみんな」のことです。天の父である神様は、自分一人だけの神様ではありません。ですから「主の祈り」は、自分一人の祈りではないのです。日曜日、教会学校でみんなと声に出して祈るのです。すると、神様が愛しておられる神様の子どもたちの中で、私たちは勇気と希望を持つことができます。神様の家族としての祈りをしましょう。分級の一人ひとりを覚えながら共に祈りましょう。

3. 神様を父と呼べる感謝と喜びを知りましょう。

地上のお父さんにはできないことも天の父なる神様にはおできになります。天の父なる神様は、月曜日から土曜日まで、小学校で勉強している時も、家でたった一人で留守番する時も、友だちと公園で遊んでいても私と共にいつもいてくださいます。救い主イエスさまによって救われた私たちは、「アッパ父よ」（ローマ8:15～16）と親しく呼びかける特権をいただいている神の子どもです。どんなに苦しい時も悲しみの時も一人ぼっちではありません。「天のおとうさま」と呼びかけることができる恵みがあるのです。何という喜びでしょう。なんとという感謝でしょう。毎日天のお父さまに呼びかけましょう。

4. 感謝と喜びをもって共にさんびしよう。

「主の祈り」のさんびか絵本があります。

（歌・本田路津子・CD付き、一麦出版社）

〈祈り〉

天の父なる神様 私たちが神様の子どもとして、「天のお父さま」と神様を親しく呼べますことを知りました。ありがとうございます。父なる神様に愛され守られていることを感謝いたします。アーメン。

〈聖書日課〉

「主の祈り」を毎日祈りましょう

「主の祈りのカード」を分級で準備し、持ち帰り、毎日「主の祈り」を祈る。



〈ねらい〉

- 天におられるわたしたちの父よという呼びかけが何を意味するかを学ぶ。
- 学んだ意味に照らして、私たちの祈りがふさわしいものであるかどうか吟味する。

〈展開例〉

- 質問1** 神が父であるとは、神が私たちとどういう関係にあることを意味するか。
- 質問2** 子どもカテキズム問78によると、天にまします我らの父よという呼びかけは、私たちに何を思い起こさせてくれるか。
- 質問3** 子どもカテキズム問78によると、私たちの天のお父様という言葉は、私たちにどういうことを気付かせてくれるか。
- 質問4** 私たちが神の家族の一員であるなら、私たちは、他の家族のためにどのようにするべきか。
- 質問5** あなたは、神が父であることをふまえた祈りをしているか。また、自分以外の神の家族のために祈っているか。

まとめ

イエスは、このように祈りなさいと私たちに主の祈りを教えられたが、その冒頭にある文言が、天におられるわたしたちの父よという呼びかけの

言葉である。神が私たちの父であるとは、何という恵みであろうか。私たちは、罪を犯して、神に近づくことなどできない身になってしまったが、イエスの贖いの恵みによって、ただ単に神に近づくどころか、イエスを長男とする神の大家族の一員として迎え入れられることになったのだ。神は、私たちを御自分の子どもとして受け入れてくださるのである。

子どもカテキズム問78によれば、私たちは、神を我らの「父よ」と呼ぶその言葉は、私たちに神の子どもとされた喜びと聖霊の内在の喜びを思い起こさせてくれる。また、「私たちの」父と呼ぶ時、私たちは、一人ではなく、神の家族の一員であることに気付かされる。私たちは、神の家族に属しているので、自分のことだけを考えたり、祈ったりすることは家族の一員としてふさわしくない。私たちは、神の家族である他の兄弟姉妹のためにも常に祈り労すべきなのである。

〈祈り〉

神様、イエス様の犠牲によって私たちの罪を赦し、私たちを子どもとして受け入れてくださって、ありがとうございます。私たちがいつも父としてあなたに信頼し、全ての事について包み隠さず祈りを捧げることができるようお助けください。また、自分だけのことでなく、同じ神の家族である兄弟姉妹たちのためにも常に祈り、労する者とさせてください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



1月24日 「御名をあげさせたまえ」カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム 問79

子どもカテキズム

問79 「御名をあげさせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 私たちの神さまのすばらしさが、
私たちから、そしてすべての人からもほめたたえられ、
すべてのものがただ神さまの栄光をあらわすために用いられるようにしてください、
ということです。

証拠聖句 ローマ11:33、詩115:1~2

参考教理問答 ウ小教理101、ハイデルベルク122

〈神がほめたたえられるように〉

「私たちから、ほめたたえられるように」よく考えてみると、おかしな祈りです。それは、「私たち」の心がけ一つでできることじゃないか。祈ってないで、さっさとほめたたえたらいいじゃないか、と言われそうです。しかし、やっぱりこれは祈らねばならないことなのです。「私たち」を含む「すべての人」は、神の助けがなければ、「神のすばらしさ（全能・知恵・善・正義・慈愛・真理＝ハイデル122）」を正しく賛美することもできないという罪の深刻さを知るべきです。

「ほめたたえられる」ということを、「神が神としてふさわしく賛美される」とことと理解するとよいでしょう。人間・被造物・世からどこまでも区別された、聖なる神。その方が、改めて聖別される。唯一絶対の信頼に足る方としてご自分を示しておられる神が、本当にそのような方として、その素晴らしさのままに受け入れられる。それが「ほめたたえられる」ことだと考えれば、いかに不可能なことが分かるでしょう。神の素晴らしさは侮られ、神への恐れ（恐れ）が失われた世俗社会に私たちは生きています。信仰を告白した人であっても、実際はむしろ神の名を汚してばかり。お金教・愛国教……etcといった、まことの神ならぬ偶像により頼む、そんな人ばかり。特に日本ではそうですね。そういう世の中であって、イエス様はまず真っ先に、「神様がまさしく神様とし

て賛美されるように」祈り求めなさいと、教えるのです。

〈神の栄光をあらわすために、用いられるように〉

キリスト者の最大の幸福は、神の栄光があらわされることです。罪とその悲惨から贖われることがすべてではありません。その救いを通し、神の栄光があらわされることこそ大切です。私たちの救いは、神の栄光をあらわすことができる器としての再創造であり、それは人間本来の目的（ウ小教理1）に生き始める人生のスタートです。

そのようにして再び歩みだしたまことの人間は、「神の栄光があらわされるように」と祈り続ける人間です。そして、その神の栄光のために「すべてのものが、用いられるように」とあります。それは「神が万事をご自身の栄光のために配剤してくださるように（ウ小教理101）」ということであり、世界に起こり来るあらゆる痛みや、罪による悲劇さえも、神の御手の中で万事が益として用いられるようにとの摂理の信仰です。同時に「すべて」の中には、私たちの全生活・全人生も含まれています。私たちが「食べるにしる飲むにしる、何をするにしても（一コリ10:31）」、神の栄光をあらわすことができるように、「自分の思いと言葉と行いを正してください（ハイデル122）」という祈りです。

（坂井孝宏）

1月24日 「御名をあげめさせたまえ」 説教展開例

テキスト マタイによる福音書 6章9～13節
カテキズム 子どもカテキズム 問79

〔単元のねらい〕

主の祈りの第一祈願「御名をあげめさせたまえ」は、十戒の第一戒「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」にも通じます。主イエスが教えられた第一の掟、神を愛することにも通じます。さらに、「人生の目的は、神さまの栄光をあらわすためです」という子どもカテキズム問1にも通じます。神を神とし、ただ神の栄光のためにお願い求めるこの祈りこそは、キリスト者の人生を正しく導くための根本的祈りです。まさに第一祈願です。信仰によって主イエス・キリストと一つに結ばれ救われた私どもは、この祈りを毎日、祈りながら、自己中心から神中心へと、信仰の道を正されるのです。祈りながらなお失敗を重ねる私たちですが、この祈りを完全に祈り抜き、生き抜いてくださった主イエス・キリストを仰ぐとき、何度でもこの祈りを大胆に唱えて、やり直せるのです。祈りの戦いの勝利者イエスさまを礼拝し、主につき従って、この祈りの戦いを共に歩むことへと招きましょう。

「神さまを神さまとするために」

今朝も、愛する皆さんと一緒に主の祈りを祈ることができたことを嬉しく思います。毎日、主の祈りを祈っていますか。主の祈りを祈ることは、イエスさまと一つにされることです。そして、今朝は、教会に集まって皆でお祈りできました。僕たち私たちは、このお祈りによって一つにされているのです。一つの民とされるのです。教会は、神さまの御名をあげめるところ、礼拝する場所、神さまを讃美する神さまの家です。ですから、この祈りを、心を一つにして祈れば祈るほど、神さまの教会が、しっかりと打ち建てられます。

主の祈りの第一番目の祈りの言葉が、「御名をあげめさせてください」です。ということは、一番大切なことって考えても、間違いではありません。

さて、「御名を崇める」ってどんなことでしょう。「御名」とは、神さまのお名前のことです。つまり、神さま御自身のことをあらわす言葉なのです。旧約聖書の人々は、神さまのお名前は、あまりにも聖く尊いものですから、みだりに唱えないようにと、神さまを「お名前」、また、「主」とお呼びしました。

次に「あげめる」ってどんなことでしょう。そ

れは、大きくするという意味です。聖書の神さまは、唯一の偉大な神さまですから、神さまの御名をあげめることは、当たり前すぎるほど当たり前で、一番大切なことなのです。イエスさまも、神さまは唯一の主ですから、神さまをとことん愛すること、自分のすべてを尽くして愛することが一番大切だと、旧約聖書を教え直していただきました。

ですからイエスさまは、神さまのお名前が崇められるようにと、つまり、自分を大きくする祈りではなく、神さまのことを大きくしなさい、一番にしなさいと教え、命じていただきました。もともと、このお祈りを教えてくださったイエスさまこそ、いつもこのお祈りを祈り続けておられたお方でした。そして、この祈りどおりに、どんなときでも神さまを第一にし、神さまがほめたたえられるように、神さまの御心が実現するように、神さまの栄光があらわれるようにと働かれました。イエスさまは、たくさんの奇跡をおこなって、悩み苦しんでいる人たちを助けていただきました。病気の人を癒されました。ひとりぼっちで寂しくしている人を慰められました。そればかりではなく、イエスさまは、最後に、十字架につけられて死んでいただきました。十字架に張り付けられる

〈ねらい〉

お祈りは、自分の願いをかなえるためではなく、神様の偉大さをほめたたえるようになるためだと知る。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかんがえてみましょう。

バイキンマンはこんな歌を歌います。「おれはすごいぜ。世界はやがておれのもの。」こんなバイキンマンは、「おれの思い通りになりますように。お友だちにすごいねって言われますように」ってお祈りするんじゃないかな。バイキンマンだけじゃなくって私たちも、お祈りする時、自分のお願いばかりになっちゃうときがあるんだよね。

イエスさまは、お祈りで一番大事なことを教えてくれました。それは、自分のことよりも、神さまが一番にすることができますようにお祈りすることなんだよ。自分のお願いばかり考えてると、「あれも足りない、これも足りない」って思ってしまう、もしかしてぼくは幸せじゃないんじゃないかって思っちゃう。でも、「世界やわたしたちを創られた神様ってすごいなー。神さまありがとう」っていう気持ちで心がいっぱいになると、幸せだな、うれしいなって思えるんだよ。わたしたちが神さまのことを一番にできるようにお祈りしましょう。

〈祈り〉

わたしたちの天のお父さま、この世界やわたしたちを創ってくださってありがとうございます。神さまが一番にできますように。神様ありがとうの気持ちでいつもいっぱいになれますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.120③を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

主の祈りを通して、天の父なる神さまを第一とすることを学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、いつも、どんなお祈りをしていますか（どんなお祈りをしているのか聞いてみる……）。もしかすると、「ああしてください」「こうしてください」「あれを与えてください」「これをください」と、神さまを第一とするよりも、自分勝手な祈りをよくしているかもしれません。でも、もしかすると、ぼくたち私たちがそんなお祈りしかできないのは、神さまがぼくたち私たちにとってどんな神さまであるのかを知らないからかもしれません。

まず、「御名をあげる」とはどんなことでしょうか。「御名」とは神さまのお名前、つまり神ご自身のことを表す言葉です。次に、「あげる」とはどういう意味でしょうか。それは、心から神さまを愛するということです。ぼくたち私たちのすべてを尽くして神さまを第一とすることです。ですから、「御名をあげる」とは、神をいつも第一として歩いていくということなのです。

イエスさまを見てください。イエスさまはそのご生涯をかけて、神さまを伝えていきました。それだけではありません。イエスさまは父なる神さまを信頼して病気の人をいやし、悪霊につかれている人を解放し、また一人ぼっちの人に慰めを与えていかれたのです。それだけではなくて、最後

は十字架の死に至るまで従って死んでくださったのです。それほどまでに、イエスさまは神さまを第一として信頼しておられたのです。これが神さまを第一とすることです。

ぼくたち私たちも、本当に神さまを第一として信頼することができたら、決して心配する必要はありません。神さまは、どこか遠くにおられるような神さまではありません。お座りになられたままの神さまでもありません。今も生きて働かれている神さまなのです。そして、昨日も、今日も、いつまでも変わることがない神さまなのです。

しかも神さまは、ぼくたち私たちがお祈りをする前から、ぼくたち私たちに本当に何が必要なのか、知っておられる神さまです。ぼくたち私たちのすべての必要を満たしてくださる神さまなのです。そして、一番大事なこととして、ぼくたち私たちが、神さまを心から愛して、成長することを心から願っておられるのです。神さまを第一にして、お祈りしていくときに神さまはぼくたち私たちのお祈りに応えてくださるお方です。今週も神さまを第一にしていきましょう！！

〈お祈り〉

天の父なる神さま、ぼくたち私たちは、あなたを第一にしていきます。どうか、あなたが生きて働かれている神さまであることを教えてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

「第一の祈願 御名をあげさせたまえ」と祈る時、私たちはまず神様を第一とする祈りをささげるよう求められています。自分勝手な祈りを反省し、まず神様を賛美し、神様と隣人を愛する祈りへと子どもたちを導きましょう。

〈展開例〉

1. 先週、月曜日から土曜日まで、毎日のお祈りを思い出してみましょう。

自分のことばかりだったかな？ 家族みんなのこと、お父さん、お母さん、弟や妹のこともお祈りしたかな？ 学校の先生やお友だちのこともお祈りしたかな？ どんなことを祈ったか話しあってみましょう。

あなたは、毎日主の祈りをささげることができましたか？

2. 「御名をあげさせたまえ」と祈ること。

「御名をあげる」とは、難しい言葉ですね。この言葉の意味は、「神様を第一とする祈りをささげる」ということです。自分のことばかり祈る罪人である私たちが、悔い改め聖霊の恵みにより神様をほめたたえ、教会のため、分級の友だちや先生、家族のため学校の友だちのため、日本や世界のために祈る者になりましょう。

そのためには、いろいろなことを知らなければなりませんね。神様が創造された全世界、こ

の世界の中で生きている私たちなのですから無関心であってははいけませんね。

毎日の生活（ことば・行い・心の思い）を、みことばに従って生き、神様に喜んでいただけることが大切です。

3. 今日は「分級祈り会」をしましょう。

今朝は、自分の祈りはしません。先生やお友だちのために祈りましょう。具体的な祈りの課題を出し合って祈りましょう。祈りの最初にまず神様を賛美しましょう。

「祈り会」の導き方（丸く輪になって行う）

- ①まず、一人ひとりが祈りの課題を出し合う
- ②忘れてしまうようなら、お互いにメモを。
- ③担当CS教師も子どもに祈ってもらう。
- ④隣の人のために祈り、順番に一回り。
- ⑤最後に、主の祈り。

〈祈り〉

神様、まず神様を賛美しほめたたえる祈りができますように。自分のことばかりではなく、神様の創造された世界の中で生きている隣人のためにも、その必要を知り、祈る子どもとなれますようにお導きください。アーメン。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 御名をあげさせたまえによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 私たちの献身の姿勢を吟味する。

〈展開例〉

質問1 子どもカテキズム問79によると、御名をあげさせたまえで私たちが祈り願うことは何だとあるか。

質問2 なぜ直接ほめたたえるのではなく、ほめたたえることを祈るべきなのか。

質問3 私たちは、神を正しくほめたたえることができるか。

質問4 すべてのものが神の栄光をあらわすために用いられるとは、どういう意味か。

質問5 なぜ、この祈りが主の祈りの冒頭に置かれていると思うか。

まとめ

子どもカテキズム問79では、御名をあげさせたまえでわたしたちが祈り願うこととは、神のすばらしさが全ての人々からほめたたえられ、全てのものが、神の栄光を表すために用いられるようにということであると書かれている。

私たち人間は、無力で弱いので、神のすばらしさを他の人々に伝えることがなかなかできない。神に祈って、こんな弱い私たちでも用いられて神

のすばらしさを他の人々に伝えることができるよう助けを求めるべきなのである。また、私たち人間は、罪に汚れているので、正しく神をほめたたえることなどできない。それゆえ、それができるよう神に祈り求めるべきなのである。

次にカテキズムは、私たち人間だけでなく、すべてのものが、神の栄光をあらわすように用いられるべきであると教える。すべてのものと言った時、それは、人間・人間以外の被造物そしてこの被造世界で起こるありとあらゆる事物を指している。これらが用いられ、益とされ、そのことによって神の栄光が表されること、それが御名をあげさせたまえで祈られている内容なのである。

この祈りは、神を神としてあげめるといふ、私たちの献身を神の御前で表現する祈りである。呼びかけに続いて、主の祈りの冒頭でこのように私たちの献身を表して、その献身の思いをもって、次の祈りへと進んでいくのである。

〈祈り〉

神様、弱い私たちですが、あなたの栄光をあらわせるように助けてくださって、ありがとうございます。私たちは罪に汚れていて、すばらしいあなたの恵みや慈しみを正しくほめたたえることも、それを他の人々に伝えることもできません。あなたは、そうした私たちの祈りに応えて、あなたの栄光をあらわせるように力をくださいます。どうか、私たちを通してあなたの栄光があらわされるよう、お助けください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



1月31日 「御国を来たせたまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム 問80

子どもカテキズム

問80 「御国を来たせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 神さまの恵みの支配が教会の中で確立され、教会を通して広げられ、
ついにはイエスさまが再び来て完成してください、ということです。

証拠聖句 ヨハネ18:36、ペトロ3:13、ローマ16:20

参考教理問答 ウ小教理102、ハイデルベルク123

〈神の国＝神さまの恵みの支配〉

御国とは、神が恵みの支配をもって王として君臨して下さることです。「御国を来たせたまえ」とは「神が私たちの王様となってくださいますように、この地に神の主権が確立されますように」と求める祈りです。神は新しい天と地を約束してくださっています。いのちが溢れ、正義と愛に満ちた世界、罪のない世界。病も死もない、飢餓と抑圧、悲惨と腐敗が一掃される世界が聖書に約束されています（イザヤ65:17～25、ローマ8:21,22、黙示録21:1～5）。それは「イエスさまが再び来て完成」して下さるものであって、私たちはその時を待ち望まねばなりません。しかし同時にそれは、イエス・キリストにおいてすでにはじまっている希望の現実です。主は、その十字架と復活において、罪と死と悪の力に決定的に勝利してくださいました。依然として闇は濃く残っています。しかしすでに希望の朝は始まっています。そういう明けの明星の輝く黎明の時に生きるのが私たちです。そういう中で、目覚めている者たちがなすべき祈りが「御国を来たせたまえ」です。闇の暗さと戦いながら、祈って待つのです。すでに始まっている神の恵みの支配は、必ず時たって完成します。もう世界は、そして私は、決して闇に支配されたままではいません。すべては

希望の朝に向かって。その確信を得ながら、伸びやかに生きる。そして確信の中で、神の定められた時を祈って待つ。それが「御国を来たせたまえ」という祈りの姿勢です。

〈神の国の中心としての教会〉

このカテキズムでは、神の恵みの支配が「教会」において具体的に現れるということに重きが置かれています。教会は、神の国の地上における現れの一形態であって、その一部に過ぎません。すなわち、教会イコール神の国ではありません。しかし教会は、地上に現臨する神の国の中心であり、神の恵みの支配がすでに始まっているということの目に見えるしるしです。御言葉と御霊とキリストの愛による支配のもとに、熱心に礼拝し、一つのパンを分かち合い、互いに思いやる人々の集う教会こそが、地上に現れた神の国です。私たちの教会が、また私たち一人ひとりが、このような神の支配の喜びに満ちた教会に真に整えられていくように……。またそんな教会の姿を通して、多くの人が「神がここにおられる」との賛美へ導かれるように……。それが「神の恵みの支配が、教会の中で確立し、教会を通して広げられるように」という祈りです。 (坂井孝宏)



1月31日

「御国を来たせたまえ」

説教展開例

テキスト

マタイによる福音書 6章9～13節

カテキズム

子どもカテキズム 問80

〔単元のねらい〕

祈りは、主イエス・キリストとの交わりの通路です。お祈りする人には、天からの霊が注がれ、主イエス・キリストが共にいてくださることが、分かるようになります。その人の上に、天が開かれ、自分の小さな祈りも天のお父さまに聴かれていることを信じられるようになります。つまり、祈りは天国を開きます。祈りは、天国をここにもたらず通路なのです。お祈りするその場所を、そのときを天国へと変えていきます。イエスさまがいっしょにいてくださることが、天国だからです。「御国を来たせたまえ」。この祈りを通して、主イエスは、私どもに、神と共にいてくださることを求めさせ、信じさせ、神の支配に喜んで服する者へと、造り変え続けてくださいます。このすばらしい祝福に満ちた祈りを教えてくださった主イエスに感謝し、この祈りを日々祈り、主イエスをいつも思う信仰へと励ましたいと思います。

「いつでもどこでも神さまと一緒に」

先週は、主の祈りの第一番目のお祈り、「御名をあがめさせたまえ」を学びました。神さまの尊く聖いお名前が、世界中のすべての人からほめられたえられるようになったら、どんなにすばらしいことでしょうか。一人残らず、神さまを愛し、イエスさまを讃美する世界です。それは、まさに僕たち私たちが一番憧れる世界です。神さまが、讃美される場所には、神さまがいつも一緒にいてくださいます。ですから、そこには、けんかはありません。もちろん、いじめたりいじめられたりすることもありません。皆が、お互いに愛し合い、仲良くしています。平和の国、平和な場所です。もちろん、悲しみがありません。嬉し涙はあるでしょうけれど、悲しみの涙を流す人は一人もいません。そこには、宿題や試験勉強に苦しんだり、病気になって痛んだり、苦しむ人は一人もいません。そこには、神さまが、愛をもって完全に治めておられるからです。だから、「御名をあがめさせたまえ」とお祈りする人は、必ず、今日学ぶ、第二番目のお祈り、「御国を来たせたまえ」も祈るわけです。

そんな夢のような世界、すばらしい国は、どこにあるのでしょうか。それは、皆が、神さまをほめたたえるところにあります。そして、そのよう

な国は、必ずこの地上に実現するのです。嘘ではありません。それは、イエスさまが、ちゃんと約束されたことです。一番大切なお約束です。イエスさまが、もう一度、この地上に、この世界に戻って来てくださるときです。再臨と言います。そのときには、僕たち私たちの生きている世界は、神の国、天国にまったく新しくされ、変えられるのです。それを御国と言います。御国では、僕たち私たちは、神さまの御顔をこの目で見ることができます。イエスさまと直接にお会いできます。

イエスさまは、ご復活された後、40日の間、お姿を現わされました。そして、いよいよ天の父なる神さまの右に戻って行かれました。それは、僕たち私たちを見捨てて、離れ去ってしまわれるためではありません。むしろ、そうすることによって、聖霊なる神さまを注ぐことによって、僕たち私たちをお守りくださるためです。そして、そのために、天のお父さまの右にいて、毎日毎日、瞬間瞬間、僕たち私たちが、信仰をもって生きていられるように、神さまの子どもとして喜んで、生きられるように、悪い者や事故から守られるように、お祈りしていてくださるのです。

でも、やっぱり体においては、イエスさまと離

〈ねらい〉

イエス様が来られたことを喜び、罪を悲しみ、神の国の完成に希望をもって祈る。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかながえてみましょう。

先週の、「御名をあがめさせたまえ」は、「世界を創った神さまってすごい。わたしたちを愛してくださってありがとう」という気持ちでいっぱいになりますよってというお祈りだったよね。先生は、それが幸せなんだよってお話したよね。神さまは、わたしたちにこの幸せを知ってもらいたいって思っているんです。そして、わたしたちだけじゃなくてももっとたくさんのお友だちにこの幸せを知ってもらいたいって思っているんだよ。

わたしたちは、自分のことばかり考えて神さまありがとうって思えない時があるね。お友だち

やきょうだいを大切にできない時もあるね。それから、世界中でたくさんの悪いことが起こっているね。人を殺したり、自分で自分を殺してしまったり……。それは、神さまから離れてしまうからなんだよ。

でも大丈夫。神さまからわたしたちを離す悪い力に勝つために、イエスさまが十字架に架かってくださったんだよ。そして、わたしたちがいつも神さまとつながってられるように、天からお祈りしてくださっているんだよ。

もっとたくさんのお友だちが「神さまありがとう」って神さまを賛美できるように、みんなが幸せでなかよくできる日が早く来るように、イエスさまと一緒に祈りしましょう。

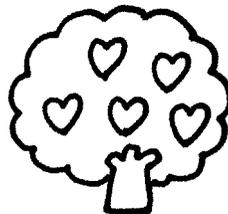
〈祈り〉

天のお父さま。わたしたちを愛してくださることをありがとうございます。もっとたくさんのお友だちと一緒に、神さまありがとうと賛美できますように。世界中に悲しい出来事がなくなって、みんなが仲良く安心して暮らせるようになりますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・ p.120④を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、この地に神の御国が来ることを願い求める祈りを、主の祈りを通して学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、いつも、主の祈りを祈ります。

今日ぼくたち私たちが学ぶ祈りは、「御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも」(10)という祈りの内の、「御国がきますように」という部分です。

「御国がきますように」、これはどういう意味だろうか？(みんなに聞いている……)。

御国がきますようにとは、この地に神さまの祝福が現わされますようにという意味です。この地に神さまの祝福が現わされる、これはいったいどういう意味でしょうか。神さまの祝福が、この地に現わされたらこの地はどんなところになるでしょうか？神さまの祝福がこの地に現わされる、これはもっと言うと、この地に神さまの御支配が現わされるという意味です。この地に神さまの御支配が現わされれば、国と国が仲良くなって戦争がなくなり、人々が仲良くなってケンカがなくなり、家族が和解して一つとなって、お父さんお母さんのケンカがなくなったり、兄弟でケンカをするようなこともなくなるのです。また、お友だちといつも仲良く過ごせて、泥棒や人を殺すような人がいなくなるのです。そして、一人寂しい思いをしたり、涙を流したり、病気で苦しんだりす

る人がなくなるのです。痛み苦しみがなくなるのです。

どうして、このようなことが起こるのでしょうか。それは、神が御支配されるということは、神の愛の御支配の内にぼくたち私たち一人ひとりが入るからなのです。

本当に、こんな素晴らしい世界が実現するのでしょうか。神を知らない人々は、自分の力でこのようなユートピアを実現しようとしています。しかし、人間には罪があるので、人間の力でこのような世界は絶対に実現しません。

しかし、いつか、このような世界が実現をするときが来るのです。それは、主の再臨の時です。イエスさまが再びこの地にやって来られる時なのです。そして、イエスさまが王となってこの地に御臨在御支配をされる時に、あらゆる悪がなくなり、そこには真の平和と真の慰めと、真の喜びがもたらされるのです。

だから、ぼくたち私たちは、「御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも」(10)という主の祈りに導かれて、主の再臨を待ち望みながら、「御国を来たらせたまえ」と心から祈るのです。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、御国を来たらせ給えと心からお祈りします。再臨によって、この地に真の平和を来たらせてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

「御国を来たせたまえ」と祈るときに、「神の国」が来るのは未来のことではなく、すでにこの世界に「神の国」は始まっており、完成に向けて進展していることを知る。「神の国」は神様の支配がすべてに及ぶところであるが、それは神様が人と共にある世界であり、神様は「神の国」を進展させるために人を用いられることをおぼえる。

〈展開例〉

以下の問答で分級を展開します。

1. 御国（みくに）とはどのような国でしょうか？

御国は「天国」、「神の国」と言い換えることもできます。それはどこにあるかということよりも、神様が共にいる状態であることが大切です。

2. 「御国を来たせたまえ」の「来たせたまえ」は「来させてください」という意味ですが、まだ「神の国」は「来ていない」のでしょうか？

私たちの生きているこの世界は罪によってゆがめられており、主の再臨により終末を迎え、新たにされなければなりません。しかし、「神の国」は主の誕生によってこの世界にもたらされ、今もキリストの教会として発展しています。

3. もうすでに「神の国」が来ているならば、なお「御国を来たせたまえ」と祈るのはなぜでしょうか？

キリストの教会が地上の「神の国」として進展し、完成するようにと祈ります。

4. 「神の国」の進展のため、あなたは何ができるのでしょうか？

「神の国」の進展は、神様の働きによりますが、神様は教会に属するものをその働きに用いられます。

礼拝、祈り、賛美、友だちを礼拝に誘うこと、神様に従う生活をする、勉強やスポーツに励み神様のお役に立てるように成長すること等、具体的に考えましょう。

〈祈り〉

神様、主の祈りをとおして、私たちに何を祈ったらよいかを教えてくださいありがとうございます。いま「御国を来たせたまえ」と祈るときに、あなたの御国が完成する日を待ち望むとともに、御国の進展のために神様が私たちをよくお使いいただきますように。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 御国をきたせたまえによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 私たちが心からこの祈りを祈ることができるよう自分自身の信仰と行いを吟味する。

〈展開例〉

質問1 子どもカテキズム問80によると、御国をきたせたまえによって何を祈り願うと書かれているか。

質問2 神様の恵みの支配とはどういう意味か。

質問3 神様の恵みの支配が教会の中で確立されるとはどういう意味か。

質問4 神様の恵みの支配が教会を通して広げられるとはどういう意味か。

質問5 イエスが再び来て神様の恵みの支配を完成するとはどういう意味か。

まとめ

主の祈り中二番目の祈りは、御国をきたせたまえである。一番目の祈りによって、神に対する献身を確認した私たちは、次に神の国の奉仕のために祈る。

子どもカテキズム問80は、御国をきたせたまえによって、神の恵みの支配が教会の中で確立され、広げられ、キリストの再臨によって完成されると教える。

この神の恵みの支配とは、神が王として世界を統治されるという意味であり、それが教会の中で確立されるとは、弱く救われてもなお罪を犯し続ける私たちではあるが、神に心から服従することを学ぶことによって、教会が神の小さな御国となっていくということを意味している。

また、救われたクリスチャンたちが、教会を通して周りの未信者に伝道を行い、救いへと導くことによって、この御国は伸展していく。この御国は、イエスの贖いによって既に小さく始まっているが、まだ全世界を覆うまでには大きくなっておらず完成の途上にある。イエスが再び地上に来られる時、全ての人は、神の支配に服し、信者は聖化され、御国は完成の時を迎える。私たちは、小さく弱い者であるが、その時が早められるよう、そしてそのために私たち自身が献身できるよう祈り求めるべきなのである。

〈祈り〉

神様、私たちがあなたの御国の民としてくださって、ありがとうございます。私たちは弱く、ともすれば、救われていながら罪の中に囚われて、教会の中ですらいがみ合うような愚かな者たちです。どうか、私たちがあなたの前に救われた者らしく歩み、互いに愛し合い、それを見る周りの未信者の人々が次々と救われていきますようお助けください。そして、このように始まったあなたの御国が、イエス様の再臨によって、早く完成の時を迎えることができますように心から願います。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



2月7日 「御心の天になるごとく」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム 問81

子どもカテキズム

問81 「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 私たちが、そしてすべての人も、

自分中心のわがままな心を捨てて、神さまの御心に聴き従う者とならせてください、
私たちがなすべきわざを喜んですることができるようになってください、
ということです。

証拠聖句 マタイ16:24、ルカ22:42

参考教理問答 ウ小教理103、ハイデルベルク124

〈御心と自分の心〉

何が御心なのかという問題は、難しい問題です。教理問答も語っていますように、神の御心と言いながら、それが自分のエゴイズムにすり替わっていき、御心を尋ねるべき神様を真実に見上げることなしに、人が自分のエゴを、さもそれが神の御心であるかのように語るということはいくらでも起きます。それはすべての人間が罪を持っているからです。すべての罪の根本は、自分を中心に据えて一人歩きをしたがる傲慢さ、プライド、エゴイズムです。しかし本当に「御心が行われますように」という祈りに私たちが出会う時、罪の中にある人間のエゴを越えた、大きな神の御心を発見するのです。

〈神の救いの意志としての御心〉

御心という言葉に私たちが圧迫感を感じることもあるとすれば、それは聖書が語っている御心という言葉で、自分の意志に反発するものとして捉え違えているためです。この聖書の御心という言葉には、要求、満足、さらには喜び、楽しみという意味も含まれています。よって神の御心とは冷淡なものではなく、それは喜び、楽しみといったような、それに従う者を喜ばせ、その楽しみに巻き込むような、私たちにとって好意的な神の御意志なのです。

よって「御心が行われますように」という祈りは、もうこの先なるようになれという諦めでは決してなく、自分の思いに無理に蓋をするという消極的な生き方でもありません。また御心は、私たちに襲う、私たちの力ではどうにもならない宿命、単なる冷たい運命として理解されることも正しくありません。御心とは、神様が私たちが御自身のもとに救い上げようとする、私たちへの神様の救いの御意志だからです。

〈主イエスは御心を願い祈ることを命じられた〉

キリストによって御国の支配は始まった、御心は為されたのですけれども、それはまだ世界のすべてに行き渡ってはいません。御心が世界のすべてに満たされる日は必ず来るのですけれども、未だそれは秘められています。

祈るということが、何か効果のない、愚かなことのように見なされてしまうようなこの世の中ですけれども、どんどん下へ下へと降っていくようなこの今の世界にこそ、聖書が語る神の救い、神様の御心が行われるということが本当に必要です。私たちは無神論が蔓延しているこの時代にあって、しかし天におけるように地の上にも、神様の良き御心が為されることを祈り願いつつ生きる者として、神様からこの世に派遣されているのです。
(吉岡契典)

2月7日

「御心の天になるごとく」

説教展開例

テキスト

マタイによる福音書 6章9～13節

カテキズム

子どもカテキズム 問81

〔単元のねらい〕

主の祈りの第三祈願である。キリスト者の歩みはまさにこの祈りに集約されると言ってよい。何よりもイエス・キリストご自身が、この祈りに生き通されたことを今一度思い起こしたい。父なる神の恵みのみ手に信頼して生きることのすばらしさを確かめつつ、この祈りを学びたい。

「みこころのままに」

神さまは天と地の造り主であられます。そして天と地と造られたすべてのものを今も保ち、支配しておられます。すべてのもの、すべての命に神さまのご計画があり、はからいがあります。

わたしたちの命と人生も、神さまのみ手のうちに置かれています。そして神さまは愛深い父であられますから、すべてのことがわたしたちの益となり、幸いとなるように配慮してくださっています。

主の祈りの三つめの願いは「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」です。この祈りが願い求めているのは、ひとつにはこの神さまの、父としてのみこころを知ることができるように、そして感謝することができるようにということです。この世界に対する神さまのご計画と、そのご計画をなしとげていかれるお働きはわたしたち人間の思いをはるかにこえてすばらしく、父なる神さまのわたしたちに対する愛と、その愛にもとづくご配慮も確かです。それゆえわたしたちは自分の命と人生を、安心して神さまのよきみにゆだねることができるのです。

もうひとつ、この祈りはわたしたちが神さまのよきみこころに従って生きることができるようにと願い求めます。神さまのお働きは恵みに満ちています。神さまはわたしたちが真の幸いを得ることができるようにはからってくださいます。そのことをするとき、わたしたちは神さまのみこころに従って生きることこそがほんとうに幸いな道であることを理解するのです。

神さまはみ言葉を通してみこころをはっきりと、豊かに教え示してくださるばかりか、み霊の導きによって、わたしたちがみこころを行うことができるように助けてもくださるのです。

神さまのみこころを、わたしたち人間はきわめ尽くすことができません。神さまは「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なる」「天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている」（イザヤ55:8,9）と仰せになります。神さまの思いとご計画はわたしたち人間の思いや計画をはるかに、高く超えているわけですから、神さまのみこころとわたしたちの思いとがいつも一致しているとはかぎりません。時に神さまのみこころは、わたしたちにとって不思議に思われるかもしれません。思いがけない、びっくりするようなことであるかもしれません。

イエスさまの母となったマリアは、み使いからあなたがイエスさまを胎に宿すことになるとのお告げを聞いたとき、ほんとうにびっくりしてしまいました。なぜ自分の身の上にそのようなことが起こるのか、神さまがなぜ自分のような貧しい者を、そのような大役をになう者としてお選びになるのかとマリアは驚き、とまどったのです。

けれども、神さまはなきにひとしい者をもお用いになって、すばらしい救いのみわざをなしとげてくださるお方であることを知ると、マリアはこ

の神さまのご計画を受け入れ、神さまに信頼してこのようにおこたえました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」(ルカ1:38)。

「お言葉どおり」「御心のままに」—イエスさまを信じて生きる人は、この祈りのもとに歩みます。み言葉に従い、御心を行うとき、私たちの人生の歩みを神さまご自身がきりひらいてくださいます。すべてを益としてくださいます。そのことを信じて、いつどのようなときにも「みこころのままに」と祈ることができるなら、素晴らしいことです。

わたしたちは神さまに祈ることを知っています。イエスさまはたえず祈りなさいと仰せになって、わたしたちに主の祈りを教えてくださいました。わたしたちはどんなことでも祈ってよいのです。

けれども祈った結果がわたしたちの願いとは別のことであったり、また祈りがいつまでも聞き届けられないということもあります。どうして神さ

まはわたしの祈りを聞いてくださらないのだろうか、と思うこともあるかもしれません。

けれどもそのようなときにこそ「わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている」とのみ言葉を思い起こしましょう。何がわたしたちにとって幸いなことなのか、ほんとうに必要なことなのかを知っているのはわたしたち自身ではありません。それを知っておられるのは父なる神さまです。わたしたちが強く願っていることが、もしかするとわたしたちにわざわいを招くことであるかもしれません。そうであれば神さまはわたしたちの願いどおりにはなさらないでしょう。

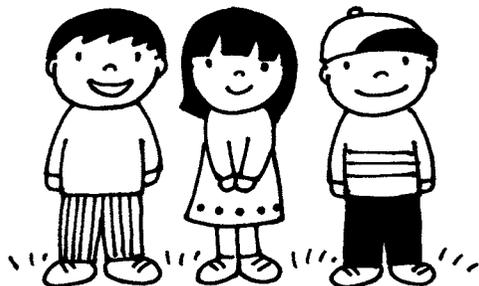
わたしたちにとって大切なことは自分の思い通りになることではなく、また神さまに自分の思い通りになることを願うことではなく、みこころを求め、みこころに従うことです。「みこころのままに」—この祈りに生きるとき、神さまはわたしたちの命と人生を豊かに祝福してくださるのです。(木下裕也)

[今週の暗唱聖句]

ルカによる福音書 1章38節より

お言葉どおり、この身に成りますように。

神さまは 私たちの味方



〈ねらい〉

神様の御心を知り、感謝して御心に従うことができるように祈り求める。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかながえてみましょう。

(「主のいのりマイブック」絵⑤を見ながら) この絵は何の絵か分かるかな? この絵には二つの意味があります。まず一つは、わたしたちが神さまの愛を「ありがとう」って素直に受けとること。神さまは、わたしたちのことが大好きです。どのくらい好きかっていうと、わたしたちのために、神さまの大切な子どものイエスさまを殺してしまう程、それくらいわたしたちのことを大好きなんです。この神さまの愛を「ありがとう」って受けとりましょう。

もう一つの意味は、わたしたちの大好きな神さまの心、神さまの願いを大切にすること

です。神さまは、お友だちやきょうだいを大切にしてもらいたいと思っているのだけど、「やだよ、やだよ」「お友だちがいじわるするから大切になんかできないよ」って思うことがあるよね。それから、神さまは、たくさんのお友だちが神さまを知って幸せになってもらいたいと願っているんだよ。でも、わたしたちは神さまの願いのことに知らんぷりしてしまっていないかな。

このお祈りは、神さまの御心を教えてください。わたしたちが神さまの願いどおり、お友だちやきょうだいを大切にできるように、神さまのお手伝いができるように、わたしたちの心を変えてください、というお祈りです。

〈祈り〉

天のお父様、わたしたちを愛してくださってありがとうございます。わたしたちが神さまをもっと大好きになれるように。神さまの願いどおり、お友だちやきょうだいを大切にできますように。わたしたちの心を変えてください。たくさんのお友だちが神さまのことを好きになれるように。そのために、わたしたちも、神さまのお手伝いができますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.121⑤を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、私たちが神の御心を求めて祈ることを主の祈りを通して学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、いつも、主の祈りを祈ります。今日ぼくたち私たちが学ぶ祈りは、「御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも」(10)という祈りの内の、「御心が行われますように」という部分です。いつもお祈りしている主の祈りの言葉では、「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」という部分です。

神さまの御心って何だと思えますか？(皆に聞いてみる……)。

ぼくたち私たちは、毎日神さまにお祈りをします。きっと皆色々なことをお祈りすると思います。そんなときに、ふっと、このお祈りは神さまの御心にかなっているのかな？このように考えてしまうことがあるかもしれません。ぼくたち私たちはこう思うんだけど、神さまは違うことを考えているのかもしれないな、お祈りしながらも、そう思うてしまうことがあるかもしれません。ぼくたち私たちに罪があります。そして、人間は自己中心的な存在です。だから、これこそが神の御心に違いないと勝手に思ってしまう、自分勝手なお祈りをしてしまうことがあるかもしれません。そして、これが神さまの御心でなかったらどうしようと思いつながらお祈りしていることがあるかもしれません。

神さまの御心は、決してぼくたち私たちにとって冷たいものではありません。ましてや、自分の思いを強制的に合わせて、つまらない人生にぼくたち私たちを導いていくようなものではありません。いわゆるこの世界で言われている、運命というものとはまったく違うのです。

神さまの御心とは何でしょうか。神さまの御心とは、ぼくたち私たちが喜んで従っていくことができるものです。その御心を通して、神さまは、ぼくたち私たちをご自身のもとに救い上げようとする、ぼくたち私たちを一番素晴らしい人生に導いていこうとする、神の熱い救いへの思いなのです。

イエスさまはゲツセマネの園で、「父よ、できることなら、この盃をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(マタイ26:39)と祈られて、ぼくたち私たちの救いのために喜んで十字架の死へと従って行かれました。神さまが、ぼくたち私たちに与えてくださる神さまの御心は、決して苦しめるためのものではなくて、ぼくたち私たちに、喜びや楽しみを与える、喜んで従っていくことができるものなのです。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、あなたから御心を示されたら、どうか喜んで従うことができる、そのような心を与えてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」の祈りから、神さまの御心を求め、御心に従う者となるためにはどうすればよいかを考え、神さまに信頼し、御旨に従って生きることのすばらしさを知る。

〈展開例〉

1. 天地を創られ今も全てを治めておられる神さまのご計画の中に生きている私たち。神さまのご計画は愛に満ちたものです。しかし、神さまの高く深い御心は、私たち罪深い人間にはなかなかわからない。

御心を少しでも理解できるようになるためにはどうすればよいか。子どもたちと一緒に話し合い考える。

- ・お祈りをする。
- ・聖書を読む。
- ・教会に来て、神さまを礼拝する。
- ・賛美歌を歌う。

2. 神さまの御心が自分の思いと違っていたり、祈りと違っている時がある。そんな時はどうするか。子どもたちと一緒に話し合い考える。

神さまの思いとご計画は私たちの思いや計画

をはるかに超えてすばらしいものであることを話す。神さまのなさることは100%間違いない。だから、どんな時も心から神さまを信頼して従って行くように話す。

自分の思いとは違ったけれどそれによって多くのことを学んだという話や、自分の思いとは別の道が与えられたけれどそれによりすばらしい歩みができたといった、関連する教師の証を語るのもよい。

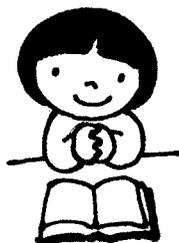
3. 神さまに目を向け、神さまの御心を求めて祈りつつ歩む時、神さまは私たちを必ず祝福してくださる。救い主イエスさまを信頼し、感謝して喜びをもって歩んでいくように話す。

〈祈り〉

天の父なる神さま御名をあげます。神さまの御心は私たちの思いを超えてはるかにすばらしいものですから、喜んで従って行くことができますように私たちをお導きください。イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 御心の天になるごとく地にもなさせたまえによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 学んだ意味に照らして、私たちの信仰の姿勢を吟味する。

〈展開例〉

質問1 子どもカテキズム問81によると、御心の天になるごとく地にもなさせたまえでは、何を祈り願うとあるか。

質問2 神の御心とは、どんなものだと思うか。

質問3 あなたは、神の御心に従おうとしているか。従おうとして、失敗したことがあるか。それはどんな時か。

質問4 あなたは、なすべきわざを喜んでしているか。していないとしたら、それはなぜか。

質問5 地上の生涯において、イエスは、この神の御心に従うということについてどのような模範を示されたか。

まとめ

主の祈りの三番目の祈りは、御心の天になるごとく地にもなさせたまえである。御国を来たらせたまえと祈った私たちは、その祈りの背景となる、神の御心に従うことを祈り求めていく。神の御心

とは、神が私たちの益のために愛と慈しみをもって立てられた御計画のことである。神の御国の到来は、神の御心の中心をなすものであるが、それは、神の御心を真実に求める人々によってのみ、早められるのである。弱い私たちの内には、御心を求める思いも、それに従おうとする思いや力もないが、神にその力を祈り求める時に、神は、祈りに応えて私たちに御心に従う思いと力を与えてくださる。

イエスは、私たちと同じようにこの地上で肉体を取って生きられた。十字架を目前にしたゲッセマネの園でイエスは、御自分を待つ十字架の苦しみと辱めを前に、これを可能であるなら去らせてくださるよう神に祈り求められたが、その祈りは、最後に御心がなされるようにという神への服従で締めくくられた。神の独り子自ら、弱い私たちのために、御心をなす力を神に祈り求めるよう模範を示された。私たちは、この模範に従う者でありたいと願う。

〈祈り〉

神様、私たちのために素晴らしいご計画を立ててください、ありがとうございます。私たちは、近視眼的で、目の前の利害にしか目の行かない愚かな者たちです。しかし、どうかこの弱く愚かな者たちを強めて、イエス様のように、心を尽くしてあなたの御心を求め、それに従う者とならせてください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



2月14日 「日用の糧を与えたまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム 問82

子どもカテキズム

問82 「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 神さまこそが、私たちのすべての必要を備えて、楽しませてくださるので、私たちの毎日の食べ物をください、神さまにのみ頼らせてください、ということです。

証拠聖句 テモテ4:3-5、使徒14:17

参考教理問答 ウ小教理104、ハイデルベルク125

〈日用の糧について〉

日用の糧とは、もともとパンという言葉です。我らに今日を生きるためのパンを与えたまえというストレートなこの祈りに、私たちはがめついものを感じるかもしれません。けれどもこの祈りは、重要度の低いような祈りでは決してありません。主の祈りは、パンというものを、神の御国とか神の御心に比べて低いものとしては見ていません。私たちの現実的な生活を具体的に考えてみると、このパンこそが、そこではとても重要であることがわかります。日々のパンのやりくり、それに類することこそが、私たちの具体的な生活の中では重要な事柄なのです。そして主イエスはそれを、罪の赦し、誘惑からの守りに先駆けて、文字通り主の祈りの真ん中で取り上げてくださったのです。

もし神様が、私たちの日常生活の大部分を占めているようなパンへの関心から目を背けられるのだとしたら、私たちはほんのわずかな、うわべだけの、生活から離れた高尚な部分だけで神様と関わりを持つ以外なくなります。けれども私たちの神様は、この私たちの生活の大部分を占めるパンのために、主の祈りを用いて祈ることを許して下さる神様です。この祈りによって私たちは、この生活のすべてを神様の前に持っていくことができます。隠し立てせず、それを神様の前に祈りとして願い求めることができます。

〈すべての必要を満たして下さる神様〉

そしてこの祈りを祈る者は、すべての必要を神様に願うと同時に、与えられたすべてのものを神様からのものとして感謝して受け取る者となります。私たちが自分の働きで自分を養い得ているとは、この主の祈りは考えていません。私たちは食事のパンを前にしてこの祈りを祈る時、日ごとの糧を与えて下さる神様に感謝をし、その糧と共に、そのために働いた私たちの労働をも、神様によって与えられた恵みとして受け取るのです。

またこの祈りは、私たちの限りない欲望を制限する祈りでもあります。私たちに「必要な」糧を、「今日」与えてください。これらの言葉によって、「今日」与えられる糧に満ち足りることが教えられています。

〈靈的な糧〉

そして最後にこのパンを求める祈りは、肉体を生かすパンだけに留まらず、靈的な、魂を生かすパンへの求めでもあります。「私たちに必要な糧を今日与えてください。」と祈る私たちの祈りは、私たちに命を与えるために天からくだってきた命のパンである主イエス・キリストによって、既に答えられています。私たちはキリストを、今日の私たちを生かす命のパンとして与えられることができるのです。(吉岡契典)



テキスト マタイによる福音書 6章9～13節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問82

〔単元のねらい〕

第四祈願は日々の糧を求める祈りである。日々の糧は神の賜物であり、感謝しつつ隣人とともに分け合うべきものであることを覚えたい。さらに日々の糧とは肉体を養う糧のみならず、魂を養う糧、すなわちみ言葉をも意味していることを確かめたい。わたしたちを霊肉ともに豊かに養ってくださる神に感謝したい。

「神さまの恵みをわかちあう」

主の祈りの呼びかけの言葉は「われらの父」です。この呼びかけは、わたしたちが主の祈りを祈るとき、ひとりぼっちで祈っているのではないということをあらわしています。神さまはわたしたちが孤独に生きることをみこころとなさらず、隣人を与えてくださいました。イエスさまは「あなたの神である主を愛しなさい」（マタイ22：37）とおっしゃるとともに「隣人を自分のように愛しなさい」（同39）とお命じになりました。神さまはわたしたちにふたつの喜びを与えてくださったのです。神さまを愛する喜びと、神さまのみ手の中でおたがいに愛し合う喜びです。

主の祈りは、全体をふたつに分けることができます。前半の三つの祈りは神さまを愛して生きることにかかわる祈りです。後半の三つの祈りは神さまの愛をいただいて、隣人との愛の交わりに生きることにかかわる祈りです。

わたしたちは神への愛と隣人への愛、このふたつの愛に生き抜くことができるようにと神さまに祈り求めます。神さまはわたしたちの祈りにこたえて、わたしたちがふたつの愛に生きることができるよう助け導いてくださるのです。

主の祈りの四つめの願い—隣人を愛する喜びにかかわる最初の願いは「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」です。

「日用の糧」とは、日々わたしたちの体を養う食物です。父なる神さまはわたしたちがこの地上

を生きていくのに必要なすべてのものを備えてくださいます。食べるものも、着るものも、目に見えるものも見えないものも、わたしたちの命を養い保つすべてのものは神さまから来ます。神さまを知らない人は、それらのものは自分で手に入れるものだと考えているかもしれませんが、そうではありません。すべては神さまからの恵みのプレゼントであり、それゆえ祈り求めるべきものです。

日々の食物もまた祈り求めるべきものです。わたしたちの命を養ってくださる神さまは、日々の食物を豊かに与えてくださいます。

ただ、ここで主の祈りがともに生きるための祈り、ともに愛し合うための祈りであることを忘れないでください。神さまからいただくパンは、自分がひとりじめするためのパンではありません。隣人とともに分け合うためのパンです。パンを食べることは、おたがいに愛し合うことなのです。おたがいの命のために配慮し合うことなのです。

食べるものだけではありません。神さまからいただくすべてのものを、わたしたちはともに分け合います。そのようにするときに、神さまはわたしたちを豊かに祝福してくださるのです。「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」—この祈りにおいてわたしたちは、神さまが日々わたしたちを豊かに生かしてくださることに感謝し、わたしたちの命に必要なすべてのものを神さまに求める祈

りであるとともに、わたしたちがおたがいを真実に愛する愛の喜びに生きることができるようにと願ひ求める祈りなのです。

もうひとつのことを確かめておきたいと思います。人間が生きていくためには、体を養う食物も大切です。神さまはわたしたちの体を日々養ってくださいます。

けれども肉体の糧だけでは、人はじゅうぶんに生きることはできません。なぜなら神さまは人間を体のみならず、魂をもつ者として造られたからです。そして神さまはわたしたちの魂と体のいずれにおいても主なるお方です。

つまりわたしたちが生きていくためには、肉体の糧だけではなく魂の糧も必要なのです。魂の糧とは神さまのみ言葉、命のみことばです。イエスさまは「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」(マタ

イ4:4) と仰せになりました。

神さまはわたしたちの魂を豊かに養ってくださいます。わたしたちの魂は飢えることはありません。主の日の礼拝で、また六日間の家庭での礼拝で、わたしたちは日々命の糧であるみことばをいただきます。みことばを分かち合います。そのようにして、わたしたちの命はすこやかに生かされるのです。

「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」—この祈りは日々の食物を祈り求めるとともに、霊の糧を祈り求める祈りでもあります。荒れ野を旅したイスラエルの民を、神さまは朝ごとにマナによって養われました。このことはわたしたちを養う肉体の糧、霊の糧のどちらにも当てはまります。わたしたちにも朝ごとに新しい命の糧が必要です。日々食事をするように、朝ごとに聖書を開き、天からのマナをいただきましょう。(木下裕也)

[今週の暗唱聖句] ヤコブの手紙 1章 17節前半

良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。

ありがとう
イエスさま



〈ねらい〉

わたしたちに必要なものを与えてくださる神様に感謝することを覚え、必要のために祈る。他の人の必要のために祈れるようになる。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかかえてみましょう。

先生が外国に行った時、みんなみたいにキレイな服じゃなくて、穴のあいた服しか着てないお友だちや、食べる物や飲む水が少ししかないお友だちがいました。わたしたちが朝、昼、晩ちゃんご飯を食べられるのは、当たり前じゃないんだね。

お父さんやお母さんが一生懸命働いてくれて、おいしいお料理を作ってくれるから食べられるんだけど、それも全部、神さまがわたしたちに必要なものを与えてくださるからなんだよ。食べ物だけでなく、着る服や元気にあそべる体、病気に

なった時のお薬、さびしいときのお友だち、大人になった時に役に立つおべんきょう、そして、生きていくのにたいせつな聖書のことば。みんな神さまがわたしたちに必要なことを知っておられて、必要な時に与えてくださるんだよ。だから、わたしたちはいつも「神さまありがとうございます」ってかんしゃしていようね。

それから、他のお友だちにも必要なものを与えてくださいって、お友だちのためにも祈ろうね。

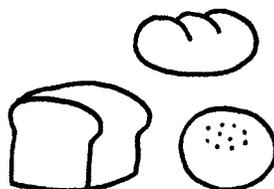
〈祈り〉

天のお父さま、わたしたちにいつも必要なものを与えてくださってありがとうございます。食べ物や着る物、お友だちや家族を与えてくださってありがとうございます。イエスさまのことを教えてくださいありがとうございます。これからも必要なものを与えてください。ご飯がちゃんと食べられないお友だちにご飯を与えてください。病気のお友だちに治す薬を与えてください。寂しい子にお友だちを与えてください。イエスさまのことを知らない子にイエスさまのことを教えてあげてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.121⑥を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、私たちが主の祈りを祈る中で、神さまが私たちの毎日の糧を与えてくださるお方であることを学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、いつも、主の祈りを祈ります。

「天にましますわれらの父よ」。主の祈りは、この呼びかけで始まります。私たちは一人で主の祈りを祈ります。でも、主の祈りは、「われらの父よ」で始まるのです。一人で祈る主の祈りだけれども、教会に行けば、その主の祈りを他のお友だちも一緒に祈っているのです。ですから、ぼくたち私たちは、一人ぼっちではないのです。どんなに苦しくても、どんなに辛くても、ぼくたち私たちは一人ぼっちではありません。同じ天のお父様を、「われらの父よ」と呼ぶ、多くのお友だちがいるのです。ぼくたち私たちは、天の父なる神さまを本当のお父様とする、神の家族の一員なのです。ですから今日も平安の内に主の祈りを祈りたいと思います。

さて、今日ぼくたち私たちが学ぶ祈りは、「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」(11)です。ぼくたち私たちの天のお父様は、真の天のお父様で、ぼくたち私たちの必要を満たしてくださる神さまです。

ぼくたち私たちのお父さんも、ぼくたち私たちのことをいつも心配して、毎日の糧や必要なものを与えてくれるでしょう。そうであるなら、なおさら天の父なる神さまは、ぼくたち私たちの真の

天のお父様なので、ぼくたち私たちのすべての必要を満たしてくださるのです。

ぼくたち私たちは、心から「日毎の糧を与えたまえ」といつも祈っているでしょうか。教会のことやお友だちのことをお祈りするのは、霊的な良いお祈りで、ぼくたち私たちが良く祈る祈りだけれども、「何かを与えてください」と祈る祈りは、あまりしてはいけないのではないかと考えてしまうこともあるかもしれません。でも、ぼくたち私たちは、体を持って生きているのです。体が元気なら、喜んでイエスさまに従っていくことができます。でも、体が元気でなくなったら、心まで弱ってしまって、イエスさまに従うことができなくなってしまうと思うのです。だから、実は、天の父なる神さまに、「日毎の糧を今日も与えたまえ」と祈ることは、とても大切なことなのです。

毎日の生活の中で、ぼくたち私たちは、色々な欠乏を感じることもあると思います。そういうときに、この主の祈りを祈ることによって、ぼくたち私たちのすべての必要を満たしてくださる、私たちの天のお父様を信じて歩いていきたいと思えます。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、ぼくたち私たちは一人ぼっちではありません。あなたを真の父とする神の家族に入れられていることを感謝します。どうか毎日の必要を今日も満たしてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

イエスさまが「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」(マタイ4:4)とおっしゃったことを、子どもたちの生活の中ではどういうことかを理解する。

〈展開例〉

(分級の出席者に契約の子と未信の家庭から来ている子どもが混じっていることを前提に展開します。食品がたくさん載っているカラフルなスーパーのチラシとパンを一個、そして御言葉の書かれている豆カードを準備します。)

私たちの住む日本の国は今、食べ物が非常に豊かにあります。スーパーの食品売り場には野菜や果物、肉や魚がきれいにたくさん並んでいます。コンビニに行くとお弁当や、おにぎり、サンドイッチなど食べたい時にお金さえあれば、何でも食べることができますね。

先生は大人になってからイエス様を信じたので、皆さんと同じ小学生の時は食事の前に「いただきます」と決まり文句を言って、誰に感謝をするわけでもなく食べていました。でも教会に来て礼拝に出席し、聖書を読み、洗礼を受けてからは、食べものは神さまからの恵みであることを知りました。そして、「神様、この食事を感謝します」

とお祈りをしてから食べるようになりました。

ここに一個のパンがあります。お腹がすいた時、パンを食べると、空腹を満たしてくれて、体を動かすエネルギーを与えてくれます。でも、ここで感謝をしないと、犬や猫が餌を食べるのと同じになってしまいます。

息をして体を動かせることだけでは「生きている」とは言えません。神様が共にいてくださるとき本来の人間として「生きている」と言えるのです。

お腹がいっぱいでも、これから何をしようか、どう生きようかという、生きる目的や喜び、希望がないと、私たちは生きて行けません。

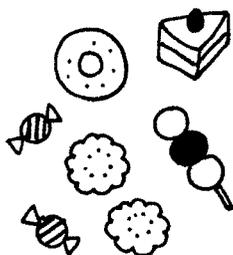
これらを与えてくださるのが神様の御言葉です。(適切な御言葉を聖書やカードからいくつか選び、読みます)

〈祈り〉

神様、毎日私たちに豊かな食事と御言葉よる心の糧を与えてくださることを心から感謝いたします。世界には貧しくて食事を十分にできない子どももいます。どうか守り助けてください。アーメン。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 日用の糧を与えたまえによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 私たちが日々の必要を主に信頼しつつ生きているのか吟味する。

〈展開例〉

質問1 子どもカテキズム問82によると、我らの日用の糧を与えたまえで祈り願っているものは何だとあるか。

質問2 我らの日用の糧とは、何を意味しているか。

質問3 私の日用の糧ではなく、我らの日用の糧と複数形になっているのは、なぜか。

質問4 神は、祈る前から私たちの必要をご存じなのになぜ私たちはこのように祈る必要があるのか。

質問5 私たちは、毎日の生活に必要なものをこのように主により頼んで祈り求めているだろうか。

まとめ

主の祈りの中で、最初の三つの祈りは、神の栄光を求める祈りであった。続く、第四の祈りでは、我らの日用の糧を与えたまえと私たちの生活の必

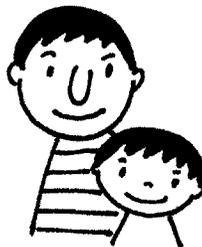
要を神に祈り求めている。子どもカテキズム問82によれば、この祈りによって求めているものは、私たちの毎日の食べ物をくださるようお願いすること、神にのみより頼ませていただきたいと願うことである。

子どもカテキズムでは、子供たちにわかりやすいように、日用の糧とは、文字通り食べ物と表現されているが、この日用の糧とは食べ物に留まらず、私たちが生きるために必要な全てのものを指していると考えられる。そして、私たちは、それを自分だけのために祈るのではなく、私たち、すなわち、神の家族である他の兄弟姉妹の必要のためにも祈るのである。

私たちを愛し、祈る前から必要な全てを備えてくださる神に、私たちは、この祈りによって日々自覚的により頼み、他の兄弟姉妹のためにもとりなし、神の愛の御業に日々感謝をささげつつ歩んでいくのである。

〈祈り〉

神様、私たちを愛し、私たちの必要をいつも満たしてください。ありがとうございます。信仰薄く、自己中心な私たちですが、いつも日の光のように私たちの上に豊かに降り注ぐあなたの愛に信頼しつつ、また、他の兄弟姉妹の必要のためにもとりなしつつ、あなたの御業に感謝をささげながら歩んでいくことができるようお助けください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



2月21日 「我らの罪を赦したまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム 問83

子どもカテキズム

問83 「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 イエスさまの恵みによって罪赦されていることを繰り返し思い起こし、自分たちも隣人を赦すことができるようにされていることを心に刻みつけてください、ということです。

証拠聖句 マタイ6:14~15、18:21~35

参照教理問答 ウ小教理105、ウ大教理194、ハイデルベルク126、ジュネーブ280~286、キリスト教初歩教理問答119

〈イエスさまの恵みによって〉

「イエスさまの恵み」は、とくに「罪の赦し」において与えられます。その恵みは、決して、わたしたちにとって、遠いところに取りにいかなくてはいけないものではなく、いつも身近に、しかも、心にしっかりと受け入れるべき「恵み」です。それは、食べ物などの恵みと同じように、「繰り返し思い起こす」ことによって、一層、味わい深く、感謝をもって受け入れることができるのです(詩編63:6、詩編143:5)。

「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました」(コリント二5:21)というイエスさまの恵みを、神の救いの御業の中で、覚え直すとき、わたしたちは、自分自身にその恵みを受ける資格を全く認めないことへと導かれます。そして、イエス・キリストの十字架に神の救いの御業を受け入れるとき、わたしたちは、神との生きた関係を失った者が、神との生きた応答関係(礼拝の良心)を回復されたものとして、ことあるごとに、神さまの前に、その心を明け渡して祈ることへと、さらに、導かれていくのです(ヘブライ9:14)。

「神よ、わたしを憐れんでください」(詩編51:3)とは、罪赦されている者自身の、切なる、罪の告白であり、赦しの嘆願なのです。

〈自分たちも隣人を赦すことができるように〉

イエスさまの恵みが、罪の赦しという、神との生きた関係を回復するものであるとすれば、わた

したちの人間関係は、おのずと、その関係において、この神の救いの御業を反映するものとして現れてきます。それは、神の救いの御業とは、「神がお遣わしなされた者(神の愛する独り子、イエス・キリスト)を信じること、それが神の業」(ヨハネ6:29)であり、イエスさまは、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ15:12)とお命じくださるからです。

イエスさまの恵みを信じて祈るとは、神の救いの御業そのものであり、それは、罪赦された者(イエスを主と告白する兄弟姉妹たち)同士の相互の愛において確かに覚えられていきます。わたしたちは、しばしば、親しい者同士であるがゆえに、傷つけ合い、痛みを負います。しかし、そのようなときこそ、イエスさまの負われた十字架の贖いにおける赦しを深く知る機会です。その関わりは、イエスさまの恵みによって罪赦された者としての関わり合いです。それは、関わるゆえに、罪を正当化したり、見過ごしたりすることではありません。神の憐れみによる真実の人間関係の回復(良心と世界の平和)とその道を信じて、赦し合います。「罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から救い出し、多くの罪を覆うことになる、と知るべきです」(ヤコブ5:20)。

人々の救いのために、忍耐しておられる主の救いの御業を信じつつ、日々、祈りを新たにさげましょう(ペトロ二3:9,15、ヨハネ一5:16)。

(宮武輝彦)

テキスト マタイによる福音書 6章9～13節
カテキズム 子どもカテキズム 問83

〔単元のねらい〕

「主の祈り」の「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」について学ぶ。罪の赦しを求める祈りであり、福音の核心にある祈りである。罪の赦しが絶対に必要であること、これを求めて祈ることを教えたい。もちろん、すでに与えられている恵みであるが、求めることによって与えられる恵みなのである。赦されて生きることなしに、わたしたちの命はない。そして、罪の赦しに生きる共同体があり、そこに召されていることを感謝し、喜びたい。

「罪の赦しに生きる」

「主の祈り」を学んでいます。今日は、「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」です。「罪を赦してください」と祈る祈り、罪の赦しを求める祈りです。

この罪の赦しということは、わたしたちにとって、いちばん大切なことのひとつです。このことは、教会に集められて、神さまを礼拝しているわたしたちにとって大切だというだけではなく、本当は人間みな、すべての人にとって、罪の赦しということがいちばん大切なのです。

ちょっと考えてみてください。お友だちとけんかすることがあるでしょう。兄弟でけんかをしてしまうこともあるでしょう。そんなときに、もし相手のことを赦すことができなかつたら、どうなるでしょう。あるいは、自分が悪いことをしてしまって、あやまっても赦してもらえなかつたらどうなるでしょう。赦さないで、どういうことになるのでしょうか。相手がいなくなればよい、と思うようになるのです。赦さないとは、相手のことをいなくなってしまうよと言って、相手はいないものにしてしまうのです。

「ドラえもん」に、「独裁スイッチ」というお話があります。のび太くんがお友だちにいじめられて、「独裁スイッチ」という道具を使うのです。いじめたお友だちを思い浮かべて、「あいつなんかいなくなつてしまえ」と思って、そのスイッチ

を押すと、そのお友だちがいなくなってしまう。消えてしまうのです。のび太くんは、最初は、いじめたお友だちを思い浮かべてスイッチを押して、そのお友だちがいなくなったことを喜ぶのですけれども、そのうち、自分にいやなことをする人をだれでもかれでも消すようになります。自分のことを叱る親や先生もいなくなってしまうと思つてスイッチを押してしまいます。そうして、気づいてみると、のび太くんは一人だけになっていました。自分がちょっとでもいやだと思つた人を消していくと、もうみんなを消してしまうことになって、ついには独りぼっちになってしまった。そうして、のび太くんは、自分がしてきたことがどんなに愚かで間違つていたかということに気がつくというお話です。

赦さないとは、相手のことを消してしまうことです。それは、立場を変えると、わたしも消されてしまうということです。相手が赦してくれないと、わたしも消されてしまうのです。

わたしたちは、どんなにしっかり生きていこう、間違つたことをしないで、人を傷つけないで生きていこうと思つても、どこかで必ず人を傷つけてしまつています。それだけでなく、意地悪をしたり、悪い心で人を傷つけることもたくさんしてしまいます。わたしたちには、自分のことばかり考えて、自分がよければ人のことはどうでもよいと

いう性質があります。そのため、人を傷つけても平気なのです。人はみな罪人なのです。神さまから離れて、わたしたちはみな悪い者になってしまった。善いことをしようとしても、善いことだけをして生きることができません。どこかで悪いことをしてしまうのです。残念ながら、わたしたちは、そのような罪人なのです。

そして、わたしたちは「独裁スイッチ」を持っていません。いや、持つことがあってはならない、使ってはなりません。わたしたちは、神さまによって造られ、この世界に生まれて、だれも決して消えてよい人はいません。消してしまってよい人は一人もいません。神さまは、しっかり生きていくように一人ひとりを生まれさせてくださったのです。そして、家族として、お友だちとして、同じ家で、同じ学校で、同じ社会で生きていくようにと、生きる場所を与えてくださいました。そこから消してしまってよい人は一人もいません。

そうであれば、わたしたちは、赦し合わなければなりません。それが、一緒に生きる、共に生きるための、絶対に必要です。傷つけられても、裏切られても、赦さなければなりません。自分がした悪いこと、失敗したこと、人を傷つけてしまったこと。これも、何と少しでも赦してもらわなければなりません。赦してもらえなければ、消えてしまうことになってしまいます。

神さまは、わたしたちが決して消えてしまうことがないように、イエスさまをくださいました。十字架につけられてくださって、イエスさまは、わたしたちのために死んでくださいました。

わたしたちは、神さまに対して罪を犯しています。神さまに対して悪い者です。わたしたちは罪人であって、神さまがわたしたちを消しても仕方がない、わたしたちのことをもういなくてよいとおっしゃっても仕方がないほどなのです。

けれども、イエスさまが死んでくださって、よみがえられました。そのイエスさまの死とよみが

えりの命によって、わたしたちは、生きていてよい、と言われていました。神さまは、わたしたちを消すのではなく、決して消えてはならない、しっかりと生きていきなさいとおっしゃって、わたしたちを赦してくださっています。イエスさまは、わたしたちに、神さまによる、この罪の赦しを与えてくださったお方なのです。

わたしたちは、このイエスさまに結び合わせられて、罪を赦されています。イエスさまの十字架によって罪を赦されています。そして、神さまが赦してくださったことは、わたしたちの罪の赦しの土台であり、始まりです。わたしたちが生きるために、互いに罪を赦し合うことが必要です。赦されなければ、生きることができないわたしなのです。そのことを知って、赦しを求めることに生きることが必要です。赦しを求めて生きる。そして、人を赦して生きる。そのことが必要です。赦し合って生きなければなりません。だから、イエスさまは教えてくださいました。「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」。「わたしたちに罪を犯す人を赦しますから、わたしたちの罪も赦してください」。これは、罪の赦しに生きるためのお祈りなのです。

イエスさまは、このお祈りをお弟子さんたちに教えて、教会を罪の赦しに生きる群れにしてくださいました。イエスさまの十字架によって罪を赦され、お互いの罪を赦して、赦されて、生きるのです。教会において、罪を赦し、赦されることが実現しています。神さまは、そのような群れを地上に建ててくださるためにイエスさまをくださったのです。ですから、赦しを求めて祈りましょう。赦すこと、赦されることを求めて祈りましょう。教会に属して、お友だちの罪を赦して、そして、自分の罪も赦されて生きる。その恵みと喜びをたくさん味わってください。ここではだれも消されない。いなくてよい人は一人もいません。みんな、神さまの家族なのです。 (望月 信)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 6章12節

わたしたちの負い目を赦してください、
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

〈ねらい〉

自分の過ちを謝ること、赦してもらえる喜びを知る。他の人を赦すことの大切さを知る。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかながえてみましょう。

しょうちゃんという元気な男の子がいました。しょうちゃんは、悪いことをすると、いつもお母さんに「あやまりなさい」と言われているけれど、お口がくっついてしまって謝ろうとしません。ある時、保育園で欲しかったおもちゃをお友だちが使っていたので、お友だちをけとばして、無理やりおもちゃを取ってしまいました。お友だちは泣いてしまいました。泣いているお友だちを見て、しばらくしてからしょうちゃんは、自分からお友だちに「ごめんね」と言いに行きました。お友だちは泣きながら、しょうちゃんの方をちらっと見

て「いいよ」と言ってくれました。

「ごめんなさい」と言うのはなかなか難しいね。しょうちゃんのお友だちみたいに「いいよ」って言ってくれるかどうかわからないしね。でも、神さまに「ごめんなさい」って謝ったら、必ず「いいよ」って赦してくださるんだよ。イエスさまがわたしたちの代わりに十字架にかかってくださったお陰で、神さまはわたしたちのこといつでも赦してくださるんだよ。

神さまに「いいよ」って赦してもらってるわたしたちは、お友だちにも素直に「ごめんなさい」って言えるようになりたいね。そして、お友だちに嫌なことをされても、どんなに怒っていても、最後には「いいよ」って言って赦してあげられるようになりたいね。

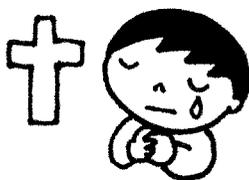
〈祈り〉

天のお父さま。わたしたちは、いつも神さまを悲しませることばかりしてしまいます。ごめんなさい。お友だちに嫌なことをされても、「いいよ」と言えるように私たちの心を変えさせてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.121⑦を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、主の祈りを通して、ぼくたち私たちの罪を赦してくださるイエスさまについて学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、主の祈りで、「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」と祈ります。聖書には、「わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように」(12)とあります。

ぼくたち私たちにとって一番大きな問題は、罪の問題です。罪って何だろう？(皆に聞いてみる……)

罪と言うと、何か悪いことをするとか、犯罪を犯すとか、泥棒をするとか、ぼくたち私たちは、そのような目に見える罪を考えてしまいます。でも、聖書が語る罪は、もちろん今挙げたようなことも罪なんだけれども、聖書は人間が神を否定する、神を知らないということそれが罪だと言っているのです。神を否定するとどうなるのでしょうか。ぼくたち私たちが、神を否定すると、どうなるのでしょうか。そうすると、すべてが自分中心になるのです。そして、何でも自分を中心に考えるようになってしまいます。そうすると、ぼくたち私たちが、お友だちとケンカした時に、自分が悪かったとは考えないで、自分にこんなことをした相手が悪いに決まっていると、一方的に考えてしまうのです。このように神を否定した人間は、

ぼくたち私たちは、どこまでも自己中心的な歩みをするようになってしまうのです。

だから、ぼくたち私たちは「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく」と祈らなければなりません。ぼくたち私たちが悪いことをする、嘘をついてしまう、ケンカをしてしまう、お父さんお母さんの言うことを聞くことができないのは、結局ぼくたち私たちが神に背を向けているからなのです。神を否定しているからなのです。ですから、神を否定していた罪を神の御前で心から悔い改めて、神さまに御免なさいと言って、イエスさまを信じていくときに、そのような自己中心的な心から解放されて、自分の心の中にあった、神を否定していた罪を知るだけではなくて、お友だちの罪を赦すこともできるようになるのです。

「わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように」(12)。

神さまに罪を赦された人だけが、お友だちの罪を赦すことができるようになるのです。あなたは、自分の罪が赦されていますか？そして自己中心的な思いから解放されて、お友だちの罪をも赦しているでしょうか。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、ぼくたち私たちの罪を十字架で赦してください感謝します。そして、どうかぼくたち私たちがお友だちの罪を赦すことができるように導いてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

罪の赦しが必要であり、日々悔い改め、罪の赦しを祈り求めねばならない。

キリストの十字架により、罪が赦されている神の子として生きる私たちは、互いに罪を赦し、赦されて生きることを求めて祈っていこう。

〈展開例〉

1. 神様はイエス様の十字架の死により、イエスさまの救いを信じる私たちのあらゆる罪を一方的に赦してくださいました。神様の恵みに感謝しましょう。

人を傷つけてしまったこと、意地悪をしたこと喧嘩をしたことなど自分の罪について語り合おう。

罪を赦されている私たちですが、知らず知らずに罪を犯してしまっていますね。罪の赦しを求める祈りは一回限りではありません。日々犯している罪を悔い改める祈り「我らの罪を赦したまえ」と祈りましょう。

2. 人から受けた嫌なこと、悪いことをされたときの気持ち、悪いことをしたことについて気がついてあやまったけれど赦してもらえなかったことなど、子どもたちと話し合ってみよう。

そのような時、赦すことができず復讐したいと思うことがあるかも知れないが、復讐は神様がなさることです。隣人を憎むのではなく、隣人を愛して罪を赦すことを、神様は求めておられます。

わたしたちの力ではなく、神様の恵みにより、またイエスさまによって、わたしたちも隣人を心から赦すことができるようにされているのです。

3. 「我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」。「わたしたちに罪を犯す人を赦しますから、わたしたちの罪も赦してください」。この祈りは、イエスさまがお弟子さんたちに教えてくださったお祈りです。

罪を赦された者として、お互いの罪を赦し、赦されて生きるのです。心から隣人を赦す者は、イエスさまの十字架によって「すべての罪を神様が一方的に赦してください」を期待できるのです。

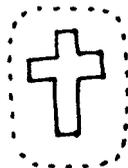
イエスさまのように、隣人を赦す心を身につけることができるように求めて祈っていきましょう。毎日のお祈りに自分の犯した罪の赦しと、隣人の罪を赦すお祈りをしていきましょう。

〈祈り〉

天の父なる神様、御名を賛美します。わたしたちの罪を赦してくださいのために、イエスさまをこの世に送ってくださったことを感謝します。神様に罪を赦された者として、お友だちの罪を赦すことのできる子どもにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 我らの罪を赦したまえによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 神に罪を赦されている自分と、その自分が他の人の罪を赦す必要について理解する。

〈展開例〉

質問1 子どもカテキズム問83の我らの罪をも赦したまえでは、何を祈り願っているか。

質問2 私たちは、なぜ罪を赦されていることを繰り返し思い起こす必要があるのか。

質問3 私たちが心に刻みつけるべきこととは、何か。

質問4 私たちの罪が赦されることと私たちが他の人の罪を赦すこととはどのような関係があるか。

質問5 罪を赦すことについて、イエスはどのような模範を示されたか。

まとめ

子どもカテキズム問83では、我らの罪を赦したまえによって、私たちの罪が赦されていることを繰り返し思い起こさせ、私たちが隣人を赦すことができるようにされていることを心に刻みつけてくださるよう祈っている。

私たち人間は、忘れっぽく、イエスの贖いの業により罪を赦されていても、その感謝をすぐに忘れてしまう愚かな者である。そのために、この祈りによって、私たちが罪深い自分自身を思い起こし、謙遜にさせられ、それを赦してくださった神の愛を覚えて感謝をささげることができるように

させられるのである。

また、私たちは、隣人を赦することができるようにされているということを心に刻みつけるべきである。それは、私たちは傲慢になって、自分の大きな罪が神から赦されていることを忘れる一方で、他人が自分に犯した些細な罪さえもいつまでも覚えていて赦そうとしないからである。そのような時、私たちの心からは、謙遜も感謝も消えて、神から罪を赦されたという恵みは私たちの心から失われている。神の罪の赦しの恵みから離れることのないよう、私たちはいつも他人の罪を赦そうとする心を持たなければならない。

私たちの罪は、キリストの贖いによって赦されるのであり、その事と私たちが他人を赦すことは直接的には関係ない。しかし、私たちが他人の罪を赦さないなら、神の罪の赦しの恵みは、消えてしまうのである。

イエスは、罪のない方であられたのに、また、正当に罪人を裁く権限をもっておられる方であられたのに、性急に人を裁くことを決してなさらなかった。十字架にかけられた時ですら、自分たちが何をしているかわからない群衆のために赦しを祈られた。私たちも主の模範にならって、たとえ自分の敵に対してであっても、罪の赦しを神に祈り求める者とならせていただきたい。

〈祈り〉

神様、私たちの罪を赦してください、ありがとうございます。私たちは、自分たちの大きな罪をゆるしていただきながら、他の人々のごく小さな罪さえ赦せない愚かで自己中心な者たちです。イエス様に倣って、あなたに罪を赦していただいた感謝をもって他の人の罪を赦せる者となれるようどうかお助けください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

2月28日 「悪より救い出されたまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム 問84

子どもカテキズム

問84 「我らを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 罪深い私たちは、神さまの憐れみがなければ、一瞬でも神さまの子どもとしての祝福に生きることはできませんし、またサタンも攻撃してくるので、罪の誘惑から守ってください、罪との戦いに勝てるようにしてください、ということです。

証拠聖句 マタイ26:41、エフェソ6:12、テモテニ4:18

参照教理問答 ウ小教理106、ウ大教理195、ハイデルベルク127、ジュネーブ287～293、キリスト教初步教理問答121

〈罪の誘惑から守ってください〉

イエスさまの恵みによって罪赦された者とされ、わたしたちは、神さまの前に出て、祈る者とされます。そして、それまで気付かなかった自分の罪深さを自覚するようになるだけでなく、前向きに、神さまに賛美と感謝をささげて生きていきたいと願うように変えられていきます。

けれども同時に、わたしたちはさまざまな形で危険にさらされています。その危険こそが、「サタン」の攻撃であり、「罪の誘惑」です。

「サタン」とは「悪魔」のことです。悪魔は絶えず、わたしたちを御言葉に対する不信に誘い、イエスさまを信じていることよりも、空しいものを誇ることに、まことの神ではないものを神と同等とすることへと誘います。この誘惑を見分ける目を持つことが求められています。

この悪魔は決して神と対等の存在ではありません。天地を造られた神さまは、この悪魔の行動を限定し、許容しておられます（ヨブ1:6、マタイ4:1）。しかしながら、この悪魔の指揮官は、神ではなく、悪魔自身です。「むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです。そして、欲望ははらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます」（ヤコブ1:14,15）。

〈罪との戦いに勝てるようにしてください〉

わたしたちが、信仰の王道をともに進んでいくために不可欠なことは、大胆に、どこにおいても、イエスさまをわたしたちの主であり、まことの王

であると信じて、告白することです。そして、神さまは、悪魔の行動を限定し、わたしたちを「耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」（コリント一10:13）。

神の恵みに属するような事柄も、しばしば誘惑の種になり得ます。使徒パウロも、特別な霊的な体験をした人を知っていることを誇る誘惑を感じながら、肉体に与えられたとげが取られることを三度願いました。しかし、このとき、主イエスさまは、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」（コリント二12:9,10参照）と言われたのです。

このように、「サタンとの戦い」「罪との戦い」は、わたしたち自身の力による戦いではなく、主イエスの恵みによる戦いであり、神の救いの御業における戦いです。そして、わたしたちの救い主、イエス・キリストは、「わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」（ヘブライ4:15）。ですから、神の憐れみによって、大胆に、祈りつつ、信仰の王道をともに進んでいきましょう（エフェソ6:10～8）。「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」（コリント二6:2）と、まことの王、キリストのゆえに、神の救いの御業を告白しつつ。（宮武輝彦）

テキスト マタイによる福音書 6章9～13節

テキスト 子どもカテキズム 問84

〔単元のねらい〕

「主の祈り」の「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」について学ぶ。罪を知る者の祈り、自分の弱さを知る者の祈りである。わたしたちは罪と悪に対して戦うすべを持っていない。わたしたちは弱いのである。しかし、主イエス・キリストが罪と悪に勝利された。主イエス・キリストの勝利を喜び、主イエス・キリストに信頼し、依り頼むことへと導きたい。わたしたちの勝利はそこにある。

「イエスさまの強さによって生きる」

「主の祈り」を学んでいます。今日は、主の祈りの六番目の祈り、最後の祈りである、「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」です。

「試み」という言葉は、ちょっと分かりにくいかもしれませんが。「主の祈り」のもとになっているイエスさまのお祈りがマタイ福音書にあります。今日も、その御言葉を読みました。そこでは、「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」とありました。こちらの「誘惑」という言葉のほうの方が分かりやすいでしょう。「誘惑」とは誘われることなのですが、「誘惑」という言葉は、悪いことへと誘う・誘われる、という意味で使う言葉です。善いことへではなく、人を迷わせて、悪いことへと誘う。それが誘惑です。そして、悪いことへと誘われると、その悪い誘いについていってよいのか、悪い誘いを断るのか、自分の心が試されるでしょう。悪いことへと誘うのはもちろんいけませんけれども、誘われてついていくこともいけないことです。誘われたからといって、悪いことをしてはいけません。そこで、自分の心が試される。そのことを「試み」というのです。今日のお祈りは、悪いことへと誘われて、わたしたちの心が試される、そのことから、わたしたちをお守りください、というお祈りです。

ちょっと考えてみてください。自分のほしいオモチャがあるかもしれません。あるいは、学校ではやっている文房具があるかもしれません。わた

しが小さい頃には、車の形の消しゴムがはやっていました。それを、ボールペンの押すところ、ボールペンのノックしてペン先を出し入れする部分ではじいて、どのくらい跳ぶか、競争するのです。ノートや画用紙にレースコースを書いて、自分の車とボールペンを使って、お友だちとレースをするのです。小さい車で早く進むようにするのか、けれども、大きい車をぶつけられると、コースからはじき出されてしまいます。机から落ちると失格です。だから、小さい車にするのか、大きい車にするのか、いろいろ作戦があって、かっこいい形の車もあります。そして、かっこいい、いろいろな消しゴムの車がほしくてたまりませんでした。

そんなときに、悪い気持ちの心が内にわきあがってきました。お友だちのものを取ってしまったえ！とか、お店からそっと取ってしまったえとか！いろいろな悪い考えが頭に思い浮かびます。そして、わたしたちは試されているのです。その思い浮かんだ悪いことに誘われてしまうのか、それをダメだときっぱり拒むことができるのか。悪いことに誘われるというのは、人が何かを言って誘うこともあるでしょうけれども、わたしたちの心の中に悪い気持ちや考えがわきあがってくるのです。そういう、自分の心の中にある悪い気持ち、悪い考えが問題です。次々といろいろな悪い考えが起こって、人に知られないならばいいのではないかと考えてしまったりします。そして、もし、

わたしたちが誘惑に負けて、悪いことをしてしまったなら、それは、自分自身のその悪い心が問題なのです。たとえ人に誘われたとしても、わたしたちの心が問題なのです。

イエスさまは、わたしたちの心が弱いことをご存じです。わたしたちの心に悪い考えが思い浮かんで、わたしたちの中で、その悪いことと戦おうとするのですけれども、わたしたちは弱いのです。悪いことと戦うよりも、悪いことに負けてしまって、そのほうが利益がある、おもしろい、と思ってしまう心があるのです。だから、わたしたちは、悪い考えと戦うことを止めてしまって、悪いことを人に知られずにしようとしてしまったりもするのです。ときには、悪いことをして、楽しんでしまったりもします。そのことを、聖書は、わたしたちは罪人である、と言っているのです。わたしたちの心は悪いことへと傾いています。

イエスさまは、わたしたちのその心の弱さ、わたしたちの悪いこと、罪をご存じです。わたしたちの罪を知った上で、でも、わたしたちのことを愛して、大切に思ってください、わたしたちのために命をささげてくださいました。わたしたちの悪い罪が赦されるために、そして、わたしたちが悪い心から解放されるために、イエスさまが十字架につけられてくださいました。わたしたちの罪を背負って、わたしたちの身代わりになって、死んでくださったのです。

イエスさまは、罪を犯さなかったお方です。誘惑にも負けなかったお方です。ですけれども、祈られました。「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」。これは、わたしたちの罪を背負って祈ってくださった祈りです。イエスさまご自身は、誘惑に負けず、勝利しておられるお方です。荒れ野でも、ゲツセマネの園でも、イエスさまは、誘惑に負けず、勝利されました。そのイエスさまが、わたしたちの罪を背負って祈ってくださいました。「わたしたちを誘惑に遭

わせず、悪い者から救ってください」。

イエスさまは、わたしたちの弱さをご存じです。わたしたちは、悪いことに対して、心が本当に弱いのです。負けてしまうのです。けれども、イエスさまがこう祈ってください、わたしたちもイエスさまと一緒に祈ります。「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」。すると、悪いことに負けなくなるのです。強くなることができるのです。イエスさまと一緒にいてくださって、わたしたちは、二度と悪いことをしない、罪を犯さない、勝利することへと招かれています。わたしたちは、罪を犯さなかったイエスさまに依り頼んで、イエスさまによって強く生きていくのです。「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」とは、イエスさまに依り頼むお祈りなのです。

ぜひ、「我らを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ」と祈りましょう。そして、とくにどんな誘惑に気をつけるのか。それは、神さまから離れてしまう、礼拝に行かない、お祈りをしない、そういう誘惑に注意しましょう。イエスさまも、何度もそういう誘惑を受けられました。神さまなどいないのではないか、神さまに何の力があるのかと言われて、誘惑を受けられました。けれども、イエスさまは、父なる神さま、まことの神さまを信じて歩み抜かれました。そこに、イエスさまの勝利があります。

日曜日に礼拝を休みたくなることもあるかもしれませんが。聖書を読むことやお祈りすることをめんどくさく思うかもしれません。けれども、止めてはなりません。そういう誘惑からお守りくださいと祈りましょう。お祈りをすると、イエスさまがわたしたちに力をくださいます。わたしたちは、自分は弱いのですけれども、神さまに依り頼んで、イエスさまと一緒にいて、守ってください、強いです。イエスさまの強さをいただいて、歩みましょう。(望月 信)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 6章13節

わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。

〈ねらい〉

罪の力、誘惑から守ってくださるよう祈る必要があることを知る。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかかえてみましょう。

先生は、子どもの時から、何か物を使ったら出しっぱなしで他の事をするから、いつもお母さんに「使ったら片付けなさい！」って叱られていました。でも、何回言われても、ついまた同じことをしちゃうんです。同じように、わたしたちは、お友だちやきょうだいを大切にできなかったり、礼拝のおはなしを聞かないで、あたまの中で他のことを考えちゃうことがあります。神さまは、そういうことを悲しまれるから、「ごめんなさい」ってあやまるんだけど、でもまた同じことをくり返してしまうんだよね……。

神さまは何回でも赦してくれるんだから、神さまの言われるとおりにできなくても大丈夫？ そんなふうに考えてしまうことはないかな？ そのとおり、神さまは、イエスさまの十字架のおかげで、なんどでもわたしたちをゆるしてくださるお方です。でも、そういう時に「しめしめ」って言って、神さまからわたしたちを離そうとするサタンが、わたしたちを悪い心にさそうんです。そうしたら、どんどん悪い心になっても平気になっちゃうんだよ。

わたしたちは弱いから、自分の力では悪い力に負けちゃうんだ。だから、いつも神さまの思いが分かるように、せいしよをよんで、神さまにお祈りしましょう。「神さま、神さまからはなれないように、悪い力からわたしたちをずーっと守ってください」ってね。

〈祈り〉

天のお父さま。弱いわたしたちとこれからもずーっといっしょにいて、悪い力から守ってください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.121⑧を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、主の祈りを通して、ぼくたち私たちが罪の誘惑からお守りくださるイエスさまについて学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、主の祈りで、「我らを試みに合わせず悪より救い出したまえ」と祈ります。聖書には、「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」(13)とあります。今日は誘惑と試みについて考えてみましょう。

まず大切なことは、誘惑は決して神さまからやってくるようなものではないということです。「誘惑に遭うとき、だれも、『神に誘惑されている』と言ってはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです。むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです」(ヤコブ1:13,14)。

では誘惑とは何でしょうか。ぼくたち私たちに良いことをさせるのではなくて、ぼくたち私たちに悪いことをさせようとする、ぼくたち私たちが神さまから引き離そうとする、これが誘惑です。イエスさまも荒野で40日40夜断食された後に、悪魔から誘惑を受けられました。ですから、誘惑はすべてぼくたち私たちが神さまから引き離そうとする、悪魔からやってくるのです。

ぼくたち私たちが毎日神さまに従っていこうとするとときに、きっと色々な誘惑がやってくると思います。みんなは、神さまから引き離される誘惑というと、どんな誘惑を経験したことがあるか

な？ 日曜日に遊びに行こうと誘われたり……(聞いてみる……)。

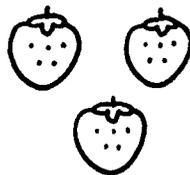
悪魔は何とか、ぼくたち私たちが神さまから引き離したいと誘惑を仕掛けてくるのです。ですから、誘惑にあわない人は一人もいません。

また、神さまは、ぼくたち私たちの信仰を成長させるために、試みを与えられることがあります。しかし、神さまはいつも真実なお方です。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実なお方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(コリント一10:13)。神さまは、誘惑からぼくたち私たちを守り、ぼくたち私たちの信仰を成長させるための試みには必ず逃れの道を用意してくださっています。

礼拝を休もうよ、お祈りなんてしなくていいよ、聖書なんて読まなくても大丈夫だよ。色々な誘惑があります。しかし、そんなときこそ、「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈りましょう。神さまは必ず、そのような誘惑からお守りくださるお方です。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、どうか、ぼくたち私たちが罪の誘惑と試みからお守りください。あなたを信頼して歩みます。導いてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

すでに主が罪と悪に勝利しておられる。主の力によって、私たちは必ず誘惑に打ち勝つことができることを信じて祈ろう。

〈展開例〉

1. 「主の祈り」をみんなで祈る。

主が、私たちにこう祈れと教えられた「祈り」であることを今一度おぼえたい。

2. 子どもカテキズム問84を読む。

問84 「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 罪深い私たちは、神さまの憐れみがなければ、一瞬でも神さまの子どもとしての祝福に生きることはできませんし、またサタンも攻撃をしてくるので、罪の誘惑から守ってください、罪との戦いに勝てるようにしてください、ということです。

3. 悪とは何か。誘惑とは何か。話し合う。

例) 悪：神様のもっともお嫌いになること
誘惑：悪へのさそい

4. 悪・誘惑との対決について

悪・誘惑と対決して勝ったことはあるか。

(勝ったと思っていても、自分だけでは負けている)

5. イエス様によって、はじめて私たちは罪・悪・誘惑に勝利できる。

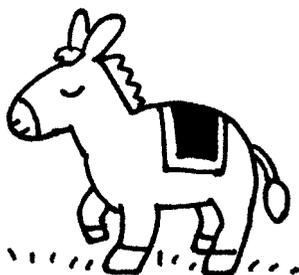
(私たちだけでは大変弱い)

〈祈り〉

主なる神様。私たちに「主の祈り」を与えてくださって、ほんとうにありがとうございます。どうか私たちが、いつもイエス様に依り頼んで、悪と誘惑に打ち勝てるようにしてください。イエス様によってお祈りします。アーメン。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 我らを試みにあわせず悪より救い出したまえによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 罪の誘惑や罪との戦いにおいてイエスが示された模範について学ぶ。

〈展開例〉

質問1 子どもカテキズム問84によると、我らを試みに合わせず、悪より救い出したまえでは、何を祈り願うと教えられているか。

質問2 罪の誘惑や罪との戦いはどのようにして起こるのか。

質問3 私たちは、毎日の生活の中で罪の誘惑や罪との戦いに勝利しているか。

質問4 祈ることによって、生活の中の罪の誘惑や罪との戦いは無くなるか。無くならないとしたら、なぜこのように祈る必要があるのか。

質問5 主イエスは、どのようにして罪の誘惑や罪との戦いに勝利されたか。

まとめ

主の祈りにおいて私たちは、主の栄光を、次いで私たちの罪の赦しのために祈った。神から罪赦されて、感謝に生きる私たちは、次に、罪との戦いに出て行くために祈る。

子どもカテキズム問84によれば、悪より救い出したまえによって、私たちは、罪の誘惑から守

られることと、罪との戦いに勝てるようにと神に祈る。

地上の生活の間、私たちは、悪魔の誘惑や攻撃に絶え間なくさらされており、一日の間にも私たちは何度も罪を犯してしまう。私たちは神に祈るが一見この祈りは答えられていないように思ってしまう。しかし、神は、私たちの持つ力を越える試練が私たちの上に降りかかることを許さず、失敗によって転んで傷は負っても二度と起き上がれないような壊滅的な打撃は受けないように悪魔から守ってくださる。私たちは、祈ることによって、神に守られたフィールドの中で、神から力をいただきつつ、罪の誘惑や罪との戦いを戦わせていただいているのである。スポーツ選手が練習によって筋力をつけていくように、私たちも罪と戦いそれに勝利することによって、霊的に成長していく。そして、霊的成長は、神の御心である。

イエスは、神の御子であられるのにもかかわらず、不断の祈りによって、罪との戦いに勝利された。イエスがなされたように、私たちも御言葉を蓄え、常に祈ることによって、罪の誘惑や罪との戦いに勝利できる者とさせていただきたい。

〈祈り〉

神様、私たちを私たちの力を越える悪魔の誘惑や攻撃から守ってくださって、ありがとうございます。あなたの御心は、私たちが霊的に成長して、悪魔の誘惑や攻撃に勝利する者になることです。どうか、弱い者たちですが、日々私たちを助けて、イエス様のように勝利していけるようにお助けください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



「ヨハネの黙示録」は、伝道者ヨハネが主の日の礼拝において、神から与えられた幻について記されています。第4章、第5章では、神がヨハネを天上の礼拝へと招かれます。ローマ帝国の迫害の中で、どうなるのだろうかと恐れと不安を抱いている者たちに、これから起こることを神が示してくださるのです。

(1) 泣くな、見よ！

幻の中でヨハネは、玉座に座っておられる方が、手に巻物を持っておられる姿を目にします。その巻物には神の御心が記されているのですが、七つの封印があり、誰も開くことができません。遂に私たちは勝利すると喜んだその時に絶望が襲い、激しく涙を流します。神の御心が見えない涙です。

しかし、そこに声が聞こえてきます。「泣くな、見よ」と(5:5)。この声は神が聞かせてくださる声ですが、「長老の一人」をとおして語られた言葉だと記されています。読んでいて嬉しくなる言葉です。長老の一人ということは、同じキリスト者が、同じ教会の仲間が「一緒に見るべきものを見よう」と声を掛けて、涙を流す者を励ましているということです。私たちは悲しみに捕らわれると、じっとその事実ばかりを見てしまいがちですが、その傍らでいつも私たちキリスト者が見るべき真実を見てくれている仲間がいます。共に祈り、賛美を歌う兄弟がいるのです。

(2) 屠られた小羊

「見よ、泣くな」と言われ、ヨハネが見たのは小羊イエス・キリストでした(5:6)。この小羊は「屠られたような」とありますように、一度殺されたお方です。主は十字架で殺されましたが、復活し、今も生きておられるのです。だから、罪も死も悪も私たちに支配することはありません。私たちは生きている時も、死ぬ時も主のものだからです。

そして、屠られたと見えた小羊イエスが、巻物

を手にして、閉じられた封印を解いてくださるのです。もう私たちは封印が開かれないという絶望の中にいるわけではありません。封印を開いてくださり、主の愛の御手の中にあるのです。

(3) 賛美・頌栄

だから、すべての被造物は、神とキリストに賛美の歌をうたわずにはおれないのです。ここで歌われている賛美(頌栄)の言葉について、一つひとつ丁寧にみることはいたしません。賛美というのは、「玉座に座っておられる方と小羊とに、／賛美、誉れ、栄光、そして権力が、／世々限りなくありますように」(5:13)とあるように、いつも神に栄光を帰し、御名をほめたたえることに尽きるのです(歴代誌上29:10,11、詩編115:1)。そして、小羊キリストの愛の支配を「アーメン、そのとおりです」と受け入れるところに、私たちの希望が生まれます。

(4) 主の日の礼拝において

世の支配者たちは、自分の国を築くために、権力を振りかざし、自分たちを信頼させようと栄光を身にまどおうとします。また富、名誉、地位、健康などを手に入れないと、人は幸せになれないといった間違った価値観や誘惑が今も私たちに攻撃してきます。しかし、この世の王や国がどれほど力強く、栄光に満ちていようと、私たちが賛美すべきは神ただおひとりです。そのことを最も明らかにしている場所は、主の日の礼拝です。教会はどのような試練の中にあっても礼拝をやめることなく、神の言葉を聞き続け、賛美の歌をうたい続けてきました。その中でどれだけの方が生き希望を与えられてきたことでしょうか。ヨハネが礼拝の中で小羊キリストの勝利を見たように、私たちも主の日の礼拝において、本当に見るべきものを見、聞くべき言葉を聞くことができるのです。(藤井 真)

子どもカテキズム

問85 「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン」という結びの言葉は、何を意味していますか。

答 私たちの神さまが、必ず勝利し、
このお祈りをかなえてくださる力ある神さまであることを
喜びと感謝、信仰をもって言い表すのです。(前半のみ)

証拠聖句 歴代上29:11、コリント二1:20

〈祈りの励まし〉

ウエストミンスター小教理問答によれば、主の祈りの結びが教えている第一のことは、「祈禱における励ましを神だけから受けるということ」(問107)です。

祈禱には励ましが必要です。思いつきのような祈りや、その場限りの祈りなら、励ましがなくても祈ることができるでしょう。しかし、重要な祈りであればあるほど、失望せずに祈り続けなければなりません。そして、執拗に祈り続けるためには強力な励ましが必要です。祈り続ける人は、様々な不信仰と戦わなければならないからです。

もし、私たちの祈りが、目の前の現実を目を注ぐことで閉じられるなら、失望やあせりから逃れられないでしょう。すぐに結果が得られないことの方が多いのです。それゆえ、多くの重要な祈りは、望みえないときに望みを抱くようにして、神を信じながら祈り続けられなければなりません。

そのような祈りにおいて、主の祈りの結びが教えるように、ただ神に心を向けて祈りを閉じることができたなら、幸いです。そのようにしてあらゆる不信仰を私たちの内から締め出すのです。そうすれば、人知では計り知れない平安によって、私たちの心と思いは守られるでしょう。そして、また祈り続けることができます。そして、祈り続けることができるなら、目に見える結果が得られなくても、確信は増し加えられます。信仰によって祈った人々は、そのようにして祈りながら、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認する

ようにして、信仰の旅路を歩み抜いていきました。祈りの結びにおいて、すべてのすべてでありたもう神に目を向けましょう。「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり」。

私たちの祈りが自分に目を注ぐことで閉じられるならば、祈り続けることは困難です。こんな自分の祈りを神が親しく聞き上げてくださるでしょうか。自分に目を注ぐほどに心は弱くなります。あるいは、反対に偽善をもって自惚れるかもしれません。しかし、いずれにせよ、ただ神に心を向けて祈りを閉じるならば、幸いです。悔い改めて福音を信じる罪人に、祈りの門は大きく開かれています。「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり」。

〈讚美〉

ウエストミンスター小教理問答によれば、この祈りの結びが教えている第二のことは、「祈禱において、神に国とカと栄光を帰して神を賛美することです」(問107)。

異邦人のようなくどくどとした祈りは、自分の願いをかなえることへと向かっています。祈れば祈るほどに自分の思いに神を従わせるかのような祈りになることでしょう。しかし、私たちの祈りがそのようなものであってはなりません。祈れば祈るほどに神を賛美して、自分自身を神に委ねるものであったなら、幸いです。そして、平穏で落ち着いた生活を送りましょう。(貫洞賢次)

テキスト ヨハネの黙示録 5章11～14節
カテキズム 子どもカテキズム 問85

〔単元のねらい〕

主の祈りを学び、前回までは、祈りの各論を学んできました。特に後半の祈りは、私たちの生活と直結した祈りでした。今回学ぶ頌栄は、私たちの目をもう一度、私たちの祈りを聞き届けてくださる神さまに向けさせ、私たちが与えられる神の国の祝福を確認します。前回まではマタイによる福音書の、主イエスの祈りの言葉から学びましたが、今回は黙示録から学びます。主の祈りの一部であることを意識し、私たちの祈りの対象である神さま（主の祈りの呼びかけ）とのつながりを覚えて、子どもたちに語りかけることが必要です。

「神さまをほめたたえよう」

主の祈りを学び続けてきました。主の祈りの後半で、私たちは次のことを学んできました。覚えていますか？ 私たちを救ってくださった神さまは、私たちが毎日必要な、食べ物も、着る服も、住む家も、また私たちに必要なすべてのものを、私たちが求める時、私たちの祈りを聞き届け、お与えくださる神さまです。そして、私たちの弱さ、私たちの罪を赦してくださり、私たちがありのまま受け入れてくださる神さまです。そして、私たちの苦しみをすべて知ってくださり、私たちが耐えることができないような苦しみをお与えにならない神さまです。

しかし、神さまは私たちの願いを何でも聞いてくださる私たちの召し使いではありません。私たちは神さまの主人となつてはなりません。神さまが私たちの祈りを聞き届けてくださるのは、創造者であり救い主である神さまが、私たちが神の子どもとして愛して下さっているからです。魚を欲しがらる子どもに、魚の代わりに蛇を与える父親はいないのです（ルカ11:11）。だからこそ、私たちは、主の祈りの最初において、「天にまします我らの父よ」と祈るのであり、私たちが祈り求める神さまは、私たちを愛していてくださるお父さんなのです。

では、私たちをお救いくださる神さまは、私た

ちをどのように救ってくださるのでしょうか。先週までは、主イエスさまが弟子たちにお教えくださったマタイによる福音書の御言葉から学び続けてきました。今日の聖書テキストは、ヨハネの黙示録です。聖書の一番最後の書簡であり、初めて黙示録を読んだという人たちも多いかと思えます。黙示録を記したヨハネさんは、神さまから終わりの日のことを知らされ、書き記しています。やがて訪れる神の国（天国）のこと、またその神の国が完成するまでのことが、神さまによって示されました。

今日、お読みしました聖書には、天国において、天国に集められた天使とクリスチャンたちが、神さまをほめたたえ、賛美する様子が語られています。「屠られた小羊」、つまり私たちのために十字架にお架かりくださったイエスさまが来られると、「万の数万倍、千の数千倍の天使が賛美する」と語ります。小学生高学年から中学生・高校生のお兄さんお姉さんたちは、千の千倍は百万、万の一万倍は一億とすぐに答えることができるかと思えます。しかし聖書で、特に黙示録においてこのように記されるとき、万の数万倍、千の数千倍をはるかに超える数え切れない多くの天使たちがここにいることを語っているのです。

みなさんが集っている教会では、教会学校（日曜学校・聖書学校）は「数人しかいない」お友だ

ちも多いかと思えます。礼拝でも、20人、30人といった教会もあることでしょう。大きな教会でも、日本では、せいぜい200人を超える位です。数人で賛美すると、小さな声かもしれませんが。中会のキャンプや修養会などで、50人を超える人たちが、あるいは何百人の人たちが、一緒に神さまを賛美をすると非常に大きな声になり、すごいと思うでしょう。韓国やアメリカに行けば、何千人、一万人を超える教会もあります。ここでの賛美はどれだけ素晴らしいことでしょう。

しかし、天国において神さまをほめたたえる賛美は、それをはるかに超える天使、被造物が集められます。アダムとエバの時代から今までの世界中のクリスチャンたちが集まっているのです。生きている時代も違えば、人種・民族も異なります。話している言葉も違えば、文化も違います。しかしそこに集うすべての人たちは、一つとなって、神さまをほめたたえ賛美することができるのです。それは、私たちを救い、肉体は死んでも、復活の体を与え、天国における永遠の生命と祝福に入れてくださったのは神さまだからです。私たちを救うために、イエスさまは人となられ、私たちに代わって、私たちの罪を償うために十字架に架かり、死んでくださったのです。天国に集うすべての人たちが、この神さまの救いに入れられ、喜びに満たされているのです。だからこそ、天国に集うすべての人たちが、一つとなって、神さまに

感謝と喜びをもって、賛美の歌を歌うことができるのです。

黙示録では、天と地と地の下と海にいるすべての被造物が、

「玉座に座っておられる方と小羊に、
賛美、誉れ、栄光、そして権力が、
世々限りなくありますように」

と賛美の声を挙げます。「玉座に座っておられる方」とは父なる神さまのことであり、「小羊」とは私たちのために十字架にお架かりくださった御子イエス・キリストです。私たちの肉体が死んでも、イエスさまが復活されたように、私たちも復活し、天国においてこのように神さまに祝福の賛美を行うことができるのは、イエスさまの十字架と共に、主なる神さまが、神さまとして天地万物を今も支配しておられるからです。だからこそ、私たちの祈りも、聞き届けられないことはありません。

神さまは、今なお全世界を統治され、私たちが天国に導かれるために、私たちを恵みのうちに入れていただきます。だからこそ、私たちは、私たちを救い、私たちの祈りを聞き届けてくださる神さまの御国が完成すること、御力、御栄えが、永遠にありますようにと祈りつつ、主の祈りを閉じるのです。 (辻 幸宏)

[今週の暗唱聖句]

ヨハネの黙示録 5章13節

玉座に座っておられる方と小羊とに、
賛美、誉れ、栄光、そして権力が、
世々限りなくありますように。



〈ねらい〉

神様をほめたたえる心を込めてこの祈りを祈れるようになる。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかながえてみましょう。

今日は、主の祈りのさいごの言葉のおはなしです。この言葉は、「神さまってすごい!」「神さまありがとうございます」という気持ちをこめてお祈りします。

神さまはどうしてすごいんでしょう?

お祈りの最初に「国」と言うのだけれど、これは、「神さまの国」のことです。神さまは、この世界を創られたお方で、今もこの世界ぜんたいの王さまです。どんなことでも知っているし、世界中のみんなのことを守ってくださっているんです。

次に、「力」が出てきます。イエス様は、死ん

でしまったのに、復活した、すごい力をもっておられるんです。どんな苦しみや悲しみもイエスさまがいっしょにいれば、へっちゃらです。

そして、「栄え」が出てきます。神さまは、どんなものよりもすばらしいお方です。

さいごにもう一つ「なんじ」という言葉が出てきます。これは、神さまのことです。先生は、このお祈りの「なんじ」に一番心をこめてお祈りします。「神さま、あなたはなんでも知ってるお方です。あなたの力があればなんでもできる。あなたはほかのどんなものよりもすばらしいお方です」そういう気持ちをこめて、お祈りします。

このお祈りが終わるとき、神さまを賛美したい、うれしい気持ちでいっぱいになります。みんなもいっしょにお祈りしましょう。

〈祈り〉

天のお父さま。ぼくたちわたしたちがいつも、あなたのことを思ってお祈りできますように。神さまはすごいお方です。その神さまが、これからもぼくたちわたしたちを守ってくださることを、ありがとうございます。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.122⑨を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、主の祈りの最後の御言葉を通して、失望せずに祈りぬいていくことを学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、主の祈りの最後で、「国と力と栄とは限りなくなんじのものなればなり」と祈って、主の祈りを閉じます。これは頌栄と言って、神さまを心からほめたたえて主の祈りを終わることを意味しているのです。

思い出してください。ぼくたち私たちは主の祈りでどんなことを祈ってきたでしょうか。天の父なる神さまが、ぼくたち私たちの本当のお父さんであることを学んできました。そして、その神さまの御名、神さまの存在そのものをほめたたえることを学びました。この地で、ぼくたち私たちの毎日の生活の中で、神さまの御心が行われるよう祈ることを学びました。また、神さまは、ぼくたち私たちの毎日のパン、すべての必要を満たしてくださいのお方です。神さまは、ぼくたち私たちが罪の誘惑からお守りくださり、ぼくたち私たちが成長させるための試みには逃れの道を備えていてくださっています。

ぼくたち私たちは、このように主の祈りを祈っていくと、父なる神さまの一つのお姿が浮かんでくと思うのです。それは何でしょうか。父なる神さまこそ、すべての良きものの源であるお方なのです。神さまこそがほめたたえられて、神さまこそが賛美されて、神さまこそが、今も生きて働

かれている、唯一の真の神さまなのです。

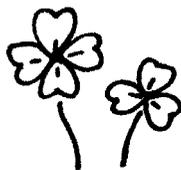
この神さまに対して、ぼくたち私たちがなすべきことは何でしょうか。それはただ一つです。神さまをほめたたえることです。神さまを賛美することです。このことを頌栄と言うのです。神さまは、ぼくたち私たちに最善以外のことはなさいませぬ。ですから、ぼくたち私たちは、時が良くても悪くても、神さまを心ほめたたえて生きていくのです。

「天使たちは大声でこう言った。『屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です』。また、わたしは、天と地と地の下と海にいるすべての被造物、そして、そこにいるあらゆるものがこう言うのを聞いた。『玉座に座っておられる方と小羊とに、賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように』。四つの生き物は『アーメン』と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した」（黙示録5:12～14）。

神さまこそ、「国と力と栄とは限りなくなんじのものなればなり」と頌栄をお受けになるに相応しいお方なのです。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、あなたこそ、私たちの賛美をお受けになるに相応しいお方です。どうか、どのようなときも、ぼくたち私たちが神さまを心からほめたたえることができるようにしてください。このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

神様は祈りをかなえてくださる力ある方であること、そして、祈るときには救われた喜びと感謝、信仰を言い表し、神様を賛美することを主の祈りの結びから学ぶ。

〈展開例〉

1. 分級のお友だちはどのような時にお祈りをしているか語り合しましょう。

- ・先週の1週間を振り返ってどのような時にお祈りしたか話す
- ・家族とお祈りしたのはどんな時？
- ・一人でお祈りしたのはどんな時？
- ・お祈りが自分のための「お願い」ばかりになっていないですか？

2. お祈りの手本である主の祈り。

- ・主の祈りを祈るとき、主イエス様が十字架にお架かりくださりご自身を小羊としておささげくださったことを思い起こしましょう。

・主の祈りの言葉の中には豊かで大胆な信仰へ駆り立てる力がぎっしり詰め込まれています。私たちの必要を知り尽くしている主のお姿を語りましょう。

・主の祈りを繰り返し祈る中で主の御思いを知らされ、神に喜ばれる存在と変えられ続けるのです。

3. 主をほめたたえ栄光を神に帰する。

- ・「国と力と栄えとは、かぎりなくなんじのものなればなり」という主の祈りの結語は、神のほかには国と力と栄えを持つ者はまったくありませんという信仰告白です。教師自身が祈りを繰り返すたびに湧き上がる神への感謝の思い、自身を神に委ねる決意などの証を試みましょう。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。



〈ねらい〉

- 国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなりによって何を祈り求めるのかを理解する。
- 私たちが神を国と力と栄えを永遠に持つ方として信じて祈っているかどうか吟味する。

〈展開例〉

質問1 ヨハネの黙示録5章12節によると、天使たちは屠られた小羊にどのような讃美をささげているか。

質問2 13節で、ささげられている頌栄はどのような内容か。

質問3 子どもカテキズム問85によると、結びの言葉は何を意味しているとあるか。

質問4 国と力と栄えとは、誰のものか。

質問5 私たちは、神をそのような方として信じて祈りをささげているか。

まとめ

ヨハネの黙示録5章12節においては、私たちの主イエスが、屠られた小羊として天使たちから讃美を受けておられる。そこでは、力・富・知恵・威力・誉れ・栄光・讃美を受けるにふさわしい方として讃美されているが、現実には、イエスは、これらの全てを王として受けておられる。また、続

く13節においては、父なる神と子なる神に、讃美・誉れ・栄光・権力が世々限りなくありますようにと全被造物が祈るのを私たちは見る。これらのものは、真に神に属するものであり、神のみが正当に所有されるものである。

子どもカテキズム問85には、同じく頌栄についての問いがあるが、ここにおいては、神が必ず勝利し、この祈りをかなえる力のある神であることを喜び・感謝・信仰をもって言い表すとある。主の祈りにおいて、私たちは、六つの祈りを見てきたが、これらは、全て神がどのような方かにその実現の如何がかかっている。もし神が私たちの信じる聖書の神でなければ、私たちの祈りは無意味であり実現の可能性はない。しかし、神は、この頌栄にある通り、国・力・栄えを永遠に御自分のものとして支配される方である。この方は、全てのものを造り、全てのものを治めておられる。それゆえ、私たちの祈りはこの力ある神によってかなえられると私たちは確信して祈るのである。

〈祈り〉

神様、私たちの神であってくださって、ありがとうございます。あなたは、万物の創造者にして、支配者、保持者であられ、私たちを愛し、父として私たちを支えてくださるかたです。私たちがいつもそのあなたに全幅の信頼を置きつつ、讃美と祈りをささげ、あなたと共に歩んでいけるようどうかお助けください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



パウロの誇りは、人間の知恵によるのではなく、神の恵みの中だけで生きてきたということでした。そしてパウロも、コリントの信徒たちも、この誇りをお互いに誇り合うことができるように願っていたのです。そのためにパウロはもう一度コリントを訪ねたいという計画を立てました（12～15）。

(1) パウロに対する非難

しかし、何らかの理由でコリント訪問計画を変更しなければならなくなりました。それゆえ、コリントの信徒から非難を受けることになったのです。17節はパウロの反問の言葉ですから、コリントの人々から、「あなたの計画は軽はずみだ。人間的で自己中心な考えだ。『然り』と言いながら『否』となっているではないか。あなたは二枚舌だ」と実際に問い詰められたということでしょう。人間の知恵によらず、ただ神の恵みの中で行動してきたと信じてきたパウロにとって、悲しいことだったに違いありません。

(2) 神は真実な方

しかし、パウロは伝道者としての信頼を失い兼ねないような厳しい状況を耐えることができました。では、どのように耐えたのでしょうか。計画変更の理由を詳しく述べて説得したのでしょうか。自分には嘘をついてしまったと謝ったのでしょうか。そうではありません。パウロは「神は真実な方である」（18）と語ることから始めたのです。このことは決して、パウロ自身の問題を神の問題へとすり替え、言い逃れしようとしたものではありません。神は真実であるということの中に立つ以外、神の恵みを知る道はないという信仰によるのです。

パウロはこの時、旅行計画が変更したことによって、自分たちの言葉や行動だけではなく、これまでに宣べ伝えていたキリストの福音までもが、否ではないかと疑われることを何よりも心配

していました。もちろん、キリストの福音が否であるはずがありません。だから、「あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、『然り』と同時に『否』となったような方ではありません。この方においては『然り』だけが実現した」（19）と語るのです。

(3) キリストにおいて「然り」となる

20節には、「神の約束は、この方（キリスト）においてことごとく『然り』となりました」とあります。「神の約束」とは、私たちが罪と滅びから救い出すという約束です。この約束がキリストにおいて「然り」となった。つまり成就したのです。

神は、私たちのことを「否」と言って否定したのではなく、「然り」と言って受け入れてくださったのです。それゆえに、主イエスをこの世に遣わしてくださったのです。ここに救いの約束が確かなものだということが示され、神の愛があらわれました。

だから「アーメン」（「真実です、その通りです」という意味）と言って、神の真実を受け入れるのです（20b）。神の側からの真実に、私たちも「アーメン」と唱えて神をほめたたえるところに、人間の真実も生まれてくるのです。

(4) 聖霊の保証

最後に、パウロは神が油を注いでくださったと語ります（21）。私たちは、洗礼によってキリストに結ばれ、「油」（聖霊）が与えられ、聖なる者とされました。神ご自身が、あなたがたは真実であるとの証印を押してくださり、保証として聖霊を与えてくださっています（22）。

神が私たちの真実を保証してくださるところに信頼をおいて生きる時、自分を絶対化する道から解き放たれます。弱さを抱えながらも、神の恵みによって生かしている自分を喜び、大胆に証しする者へと召し出されるのです。（藤井 真）

子どもカテキズム

問85 「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン」という結びの言葉は、何を意味していますか。

答 「アーメン」とは、ただイエスさまの真実に支えられて、私も真実にお祈りすることができる、ということです。ですから、私たちは、お祈りの最後に、「主イエスさまの御名によって、アーメン」と申し上げます。

「天のお父さま、アーメン」。これだけでも立派なお祈りですが、私たちは神さまの子どもらしく、素直に何でも祈り願います。(後半のみ)

証拠聖句 歴代上29:11、コリント二1:20

〈自分の願いへの確信〉

ハイデルベルク信仰問答は、この「アーメン」の意味を次のように解説します。「アーメンとは、それが真実であり確実である、ということです」(問129)。この「アーメン」という最後の言葉は、祈りにおける強い確信を言い表しています。まず、その確信は、自分の願いについての確信です。偽善者は人に見せたり聞かせたりするために祈ります。しかし、私たちはただ神に祈らなければなりません。その願いは、人に聞かせたり、人に取り入ったりするためのものではなく、幼子のような率直さや真実をもって祈るものでなければなりません。そうでなくては、最後の「アーメン」が偽りになります。

そのため、人の目から離れた密室の祈りは重要です。そこで、人には聞かせたくない祈りや、聞いてもらえない数々の祈りを、神の御前に注ぎ出す必要があります。「民よ、どのような時にも神に信頼し、御前に心を注ぎ出せ」(詩編62:9)。詩編には、心を注ぎだした祈りがあふれています。このような隠された祈りを通して自分の願いを聖めていただいてこそ、ますます自分の願いに確信をもって「アーメン」と祈れることでしょう。

〈聞かれる確信〉

祈りは曖昧なものではありません。御心にかなう祈りは聞かれます。「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてく

ださる。これが神に対するわたしたちの確信です」(ヨハネー5:14)。祈りの言葉において神の御心を求めるのみならず、その生活においても神さまの御心を追い求めながら、祈らなければなりません。「主は逆らう者のいけにえをいとい、正しい人の祈りを喜び迎えられる」(箴言15:8)。そのように、神の御心に依り頼んでささげられる祈りは、聞かれます。神の御心にかなっているなら、まったく実現の道筋が見えなくても、「アーメン」です。むしろ、実現の道筋が見えないにもかかわらず、御言葉においてははっきりと示されている御心に従って祈るとき、祈りの最後の「アーメン」は神の栄光への賛美となります。望みえないときに望みを抱いて神を信じて、神に栄光を帰しているからです。

この「アーメン」は、私たちの思いを越えて、その祈りが聞かれるという信仰をも言い表しています。ハイデルベルク信仰問答は、こう教えます。「わたしが心の中で感じているよりもはるかに確実に、わたしの祈りはこの方に聞かれている……」(問129)。だから、私たちは「アーメン」と祈るのです。

「彼らが呼びかけるより先に、わたしは答え、まだ語りかけている間に、聞き届ける」(イザヤ65:24)。「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます」(コリント二1:20)。(貫洞賢次)

テキスト コリントの信徒への手紙 二 1章15～22節
カテキズム 子どもカテキズム 問85

〔単元のねらい〕

新年1月から始まった「主の祈り」の連続説教は、今回しめくくりの「アーメン」に至る。単元目標に「祈りはキリストの真実に支えられている、心からアーメンと言おう」とあって、祈り手のアーメン（信仰）がささげられる根拠として、キリストのアーメン（然り）が示されている。すなわち、神のアーメン（真実）を明らかにしなければならぬ。そのためには、聖書の語る救済史全体を見渡す必要がある。教理説教のための聖書箇所としては、18～20節に限定した方がよい。

「ほんとうに、そのとおり」

新しい年、2010年に入ってから、ずっと「主の祈り」のお話を聴いてきました。アーメン……（しばし沈黙）。これが今日のお話です……（さらに沈黙）。「ええ？それでおしまいなの？」……そう思ったかもしれませんね。そうなんです！このひとりで終わってもいいほど、アーメンという言葉には、神さまのみこころのすべてが、言い表されているからです。しかも、私たちが祈るべきことのすべてを、ひとりで言い表せる言葉、それがアーメンなのです。今日はアーメンの意味を、みんなで確かめてゆきましょう。

今日の聖書を見てください。18節に、「神は真実な方です」とありますね。この〈真実な〉という言葉が、アーメンなのです（イザヤ65章16節）。神さまはアーメン、神さまは真実、神さまはウソをつかない、神さまは約束を必ず守ってくださる、という意味です。

はじめに神さまは、天と地を造られたとき、土のちりで人を造られ、その鼻に命の息を吹き入れられます。すると人は生きる者となるのです。そこで神さまは一つの約束をなさいます。「エデンの園のあらゆる木の実を取って食べなさい。ただし善悪を知る（すべてを知る）木の実だけは食べてはならない。食べれば必ず死ぬ」（創世記2:16, 17）。こうして人は、神さまと息を合わせて生きる、神さまの約束を守って生きる、男と女が助け合って生きる、そのような人間として造られました。

そこへ「神の約束はウソだ」とささやく者が現われます。蛇の姿をしたサタンです。人間はそそのかされて、約束を破ってしまうのです。神のようにすべてを知る人間になろうとして、生きる者から死ぬ者へ（罪人へ）と堕ちてしまうのです。

すると神さまは、もう一つの約束をなさいます。「サタンと人間との間に敵意（戦う心）を置く。サタンは人間の足を砕くが、人間はサタンの頭を砕く」（創世記3:15）。人間は死ぬ者となってしまった。しかし、神のようになることをやめて、神に従うなら、人間は再び生きようになる。いつか必ず、サタンを滅ぼし、死に勝利して生きる者となる。これが、神さまのみこころでした。エデンの園から追い出したアダムとエバを赦して、子供をお授けになります。地上に悪がはびこると、神に従うノアの家族を選んでお救いになります。そして、神を主（人生のあるじ）と信じたアブラハムに子孫と土地を約束なさるのです。イサクもヤコブも、モーセもサムエルも、ダビデもソロモンも、イザヤもエレミヤも、エズラもネヘミヤも、みんな、神さまの約束を信じて生きることができました。しかしやがて、死んでしまったのです。神さまはウソつきなんでしょうか。神さまはアーメン（真実）ではないのでしょうか。

今日の聖書をまた見てください。20節に「神の約束はことごとく（すべて）、この方（神の子イエス・キリスト）において、然り（本当にその

通り) となった」とあります。この〈然り、本当にその通り〉という言葉も、アーメンです(ネヘミヤ8章6節)。イエスさまはアーメンとなられた。アーメンである神の子が、ひとりの人となられた。父なる神と息を合わせ、従い通して、サタンと罪人の手によって十字架にかけられ死なれたが、サタンと死に打ち勝って、よみがえられた。神の約束がアーメン(然り、本当にその通り)であることを証しするメシア(キリスト)となられた、という意味です。

神さまはアーメン(真実)であるとともに、人となってアーメン(本当にその通り)となられました。真実(アーメン)である神さまの約束。どこまでも人間を生かそうとなさる約束。死ぬ者となってしまった人間を再び生かして、死に勝利して生きるようにしてくださる約束。この約束はすべて、イエスさまにおいて本当にその通り(アーメン)となったのです。この素晴らしい福音を知らされた私たちは、どうすることが求められるのでしょうか。

ここでもう一度、今日の聖書を見てください。20節、「それで、私たちは神をたたえるため、この方(神の子イエス・キリスト)を通して、アーメンと唱えます」。神さまのアーメンを、そしてイエスさまのアーメンを教えられた私たちは、黙ってはいけません。アーメン、神さま、あなたは真実です。アーメン、イエスさま、あなたは本当にその通りのお方です。このように賛美をささげることが求められているのです。なぜでしょうか。それは、私たちも人間として生きるためです。しかも、死に勝利して生きようになるためなのです。

聖書の中に、おもしろい言葉遊びがあります。「もしも、アーメンにならなければ、あなたがたはアーメンとされない」(イザヤ7:9)。「神である主の中で、アーメンになりなさい。そうすれば、あなたがたはアーメンとされるでしょう」(歴代誌下20:20)。もしも信じなければ、あなたがた

は確かにされない。主である神を信じなさい。そうすれば、確かにされる。という意味です。私たちが確かに生きる人間とされるためには、〈アーメンになる〉、信じる者になる、これが絶対に必要な条件なのです。

私たちが「主の祈り」の終わりに「アーメン」を唱えるのは、神さまのアーメン(真実)と、イエスさまのアーメン(然り)を賛美するためです。そして、私たちがアーメンになる(信じる者になる)ということ、告白するためでもあります。そうすることで、私たちは「本当にその通り」確かに生きる者、死に勝利して生きる人間とされるのです。

天におられる私たちの父よ、

アーメン、あなたこそ真実なお方です。

あなたによって、私たちは造られました。

あなたの名を、呼ばせてください、

アーメン、真実な神の御子によって、

私たちは、あなたの子供とされたのです。

あなたの国に、住まわせてください。

アーメン、本当のキリストによって、

私たちは、あなたの民とされたのです。

あなたの心に、従わせてください。

アーメン、誠実な主イエスによって、

私たちは、あなたの僕とされたのです。

私たちの霊肉の糧を今日も与えてください。

アーメン、恵み深いあなたによって、

私たちは、命を得ることができるのです。

私たちの負い目を赦してください。

アーメン、憐れみ深いあなたによって、

私たちは、人生の重荷から解かれるです。

私たちを誘惑から遠ざけてください。

アーメン、慈しみ深いあなたによって、

私たちは、サタンと死に打ち勝つのです。

国と力と栄えとは、あなたのものです。

アーメン、本当にその通りです。

万軍の主よ、今すぐ来てください。

(二宮 創)

[今週の暗唱聖句] ヘブライ人への手紙 11章1節

信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。

〈ねらい〉

子どもの中には、お祈りすることに対して不安を抱いている子どももいるかもしれない。アーメンの意味を理解すると共に、祈りに対する不安を軽くし、どんな祈りも聞かれる安心へと導きたい。

〈リズム&さんび〉

「主イエスとともに」(『ふくいんこどもさんびか』)

※やり方は、1/3を参照。

〈展開例〉

イエスさまといっしょにいるいい方法は、お祈りすることですね。きょうもお祈りのことをかんがえてみましょう。

きょうは、「アーメン」ってどんな意味かなっていうおはなしを聞きましたね。「アーメン」はどんな意味だったかな?……(間をおく)……アーメンは、「ほんとうです。そのとおりです。」っていう意味だったね。

お祈りの中の、ホント、うそクイズ!①

・お祈りを聞いてくれる神さまっているよ。ホントか? うそか?

——答えは、ホントですね。

お祈りを聞いてくれる神様ってホントにいるんです。わたしたちは、お祈りするとき、神さまが聞いてくれるから、神さまにお話するんだよね。

じゃあ、お祈りの中の、ホント、うそクイズ!②

・わたしたちがお祈りするとき、どんなお祈りでも、ちゃんと包んで届けてくれるイエスさまっているよ。ホントか? うそか?

——これも、答えは、ホントですね。

わたしたちのお祈りは、大人の人みたいにむずかしい言葉でお祈りできなくても、つかえつつかえのお祈りでも、イエスさまがちゃんと包んでくれて、神さまに届けてくれるんだよ。うれしいね。

だから、わたしたちは安心して、どんなことでもお祈りで神さまにおはなしましょうね。そして、最後に「アーメン」って言うとき、「神さま、聞いてくださってありがとうございます。」「イエスさま、わたしたちのお祈りを届けてくださってありがとうございます」という気持ちを込めて言いましょう。

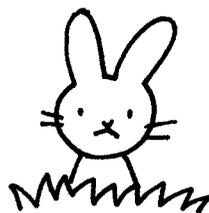
〈祈り〉

天のお父さま。わたしたちのお祈りをいつも聞いてくださってありがとうございます。これからも、お祈りでなんでもおはなしします。イエスさま、わたしたちのお祈りを届けてくださってありがとうございます。きょうも、イエスさまのお名前によっておいのりします。アーメン。

〈やってみよう〉

「主のいのりマイブック」作り。

・p.122⑩を色ぬりして台紙に貼る。



〈ねらい〉

今日は、主の祈りの最後のアーメンという御言葉の意味について考えて、神がぼくたち私たちの祈りに真実にお応えくださるお方であることを学びたいと思います。

〈展開例〉

ぼくたち私たちは、主の祈りの最後で、「国とカと栄とは限りなくなんじのものなればなり。アーメン」と祈ります。では、アーメンとはどんな意味なのでしょう。そのことについて考えましょう。

今日の御言葉によれば、パウロは、何らかの理由でコリントを訪問することができなくなってしまったようです。「このような計画を立てたのは、軽はずみだったのでしょうか。それとも、わたしが計画するのは、人間的な考えによることで、わたしにとって『然り、然り』が同時に『否、否』となるのでしょうか」(17)。パウロはきっと周りの人々から責められたと思います。人の思いではなくて、ただ神さまの御心に従っていたつもりのパウロにとって、このことは悲しい出来事であったに違いありません。これによって、パウロの信頼は著しく損なわれてしまったと思います。しかし、彼は言い訳をしませんでした。「神は真実な方です」(18)と、この状況も神さまの御手の中にあるのだと、神さまの真実さにパウロは心から信頼しました。その真実さとは、ぼくたち私たちを、「然り」と否定することなく心から受け入れてくださったことに表されているのです(18)。そして、そのしるしとして、イエスさまを十字架へと遣わ

してくださったのです。

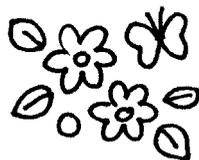
だから、ぼくたち私たちは、「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます」(20)と、イエスさまを十字架におかけになるほどにぼくたち私たちを愛して受け入れてくださったので、その愛の真実さのゆえに、アーメンと祈るのです。

もちろん、ぼくたち私たちがお祈りをしていくときに、すべての祈りが、ぼくたち私たちの願う通りに応えられるものではありません。ぼくたち私たちの毎日の生活の中で、本当に辛いところを通らされるようなときもあります。それでも、イエスさまを十字架にかけるほどに愛してくださった神の愛は真実であり、神の愛は決して移ることもなく、変わることもありません。だから、ぼくたち私たちは、「国とカと栄とは限りなくなんじのものなればなり」と祈り、最後に力強く「アーメン」、この祈りは真実です、この祈りは本当ですと心から告白して、主の祈りを閉じるのです。

神さまは真実なお方です。このお方を信頼して歩んでいきましょう。神さまはどんなことがあっても、ぼくたち私たちに一番良いことをくださるお方です。だからこそ、心からお祈りの最後に「アーメン」、この祈りは本当ですと、心から祈りましょう。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、あなたに心からアーメンと祈る者にしてください。アーメン。



〈ねらい〉

主の祈りの総復習をしながら、祈り全体が神の真実（アーメン）によって支えられていることを覚える。

〈展開例〉

1. 下図のような主の祈りの文字パズルを用意し、バラバラの状態のものを、子どもに並べ替えさせる。（アーメンは最後に使うのでとっておく。キーワードは色画用紙で。前半のキーワードと後半のキーワードで色を変えるとよい。文字の区切り方の難易度は子どもの理解度に合わせる）
2. 前半のキーワード「われらの父」～「み心」から、主の祈りの前半部分のおさらい。主のご栄光のための祈り—これまで分級で話したことを思い出しながら。
3. 後半のキーワード「われらの日用のかて」～「試

み」から、主の祈りの後半部分のおさらい。私たちの必要のための祈り—これまで分級で話したことを思い出しながら。

4. さて、「アーメン」はどこ？ 最後に教師が下図のように全体を「アーメン」で囲む（紐やりボンで囲んでもよいし、模造紙や黑板の上で並べ替えるなら、線を書き込んでよい）。礼拝説教で教えられたように、祈りはキリストの真実（アーメン）に支えられている。だから心からアーメンと言おう。

〈祈り〉

イエス様、主の祈りを教えてくださってありがとうございます。いつも心をこめて、主の祈りをささげることができますように。アーメン。

〈聖書日課〉

続けて「主の祈り」を祈ろう。

天に ますます われらの父 よ
 願わくは み名 をあが めさせたまえ
 み国 を来た らせたまえ
 み心 の天にな るごとく 地にも なさせたまえ
 われらの日用のかて を今日も 与えたまえ
 われらに罪 をおか す者をわれ らがゆるすごとく
 われらの罪 をも ゆるしたまえ
 われらを 試み にあわせず 悪 より救い 出したまえ
 国と力と栄え とは かぎりな くなんじ のものな ればなり

アーメン

〈ねらい〉

- アーメンが何を意味するかを学ぶ。
- 私たちが、心からのアーメンを唱えているか吟味する。

〈展開例〉

質問1 第二コリント1章19節によると、キリストは、どのような方であるとあるか。

質問2 20節によると、神の約束がキリストにおいて然りとなった理由とは何か。

質問3 20節によると、私たちがキリストを通してアーメンと唱えるとはどういう意味か。

質問4 21節によると、私たちとキリストとを結び付けてくださったのは誰か。

質問5 主の祈りをアーメンで締めくくる時、私たちはどのような心でアーメンと唱えるべきか。

まとめ

第二コリント1章で、パウロは、キリストを、然りと同時に否となったような方ではなく、この方においては然りだけが実現したのだと語る。それは、神の約束がこの方において然りとなったからであった。人類が墮落した時に既にあった神の救いの御計画は、この方の贖いによって全て実現

した。そして、その贖いによって、滅びに定められていた私たち人間が信仰によって救われ、神の子とされる特権を与えられるようになった。神のすばらしいお約束はこの方によって全て実現されたのである。

キリストのゆえに私たちは救われたので、私たちは、その恵みを覚え、神をたたえるために、キリストの名によって、その通りですという意味のアーメンという言葉を唱える。神は、その尊い御心の中で、御子キリストの贖いを通し、彼と私たちを結びつけることによって、私たちを救いに入れてくださった。私たちは、その恵みの深さ広さを思いつつ、感謝と讃美を込めて、アーメンと言わずにはいられない。主の祈りが閉じられる時、私たちはそのような神の恵みと憐れみに対する感謝と讃美にあふれて、その通りです、アーメンと締めくくるのである。

〈祈り〉

神様、私たちのためにイエス様を送って救いの道を拓いてくださって、ありがとうございます。イエス様は、あなたの御心に従い、私たちを愛し、私たちのために御自分の命を献げてくださいました。それゆえ、私たちは、イエス様において全ての良い約束が成就したことを思い、あなたへの感謝と讃美にあふれてアーメンと唱えます。心から感謝いたします。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



〈背景と文脈〉

主イエスは十字架にかかれる前夜、12弟子との最後の晩餐の席でパンを裂き、「これはわたしの体である」(26:26)、また杯を取り、「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」(26:28)、と言われた。主は過ぎ越しの小羊としてご自分が間もなく贖罪の死を遂げられることをご存じだった。ペトロの信仰告白以来(16:13～16)、ご自分の受難について弟子たちに繰り返し予告されてきたが、今やその受難が現実になりつつあった。

〈ゲツセマネの園での祈りと弟子たちの無力さ〉**(26:36～45)**

主は弟子たちと共にゲツセマネという園へ来られた(36)。「ゲツセマネ」とは「油絞り」という意である。オリーブ山のふもとにあった園の名称で、多くのオリーブの木が植えられていた。そこは、主イエスが弟子たちと度々行かれた場所である(ルカ22:39; ヨハネ18:2)。主はペトロとゼベダイの子(ヤコブとヨハネ)を伴われ、「石を投げて届くほどの所に離れ」(ルカ22:41)で行かれた。

そのとき主は「悲しみもだえ始められた」(37)。主イエスはまことの神であるが、また、まことの人間である。悲しみもだえられたのは、人間として死に直面するとき感じる恐怖心のためだけではなかった。主の死は罪の贖い主としての死であり、罪人の身代わりとして、父なる神から審かれ、見捨てられ、離されることを意味していた(マタイ27:46参照)。それまで御父との親しい交わりの中にあつた主イエスにとって、それは最大の試練であった。主は、その試練に祈りによって立ち向かわれたのである。

最初に「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(39)、と祈

られた。「杯」は、神の怒りと審きを象徴している。主は罪のないお方であられたのに、罪人の身代わりとして、父なる神に審かれ、怒りを受けなければならなかった。そのような御父との関係における最大の試練のなかでも、「父よ」と呼びかけ、全面的な信頼を寄せておられる。「できることなら」という表現は、「御心ならば」と同じ意、と考えられる。それが神の御心にかなうことであり、可能なら、この杯を過ぎ去らせて欲しい、と願っておられる。父なる神から審かれ、怒りを一身に受けて死ぬことに激しい抵抗感を感じながらも、父なる神の御心にご自分の思いを一致させようとしておられる。

第二の祈りは「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように」(42)である。もしこれ以外の方法がないならば、御心が行われるように、と祈られた。主の思いと父なる神の御心が衝突するなら、自分の思いでなく、父の御心が行われるように、と願っておられる。主イエスの御父に対する究極的な服従がこの祈りに現れている。三度も二度目と同じ言葉で祈られた(44)。

そののち、「時が近づいた。人の子は罪人たちの手に渡される。立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た」(45)と言われ、立ち上がられた。この場合の「時」とは21節で予告されていたユダの裏切りと、その結果としての逮捕、また十字架上の死を指すと思われる。祈りを通して勝利された主は、与えられた杯を飲むために、ご自身を積極的に罪人の手にゆだねられたのである。

主が弟子たちの支えを最も必要としておられる時に彼らは眠ってしまい、主を支えることに失敗した。ここに描かれた弟子たちの無力さは私たちの姿でもある。しかし主は祈りによって勝利され、このような私たち罪人を贖うために、自らの決意で十字架へ向かわれたのである。(後藤公子)

(単元のねらい)

「子どもカテキズム」の学びが終わり、今週と来週はイースターに備える学びをします。今年は、受難について二回にわたって学ぶことができますので、イエス様の受難の意味をしっかりと確認したいと思います。今週は、十字架と復活の意味を概観し、イエス様の苦しみの深さと、それにもかかわらず御心（それは、私たちを救うことです）に従おうとするイエス様の姿、そしてイエス様の私たちへの愛を語ります。語られる先生は、何よりも、それほどまで苦しんでもなお「私」を救いたいと願っておられるイエス様の愛に包まれていることを喜んで、子どもたちと向かい合っていたいただきたいと思います。

注意したいのは、「罪」「受難」「復活」「あがない」等、私たちが教会生活の中で当たり前に使っている「術語」をそのまま使わないこと。子どもたちに分かるような言葉で語る訓練をしましょう。それが教師の理解を深めることにもつながります。

「一人ぼっちのイエスさま」

次の次の日曜日、4月4日は、教会の大事なお祝いの日、イースターです。イースターは何の日か知っていますか。十字架にかけられて死んでしまったイエス様が、よみがえられたことをお祝いする日です。イエス様は、どうして十字架にかけられたのでしょうか。それは、私たちが神様の御国・天国に行けるようになるためです。私たちは、神様に従うように造られたのに、神様の言うことを聞いているよりは、自分が神様みたいになって、好きなようにしていきたいと思う気持ち＝罪があるので、そのままでは神様のところに行くことができません。イエス様は、ご自分は何一つ罪はないのに、私たちの身代わりになって、十字架にかかってくださったのです。それで、イエス様を救い主と信じる私たちは、天国に行くことができるようになったのです。

さて、十字架にかけられる前の夜、イエス様はお弟子さんたちと最後の夕ごはんを一緒に食べた後、ペトロさんたちとゲツセマネというところへお祈りをするためにでかけました。

イエス様は、神様のお考えは何でもよくわかっていました。ですから、これから自分がどんな目にあうのかよく知っておられました。ここにいる私たち一人ひとりが天国に行けるように、一人ひ

とりの身代わりになって、本当なら私たちが味わわなければならない、神様から「お前なんか知らない！」と見離されてしまう恐ろしさを味わわなければならないのです。だから、イエス様はつらくてつらくて、仕方なかったのです。イエス様は、神様の独り子ですから、神様が一緒にいてくださる素晴らしさをだれよりもよく知っておられます。またその逆に、神様から見離される恐ろしさも、誰よりもよく知っておられたのです。イエス様は、できることならそんなつらい目にあわなくてもいいようにと、お祈りをしました。聖書のほかのところには、汗が血のようにしたたった、と書いてありますが、それほどまでに必死で祈られたのです。

その時、一緒についてきたペトロさんたちは何をしていたでしょうか。イエス様は、「いっしょに目を覚ましていなさい」と言われましたが、ペトロさんたちは、つらそうなイエス様を見て一緒にお祈りをしていたのでしょうか。とんでもない！ ペトロさんたちはイエス様が必死にお祈りしていたのに、グーグーと眠っていたのです。ペトロさんたちには、イエス様のつらい気持ちが全然わかっていなかったのです。

ペトロさんは、イエス様に初めて会ってからこ

れまで三年間ほど、いつもイエス様のそばにいて、いっしょに旅をして、イエス様の教えておられることをすぐ近くで聞いていました。ですから、この世で、ペトロさんたちほどイエス様の気持ちがわかっている人はいなかったはずです。そのペトロさんたちが、イエス様が一番つらいこの今、グーグー居眠りしているなんて！

イエス様は一人ぼっちでした。この世の中で、イエス様のつらい気持ちをわかってくれる人はだれもいないのです。みなさんは、迷子になったことがありますか？ 私は小さい頃、お母さんとデパートに行って、お母さんとはぐれて迷子になったことがあります。あの時の心細い気持ち、周りにたくさん人がいるのに、自分が一人ぼっちでだれにも頼れない気持ちは、今でも思い出します。その気持ちのもっともっと大きなすごいものが、イエス様を苦しめていたのです。デパートで迷子になった私は、すぐにお母さんに見つけられてホッとしましたが、イエス様には見つけてくれる人はだれもいなかったのです。

イエス様は、できることならこのつらさから助け出してくださるようと、神様にお祈りしました。しかし、イエス様は、このつらさ、私たちの身代わりになって神様から見離されるつらさは、御自分しか引き受けられないこともよく知っておられました。罪のない人はイエス様しかないか

らです。イエス様は続けてお祈りしました。「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」。「御心」(＝神様のお考え)とは何でしょうか。それは、イエス様を信じる私たち一人ひとりが、天国に入ることです。イエス様は私たち一人ひとりのために、一人ぼっちで、神様から見離されるつらさに立ち向かおうとされるのです。そうしてくださるほどに、イエス様は、私のことが、あなたのことが、イエス様を信じる一人ひとりのことが、大切なのです。愛していただくのです。イエス様は何としてでも、私たちを天国に送りたいのです。その大きなイエス様の愛に、私たちが包まれていることを、心から喜びたいと思います。

やがて、イエス様を捕まえようとする人たちがゲツセマネにやって来ました。それに気がついたイエス様は、ペトロさんたちに「立て、行こう。」とおっしゃいました。「逃げよう」ではありません。「行こう」です。イエス様はどこへ行くのでしょうか。イエス様を捕まえようとする人たちの方へ行くのです。みんなは、イエス様を捕まえて、十字架にかけて殺してしまおうと考えているのです。イエス様は御自分の決心で、進んで、私たちを天国へと連れて行ってくれる、十字架への道をお進みになるのです。もう一度言いますが、それは、イエス様が私を、あなたを、愛していただくからなのです。(伊藤治郎)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 26章39節後半

父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。

しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。



〈ねらい〉

キリストの御苦しみを思い描き、それがわたしたちのためであったことを知る。

〈展開例〉

せんせいは、大きなしんばいごとがあると、胃がキリキリいたくなってしまうことがあります。そういう時は、お友だちと遊んでいても楽しめないよね。

イエスさまにも大きなしんばいごとがありました。父なるかみさまから怒られに行かなければならなかったのです。みんなは、おとうさんやおかあさんに叱られる時、「やだなー」って思うでしょ。せんせいも、そんな時は逃げたり隠れたりしたくなります。イエスさまは逃げませんでした。でも、すごく苦しみました。「わたしは死んでしまいそうなくらい悲しい」っていうイエスさまの言葉がせいしょに書いてあります。とってもとっても苦しかったんだね。

そこでイエスさまはおいのりしました。

「天のおとうさま、できれば、このさかずきをとりのぞいてください。」さかずきっていうのは、神さまに怒られに行くことです。どんな敵にも負けない強いイエスさまが、こんななげないことを言うなんて、おかしいね。でも、それぐらい神さまの怒りが激しかったです。イエスさまは何をしてそんなに神さまを怒らせたの？……イエス

さまは何もしていないんだね。じゃあ何で怒られないといけないの？……それはわたしたちのためなんだよ。本当はわたしたちが神さまから怒られなければならなかったんだけど、わたしたちみんなの分をイエスさまが代わりに神さまに怒られに行ってくれることになったんだ。

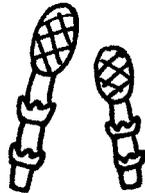
イエスさまは、お祈りの後、「さあ、行こう」と言って、神さまのバツを受ける場所まで向かいました。もう、弱いことは言いません。わたしたちの代わりに神さまのバツを受けることがイエスさまのお仕事だっていうことをちゃんと受けとめました。イエスさまに、わたしたちのために苦しませてごめんなさいを言いたいね。そして、イエスさまのおかげでわたしたちは神さまのこどもになることができました。イエスさまありがとうといたいね。

〈さんび〉

ブレイズワールド『両手いっぱいのお愛』

〈祈り〉

天のおとうさま、イエスさまをおくってくださいありがとうございます。イエスさま、わたしたちのために苦しませてごめんなさい。イエスさまのおかげでわたしたちは神さまのこどもとしてあゆめます。ありがとうございます。イエスさまのお名前によっておいのりします。アーメン。



〈ねらい〉

今日は、イエスさまのゲツセマネの祈りから、自分の思いを超えて神さまの御心に従おうとするイエスさまの信仰について考えたいと思います。

〈展開例〉

もうすぐ十字架にかかれるという、その直前に、イエスさまは、ゲツセマネの園に来られました。イエスさまは、「苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた」(ルカ22:44)と聖書は言っています。イエスさまは悲しみもだえながら祈られました。イエスさまは真の人として悲しみに悶えながら祈られたのです。

イエスさまは、何のためにこんな苦しい祈りをされたのでしょうか。(皆に聞いてみる……)

それは、ぼくたち私たちの救いに大きく関係しています。イエスさまは、「少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。『父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに』」(26:39)。

ここで言う「杯」は、神さまの怒り、神さまの裁きを意味しています。何の罪もないイエスさまが十字架において、神からの怒りと神からの裁きをお受けになろうとしているのです。それはイエスさまにとってとても辛い苦しいことでした。だからイエスさまは、ここで、もだえ苦しみながら祈られたのです。そして、神さまの御心に適うことなら、どうか、この杯をわたしから過ぎ去

らせてくださいと、イエスさまはお祈りをされました。イエスさまは神さまの御心と人間としての自分の心の中で戦われたのです。そして、祈りの内に導かれたイエスさまは、「更に、二度目に向こうへ行って祈られた。『父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように』」(42)と聖書にありますように、神さまの御心に自分の思いを重ね合わせることができるよう祈られました。「そこで、彼らを離れ、また向こうへ行って、三度目も同じ言葉で祈られた」(44)。それだけ、イエスさまは自分の思いを捨てて、神さまの御心にご自分を従わせて行かれました。

それはなぜでしょうか。それこそが、ぼくたち私たちの救いのためなのです。ぼくたち私たちを救いに導くために、イエスさまは十字架にかかり死んでくださったのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)。

ご自分を無にして、ぼくたち私たちのために、イエスさまはゲツセマネの園を越えて、十字架に向かって歩みだされました。ぼくたち私たちも、自分の思いではなくて、神さまの御心に自分の心を重ね合わせていく、そのような歩みをさせていただきたいと思います。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、心からあなたの御心に従う者にしてください。アーメン。



〈ねらい〉

私たちが救われるためには、イエス様の十字架以外に道がありません。イエス様は十字架の苦しみに立ち向かうため、祈りを通して神の御意志を確認し、自らの心を整え、自分の意志で十字架に向かわれました。そのすべてが、神様に背を向けている、罪あるわたしたちを救うためであり、私たちへの愛のゆえであることを覚えましょう。

〈展開例〉

1. あなたはどんな時にお祈りしますか？

- ・食事の前
- ・朝起きた時
- ・夜寝る前
- ・病気やけがをした時
- ・テストの前
- ・友だちとけんかした時
- ・悲しいことがあった時
- ・嫌なことがあった時

子どもたちが、日々の生活の中でどんなときにどんな祈りをしているかを聞いてみる。

2. 今日のお話のイエス様のお祈りは、どんなお祈りだったでしょう？

- ・感謝のお祈り
- ・助けをいただくためのお祈り

- ・お願いを聞いていただくためのお祈り
- ・神様のお考えを知るためのお祈り
- ・勇気をいただくためのお祈り
- ・神様に従うためのお祈り

子どもたちの話しを聞きながら、イエス様のゲツセマネの祈りの意味に近づきましょう。

3. お祈りは、サタンの誘惑に勝つ力です。

イエス様の十字架を邪魔して、私たち人間を救う神様のご計画を台無しにするのがサタンの目的です。サタンは、アダムとエバを誘惑した時と同じように、イエス様を誘惑して神様の救いのご計画を邪魔しようとしていました。

イエス様は、お祈りによってその誘惑に勝利され、神様のお考えと自分の思いを一つにされ、十字架に向かわれました。神様とイエス様の一致した思いとは、「神様に背を向けている、罪ある私たちを救う」という、ただ一つの思いであり、それが神様の愛です。

〈祈り〉

天のお父様、私たちの罪のために、イエス様が十字架にかかってくださったことを感謝します。私たちも、お祈りを通して神様の御心を知り、従うことができるようにしてください。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

- イエスの払われた犠牲について学ぶ。
- イエスの父なる神に対する従順を学ぶ。

〈展開例〉

質問1 イエスは、ゲツセマネで何と祈られたか。

質問2 この杯とは何を意味しているか。

質問3 イエスは、父の御心と御自分の願いのどちらを優先して考えられたか。

質問4 イエスは、なぜ死ぬばかりに悲しまれたのか。

質問5 弟子たちは、イエスに何と命じられたか。彼らは、その命令を守ることができたか。

まとめ

十字架上の贖いの死を前にして、イエスは、弟子たち三人と共にゲツセマネの園に行き祈られた。主は、いつも父なる神と共におられ、交わりを持っておられたが、十字架に上げられるならば、父なる神との交わりは断たれ、御顔は隠され、神から捨てられ呪われた存在として、死ななければならなかった。主が祈られたこの杯とは、この十字架での苦しみを指していた。御自分の思いとしては、この交わりが断たれ、御顔が隠されるぐらいなら、死んだ方がましだと思うほどの悲しさであったが、主は、私たちへの愛と父なる神への

従順のゆえにその悲しみを忍ばれ、御自分の思いよりも父なる神の御心の方を優先された。御自分とは何の関わりもない他の人々の罪を贖うために、そこまでの犠牲を払って、主は父の御心に従われたのである。

イエスのこの従順に比べ、弟子たちの不甲斐無さは強いコントラストを示している。選ばれておそばにいた三人の弟子たちは、主が選ばれた弟子たちの中でも一番弟子と言ってよい立場の者たちであったが、睡魔に勝って、祈りの間、主のおそばで目を覚ましているという簡単な言いつけさえ守ることができなかった。彼らは、特に弱い人々だったわけではない。彼らは、私たちの情けない姿そのものである。ささいなことですら、主のために犠牲を払って守ることができない弱い私たち。しかしながら、イエスは、そのように弱く情けない私たちを救うために十字架にかかってくださった。この時期、取るに足らない私たちのような者たちにも豊かに注がれた主の愛と犠牲を覚える時としたい。

〈祈り〉

神様、私たちのために御自分の独り子の命を犠牲にしてくださって、ありがとうございます。私たちは、あの弟子たちのように、一時起きているということすらできない弱く情けない者たちですが、あなたが愛してくださったおかげで救いに入られました。心からあなたの愛と憐れみに感謝いたします。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



〈背景と文脈〉

ゲツセマネの園で祈り勝利された主は、父なる神の御心を成就するために、ご自身を自発的に罪人たちの手にゆだねられた。逮捕、最高法院での裁判を経た後、ローマの総督ピラトによる死刑判決がくだされた。総督の兵士たちはイエスを鞭打ち、茨の冠を頭にかぶせ、つばを吐きかけ、頭をたたき、侮辱したのち、十字架につけるため引いて行った。

〈十字架につけられる〉(27:32～38)

十字架刑を受ける者は、自分がはりつけにされる十字架の横木を刑場まで運んでいくのが習わしだったようである(縦木はすでに刑場に建てられていた)。夜を徹しての裁判で疲労困憊し、鞭打ちで体に傷を負われていた主は、それを運ぶ力がなかった、と思われる。兵士たちは、ちょうど通りかかったシモンという名のキレネ人に、主の十字架を無理に担がせた。

されこうべの場所という意味のゴルゴタは十字架刑が公開で執行される場所だった。兵士たちは、「苦いものを混ぜたぶどう酒」(34)を主に飲ませようとしたが、主はなめただけで飲もうとされなかった。苦いものを混ぜたぶどう酒は、十字架刑を受ける者の痛みの感覚を麻痺させ、軽減するものだったが、主はそれを望まれなかった。

十字架刑の場面を描写するにあたって、著者マタイはキリストの苦しみに焦点を置かず、兵士たちの行動に焦点を置いた。ちなみに「十字架につける」(35)という語は分詞で、主動詞は「その服を分け合い」(35)である。くじを引き、服を分け合った兵士たちの無意識の行動によって詩編22:19の預言が成就した。

頭上に掲げられた罪状書きには「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれていた(37)。当時ユダヤはローマ帝国の支配下に置かれていたため、そう主張することは政治的な反逆罪に相当し

た。しかしユダヤ人にとってこの称号は、ダビデの子であるメシアを指すものであった。だから、その罪状書きを見て、ユダヤ人の祭司長たちはピラトに、「この男は『ユダヤ人の王』と自称したと書いてください」とわざわざ頼んだのである(ヨハネ19:21)。この罪状書きは、主イエスが神から遣わされたメシアであることを、いみじくも示していたのである。主の右と左に二人の強盗が十字架につけられた。これによって、「罪人のひとりには教えられた」(イザヤ53:12)という受難のしもべの預言が成就した。

〈侮辱される〉(27:39～44)

この箇所には、十字架上の主に投げかけられた通行人の罵りの言葉(40)、祭司長たち、律法学者たち、長老たちの罵りの言葉(42～43)が記されている。左右の強盗までも同様に罵った、とある。

彼らの言葉の背後にあるのは、神の子でありメシアなら、当然十字架から降りて自分を救えるはずだ、という考えである。「他人は救ったのに」という表現は、主が病人をいやし、死人をよみがえらされたことを指している。自分を救えない者など、神の子、メシアであるはずはなかった。主は逮捕される時、「わたしが父にお願いできないとも思うのか。お願いすれば、父は十二軍団以上の天使を今すぐ送ってくださるであろう。しかしそれでは、必ずこうなると書かれている聖書の言葉がどうして実現されよう」(26:53～54)と言われた。主は、ご自分を救うことが出来たのに、そうならなかった。十字架を回避する誘惑を受けられていたことは、ゲツセマネの祈りから明らかである。祈りによって勝利された主は、神の贖いのご計画を成就するために、十字架から降りようとはされなかった。そのようにご自分を救わないで、他を救う道を開かれた方こそ、私たちのまことの救い主である。(後藤公子)

〔単元のねらい〕

受難週を迎えました。今回の聖書箇所は、受難のクライマックス、神様に見離される箇所は入っていませんが、ここに受難の本質がありますから、きちんと語っておきたいと思います。そして、イエス様の受難を「かわいそう」なことではなく、自分の救いにつながる厳粛な事実として伝えたいと願っています。

今回の聖書箇所は、イエス様がのしられながらも、その気になりさえすれば十字架から降りることもできたのに、私たちを救うというそのことだけのために、あえて十字架にとどまられたことが書かれています。先週のゲツセマネの祈りの箇所と共に、イエス様がご自分の意志で、私たちを救おうという神様の御心に従おうとされていることを喜びたいと思います。そして最後は、来週のイースターの喜びを予告して終わらしましょう。

「十字架から降りてこないイエスさま」

ゲツセマネで捕まえられたイエス様は、裁判を受けて、十字架にかけられることになりました。イエス様は何一つ悪いことはしていないのに、死刑になることになったのです。十字架の刑というのは、死刑になる人を釘で十字架に打ち付けて、そのままだんだん弱って死んでしまうまで放っておくという死刑の方法でした。ですから、死んでしまうまでの時間、その人は長い間苦しまなければならなかったのです。

イエス様の苦しみは、それだけではありませんでした。イエス様はこの十字架の上で、神様に「お前なんか知らない！」と見離されなければならなかったのです。それは、私たちのためでした。本当は、神様に見離されるのは、神様の言うことを聞くように造られたのに、神様について行くよりも自分が神様みたいになって好きなようにしていたという「罪」があって、そのままでは天国の神様のところに行けない私たちだったのです。けれども、イエス様が私たちの代わりに、十字架の上で神様に見離されてくださって、私たちは「罪」がないことにしてもらえて、天国に行くことができるのです。私たちが天国に行くために、イエス様は苦しい十字架の上で、神様に見離されてくだ

さったのです。

そんなふうに、十字架の上で苦しんでいるイエス様に、まわりで見ていた人たちは言いました。「救い主だというのなら、自分を救ってみろ。苦しい十字架から降りて来てみろ」。イエス様と一緒に十字架に付けられていた強盗たちも、いっしょになってイエス様に悪口を言いました。みんな、イエス様のことを口先だけで何もできない奴だと思って、ばかにしていたのです。けれども、イエス様は何もお答えになりません。十字架にかけられてしまうと、イエス様も何もできないのでしょうか？ 私たちの救い主は、そんなに力のない方なのでしょうか？

そんなことはありません。イエス様は、何でもできる神様です。イエス様がその気になれば、天から大勢の御使いがやってきて、周りにいる人たちをけちらして、イエス様はまるで何事もなかったかのように十字架から降りることもできたのです。でも、イエス様はそうなさいませんでした。ご自分のお考えで、苦しい十字架から降りずに、神様から見離されることをお選びになったのです。

それは何のためだったのでしょうか。それは、さっ

きもお話ししました。私を、あなたを、天国に連れて行くためです。私たちが神様に見離されることがないように、神様の言うことを聞かなかったことなど何一つないイエス様が、私たちの身代わりになって神様に見離されるためです。イエス様のことを知らない人たちは、いろんな悪口を言います。でも、何を言われても、どんなに苦しい目にあっても、イエス様はただ私たちを天国に連れて行くために、十字架の上で痛いつらい目にあり、みんなにバカにされ、神様に見離されたのです。

そして、イエス様は、自分を十字架にかけたうえに悪口を言っている人たち、ファリサイ人や律法学者たちや強盗たちのためにも十字架から降りずにいたのです。みんなも良く名前を知っているパウロさんは、最初はイエス様の教えに反対するファリサイ人でした。でも、イエス様はパウロさんが救われるために十字架から降りませんでした。また、イエス様の隣で十字架にかけられていた強盗の一人は、最初はイエス様を馬鹿にしていたかもしれませんが、やがて十字架の上でイエス様が本当に神の子であることを信じました。イエス様は、この強盗が天国に入るために十字架から降りませんでした。イエス様は、こんな人たちのためにも、十字架の上で神様に見離されてくださったのです。

私たちは、そんなにも大きなイエス様の「私たち一人ひとりを大切に思う気持ち＝愛」に包まれ

ています。そして、イエス様が私たちを愛してくださるのは、それが神様のお考え（＝御心）だからです。ヨハネによる福音書の3章16節に、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」という御言葉があります。神様はご自分のたった一人の子、イエス様をお見捨てになるほどに、世（＝私たちのこと）を大切に思っておられるのです。愛しておられるのです。そして、イエス様を信じる私たちが、一人も欠けずに天国で神様といつまでも一緒にいることを願っておられるのです。なんでもできる神様がそうお考えなのですから、イエス様を信じる私たちが天国に入ることは確かなことなのです。

そのために、イエス様は、それはつらい苦しいことだったのですが、ご自分から進んで、十字架から降りずに、神様に見離される道をお選びになったのです。

そして、イエス様は、神様に見離されて、それで終わりではありませんでした。私たちは来週の日曜日、素晴らしい知らせを聞きます。それは、十字架の上で私たちの代わりに神様に見離されて死んでくださったイエス様が、生き返られた・よみがえられたという知らせです。そこで、私たちにどんな素晴らしい知らせが待っているのか、みなさん、楽しみにしててください。（伊藤治郎）

[今週の暗唱聖句] ヨハネによる福音書 3章16節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。



〈ねらい〉

十字架上のキリストを思い描き、キリストの死がわたしたちのためであったことを知る。

〈展開例〉

この前は、イエスさまが苦しんでおいのりしていたおはなしだったね。神さまのバツを受ける前に、「できれば、このさかずきをとりのぞいてください」ってお祈りしていたんだよね。おいのりした後、心が決まって、神さまのバツを受ける場所まで向かいました。

神さまのバツは、十字架にかけられて苦しむことでした。いちばん重いバツなんだって。イエスさまは、はだかにさせられて、トゲのついた冠を頭にのせられて、つばを吐きかけられて、頭を棒でたたかれました。そんなことをされても、イエスさまは泣きません。じっとだまっていました。

それから、「他の人のびょうきをなおしたり、死んだ人を生き返らせることができたなら、自分のことも救ってみろ」とばかにされたけど、イエスさまは自分をすくうことはしませんでした。イエスさまは、ばかにする人たちにイエスさまの力を見せることができたはずです。でも、しませんでした。どうしてかな？ 十字架にかかって苦しむことは、神さまのバツだったね。イエスさまが悪いことをしたからじゃなくって、わたしたちの代わりにバツをうけてくださったんだったね。わ

たしたちのために、何を言われてもだまっていた、十字架からおりませんでした。苦しかったけどじっとがまんしてくれました。イエスさまは、十字架の上で死なれました。

でも、その後うれしいことが起きました。亡くなられたイエスさまは、三日目に、生き返られたのです。イエスさまがバツをうけて死んでくださったおかげで、わたしたちは、神さまからバツを受けなくてもよくなりました。イエスさまが生き返られたことで、わたしたちは天国に行くことができ、ずっと神さまといっしょにすることができるようになりました。だから、イエスさまありがとうの気持ちをこめて、来週のイースターをみんなでお祝いしましょう。

〈さんび〉

ブレイズワールド『両手いっぱい愛』

〈祈り〉

天のお父さま、イエスさまをおくってくださいありがとうございます。イエスさま、わたしたちの代わりにバツを受けてくださって、ありがとうございます。イエスさまのおかげで、わたしたちはいつも、神さまを見あげて上をむいてあるいていけます。イエスさまのおなまえによっておいのりします。アーメン。

〈やってみよう〉**「十字架キーホルダー作り」**

材料

- ・プラ版 ・油性マジック ・オープントースター ・アルミホイル ・穴あけパンチ
- ・割り箸（またはピンセット） ・キーホルダー用の鎖またはリボン

作り方

- ・プラ板を前もって十字架の形に切っておく（縮まるので、大きめサイズで）。
- ・穴あけパンチで鎖を通す穴をあけておく。
- ・油性マジックで色ぬりまたは絵を描く。
- ・オープントースターの天板の上にアルミホイルを敷き、作ったプラ板を載せて蓋を開める。
- ・熱を加え、縮まる動きが止まったら、割り箸（またはピンセット）で取り出す。
- ・冷めないうちにすぐ、台の上のせ、上から平らなもので軽くおさえて平らにする。
- ・穴に鎖またはリボンをとおして完成。

〈ねらい〉

今日は、イエスさまの十字架の受難の記事から、救いの素晴らしさについて考えたいと思います。

〈展開例〉

焼けつくような暑さの中を一匹の虫が走っていました。それをたまたま見つけたローマの兵隊がその虫を木にピンで突き刺しました。その虫は、あっという間に息絶えていきました。これがヒントとなって、十字架刑は誕生しました。

犯罪人は十字架の横木の部分を背負わされながら、刑場まで人々の嘲りの中を進んで行きました。そして、刑場につくと、犯罪人は、刑場に建てられた縦木に磔にされたのです。両手両足に釘を打ちつけられて、十字架が建てられた瞬間にその釘打ちに部分に自分の全体重がかかってくるのです。足は地上から完全に離れます。これは、その犯罪人をこの地上から抹殺することを意味していました。しかも、この十字架刑は、極悪人がつけられるものであり、最も醜い究極刑であると言われていました。その十字架刑に、何の罪もないイエスさまがおかかりになられたのです。

それはなぜでしょうか。それは、ぼくたち私たちが救いに導くためです。イエスさまは十字架の上で父なる神さまに完全に見捨てられてしまったのです。イエスさまはそのご生涯を通して、いつも父なる神さまと深い交わりをもっておられました。いつも父なる神さまのことを「アッパ」と祈っておられました。「アッパ」、これは幼児語で「お

父ちゃん」という、とても親しみを込めて話す言葉です。それほど、イエスさまは父なる神さまと深い交わりをもっておられたのです。ところがイエスさまは十字架で父なる神さまに完全に見捨てられてしまったのです。

それはなぜでしょうか。十字架でイエスさまが父なる神さまからお見捨てになられることによって、ぼくたち私たちが神さまに受け入れていただくようになったのです。イエスさまが十字架で見捨てられてしまったので、ぼくたち私たちが父なる神さまに受け入れられたのです。イエスさまの十字架の受難、それは、ぼくたち私たちの救いのためなのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)。

イエスさまはご自分の力で十字架から降りることもできました(26:53~54を参照)。しかし、ご自分の意思で、最後まで、十字架で死に至るまで従われたのです。イエスさまの受難、それは、ぼくたち私たちの救いのためなのです。イエスさまの十字架の受難のゆえに、ぼくたち私たちは救われたのです。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、イエスさまの十字架の受難によって、ぼくたち私たちが救われたことを感謝します。イエスさまの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

神様の救いの御計画は、アダムとエバが罪を犯した後すぐに始まり、歴史を通して少しずつ現われ、イエス様の十字架によって成し遂げられました。

イエス様は、この神様の救いの御計画を成し遂げるため、十字架の苦しみから逃げませんでした。十字架の上で、罪ある私たちに対する神様の怒りと裁きを全て負うことで、救いの道を開いてくださいました。イエス様の十字架は、私の救いのためであることを覚えましょう。

〈展開例〉

1. 先週の復習

イエス様は、ゲッセマネの祈りによって、サタンの誘惑に勝利され、十字架に向う決心をしておられました。

2. イエス様が十字架に架けられた時、まわりの人たちは、何をしましたでしょうか？

- ・兵士たちは？
- ・通行人たちは？
- ・祭司長や律法学者は？
- ・一緒に十字架につけられた強盗たちは？
- ・イエス様の弟子たちは？

あなたがその場にいたら、どうしたでしょう？

3. イエス様は人々が何を言っても、十字架から降りませんでした。それはどうしてでしょうか？

- ・自分の力で降りることができなかった？
 - ・神様は、イエス様を助ける力がなかった？
- イエス様が十字架にかかって、父なる神に見捨てられて死ぬことは、神様が私たちを救うための永遠からの御計画でした。

4. 暗証聖句を覚えましょう！

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ヨハネによる福音書3章16節

- ・「独り子」とは誰のことですか？
- ・永遠の命をいただくのは誰ですか？

〈祈り〉

天のお父様、あなたの愛を感謝いたします。私たちを罪から救うために、ずっと昔から御計画を立て、それをイエス様によって成し遂げてくださったことを感謝いたします。イエス様を信じた私が、永遠の命をいただくことができることを感謝いたします。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

- イエスの受難の意味を理解する。
- イエスの愛と犠牲に心からの感謝をささげる。

〈展開例〉

質問1 イエスがぶどう酒を飲まれなかった理由は何か。

質問2 兵士たちはイエスに何をしたか。

質問3 イエスの頭上の罪状書きは、何を表していたか。

質問4 周りの人々のイエスに対する反応はどのようなものだったか。それはなぜか。

質問5 イエスは、神の御子で力ある方なのになぜ十字架から降りなかったのか。

まとめ

イエスは、ゴルゴタの丘の上で、二人の強盗たちと共に十字架につけられようとしていた。兵士たちは、苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、それが意識を鈍麻させるためのものであることを知っておられた主は、それを拒絶された。主は、十字架上で父から与えられた杯の最後の一滴まで飲み干そうと決意しておられたからである。

イエスを十字架につけた兵士たちは、イエスの服を取って、くじで分配した。それは、メシヤに

ついでに詩編の預言が成就するためであった。彼の頭上には、ユダヤ人の王という罪状書きが掲げられたが、これは、真正なる彼の称号であった。十字架につけた人々は、彼を侮辱するためにそれを掲げたのであったが、それが真実であったことは、後に彼らの知るところとなる。

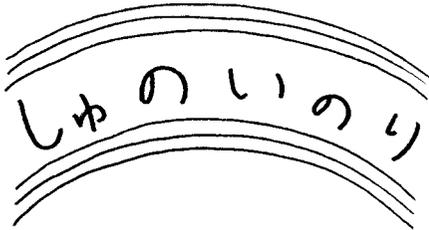
兵士たち同様、周りの人々、すなわち群衆や祭司長・律法学者・長老たちといったリーダーたち、そして自らも十字架につけられている左右の強盗たちまでもが、イエスが十字架から降りてこないことを罵った。人々が彼を罵ったのは、まさに彼が十字架から降りてこないことのゆえであったが、まさにそうすることで、彼は御自分が真正のメシヤであることを神と人の前に示されたのである。主は、十字架から降りることができなかったのではなく、御自分の意志で降りない道を選ばれたのだ。もし、そこで主が降りてこられたとしたら、神の救いの御計画は潰え、私たちには救いの道は残されていなかったことだろう。この時、主の受難を覚え、心からの感謝をささげる時としたい。

〈祈り〉

神様、私たちのためにイエス様を与えてくださって、ありがとうございます。イエス様は、神の御子であられるのに、十字架を回避する誘惑に打ち勝って、十字架上で私たちのために死の苦しみを味わってくださいました。主の謙遜と犠牲に心からの感謝をささげます。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。



幼稚科視覚教材



なまえ

①

てんにまします
われらのちちよ



②

ねがわくは



みなを

あがめさせたまえ

③

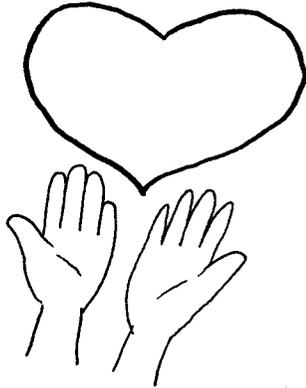
みくにき



きたらせたまえ

④

みこころの
てんになるごとく



ちにもなさせたまえ

⑤

われらの
にちょうのかてを

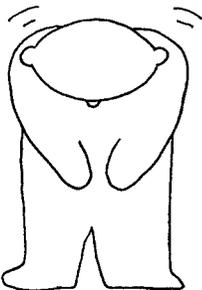


きょうも

あたえたまえ

⑥

われらにつみをおかすものを
われらがゆるすごとく



われらのつみをも

ゆるしたまえ

⑦

われらを
こころみにあわせず



あくよりすくいだしたまえ

⑧

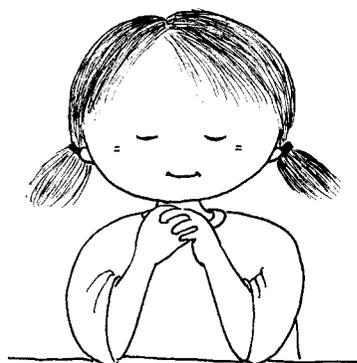
くにとちからと
さかえとは



かぎりなく
なんじのものなればなり

⑨

ア－メン



⑩

2010年4～6月カリキュラム（第37号）

—救済史に基づく二年サイクルカリキュラムの一年目—

月日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
	単 元 の 目 標		
4月4日 進級式・復活祭	復活のキリスト	マタイ28:1-10	マタイ5:12
	主イエスはよみがえられた。罪と死に勝利された主イエス・キリストを仰ごう		
4月11日	創造主なる神	創世記1:1-5	創世記1:1
	天地の創造主である神は、ただお一人。創造主なる神をたたえて賛美しよう		
4月18日	被造物の祝福	創世記1:6-25	テモテ4:4
	神の創造のみわざを学び、神の愛がこめられた被造世界であることを知ろう		
4月25日	神の栄光の舞台	創世記1:31-2:3	詩編19:2
	七日目の安息によって世界は祝福されている。神の栄光の舞台で喜び生きよう		
5月2日	人間の創造と人生の目的	創世記1:26-31	詩編8:2前半
	神は人を創造し、生きる目的を与えられた。神の御心に応えて歩もう		
5月9日 母の日	男と女の創造	創世記2:18-25	創世記2:18
	男と女に創造された。人は共に生きる存在である。互いに愛し合って生きよう		
5月16日	罪と墮落	創世記3:1-13	ローマ6:23
	罪とは何か。神の御言葉にそむき、自分が神になってしまう罪を知ろう		
5月23日 聖霊降臨祭	聖霊降臨と教会	ヨハネ20:19-23	創世記2:7
	人はキリストの聖霊（神の息）によって生かされる。聖霊によって歩もう		
5月30日	救いの約束（原福音）	創世記3:14-24	ローマ5:8
	神は人の罪を裁き、また、憐れむお方である。裁きと救いの神を知ろう		
6月6日	カインとアベル	創世記4:1-16	詩編46:2
	神から離れて、人は罪に支配されてしまう。罪の悲惨と神の憐れみを知ろう		
6月13日 花の日	ノアの箱舟	創世記6-7章	創世記6:9
	神は人の罪に心を痛めておられる。罪に心を痛め、人を憐れむ神を知ろう		
6月20日 父の日	ノアの契約	創世記8:1-9:17	創世記8:21
	神はノアを通して、あらためて人を祝福してくださった。神をほめたたえよう		
6月27日	バベルの塔	創世記11:1-9	コリント10:31
	自らを神とする人の罪の悲惨と、それを裁き、人の罪を抑制される神を知ろう		

2010年度 年間カリキュラム

(2010年4月～2011年3月)

二年サイクル聖書物語の第一年

	月 日	教会暦・行事	主 題
2010年 第37号	4月4日	進級式・復活祭	復活のキリスト
	4月11日		創造主なる神
	4月18日		被造物の祝福、環境（土地・生物）
	4月25日		神の栄光の舞台、歴史の主
	5月2日		人間の創造、人生の目的と文化命令
	5月9日	母の日	人間の創造、男と女の創造
	5月16日		罪と墮落
	5月23日	聖霊降臨祭	聖霊降臨と教会
	5月30日		救いの約束（原福音）
	6月6日		カインとアベル
	6月13日	花の日	ノアの箱舟
	6月20日	父の日	ノアの契約
	6月27日		バベルの塔
第38号	7月4日		アブラハムの召命
	7月11日		アブラハムへの約束
	7月18日		ソドムの滅亡
	7月25日		イサクの誕生
	8月1日		イサクを献げる
	8月8日		ヤコブとエサウ
	8月15日	(平和)	平和の主
	8月22日		売られたヨセフ
	8月29日		総理大臣になったヨセフ
	9月5日		摂理の主の勝利
	9月12日		モーセの誕生
	9月19日	(20敬老の日)	モーセの召命
	9月26日		十の災いと過ぎ越し

年・号	月 日	教会暦・行事	主 題
第39号	10月3日		葦の海を渡る
	10月10日		天からのパン
	10月17日		十戒を授かる
	10月24日		金の子牛の事件
	10月31日	宗教改革記念日	幕屋の建設
	11月7日		約束の地の偵察
	11月14日		ヨルダン川を渡る
	11月21日		約束の地カナン
	11月28日	アドベント	待降・アブラハムの子
	12月5日	アドベント	待降・ダビデの子
	12月12日	アドベント	待降・バビロン捕囚
	12月19日	クリスマス	降誕・主イエスの降誕
	12月26日	年末	東方の学者たち
2011年 第40号	1月2日	新年	洗礼者ヨハネと主イエスの受洗
	1月9日		荒れ野の主イエス
	1月16日		ガリラヤ伝道
	1月23日		八福の教え
	1月30日		地の塩・世の光
	2月6日	(11 信教の自由)	律法の完成者キリスト
	2月13日		完全な人イエス
	2月20日		天に富を積む
	2月27日		神の国と神の義
	3月6日	(9- レント)	黄金律
	3月13日	レント	権威ある者の教え
	3月20日	レント	病人をいやし預言を成就するメシア
	3月27日	レント	嵐をしずめる権威を持つメシア

〈執筆よりひとこと〉

- イエスさまの愛が子どもたちの心に届きますようお祈りいたします。(家山華子)
- 新しい年が始まりました。今年も毎日「主の祈り」を祈りましょう。そして、生きて働かされている神様を信じていきましょう。(小堀 昇)
- 分級展開例は、CS担当者および子ども礼拝担当者が分担執筆しました。(上福岡教会教会学校)
- 一年間お付き合いいただいて、ありがとうございました。新しい年も主と共に歩む一年となりますよう祈りつつ。(吉田通志子)
- 寒い主の日の朝、おそらく一番早く奉仕をはじめられる皆様のお働きが祝福されますようにと、祈ります。少しでも皆様のお力になればと、今号もお届けいたします。(相馬伸郎)
- 新しい年2010年を迎えました。昨年も、毎回、子どもたちの魂に届く言葉を追い求め、苦闘しながらの説教原稿作成でしたが、今年も、イエス様に聴き従うことから与えられる恵みをいかに子どもたちに分かりやすく伝えるかをいつも念頭に置きながら、説教の作成と取り組んで行きたいと願っております。お祈りの一つにおおぼえいただけたら幸いです。(長谷川潤)

〈あとがき〉

- 北米改革長老教会(カペナンター)日本中会の坂井純人先生より、原稿をお寄せいただきました。阪神地区を中心に、スコットランド宗教改革の志を継承して、熱心に福音宣教と教会形成に努めておられます。神戸神学館を中心とする、教会教育への熱心な取り組みをお分かちいただきました。これからも、主にある良い交わりを建て上げて、相互に研鑽に励むことができますよう、祈り願います。
- 中部中会日曜学校委員会の長老委員による説教展開例を掲載しました。CS・SS礼拝では、教師だけが説教を担当するのではなく、長老方、CS・SS教師方が担当しておられることが多いでしょう。実際にそのことに励んでおられる長老方に執筆していただきました。お互いに励ましになり、刺激になればと願っています。礼拝に仕える一人ひとりのお働きに主の祝福を祈ります。

- 『子どもカテキズム』に基づく二年間のカテキズムカリキュラムの最終号をお届けしました。説教のテキストと扱う教理との関係について、ある戸惑いを皆さまに与えてきたことを思います。「教理を語る説教」の困難さを思わざるを得ません。テキストそのものの躍動とそのメッセージを生かしながら、しかも教理の伝達に焦点を合わせることは、容易なことではありません。教理に力があるのは、それが正しく三位一体の神に出会う筋道を示すからです。とりわけ子どもたちには生ける主イエス・キリストとの出会いの道を鮮やかに示すことです。それは、まことの礼拝体験へと導くことにはかなりません。そのような説教を追求したいと思いますが、なお力不足です。子どもたちの前に立つ教師、説教者の敬愛する皆様！説教する「事柄」を説教者自身が納得し確信することが必須です。祈りなくして語れません。教案誌はあくまでも「例」であり「案」です。「良い例」「良い案」でありたいと心から願いますが、もとよりこれに縛られる必要はありません。皆様の現場に「適応」するために、どうぞ、それぞれの教師会で良い学びを深めてくださいませ。子どもたちの成長と共に私たちも聖霊なる神によって豊かに成長させられて参りましょう！

- 来年度は、二年間にわたる救済史カリキュラムです。乞うご期待、そしてご加禱を！
- 二年間、松田裕子姉(旧姓 引間)が表紙のイラストを担当してくださいました。心からの感謝を申し上げます。

〈購読の申し込み〉

- 『教会学校教案誌』をぜひご購読ください。また、別冊『子どもカテキズム』(300円)をぜひお買い求めください。バックナンバーもあります。第32号までは一部500円で販売しています(品切れの号もあり)。
- 申し込みの受け付けと送付は大垣伝道所の辻幸宏教師が担当しています。お求めは下記までご連絡ください。副読本『主は羊飼い』のお買い求めも下記までお願いします。

大垣伝道所 辻幸宏まで

〒503-0996 大垣市島町283

Tel/Fax. 0584-91-3538

☆ 執筆者一覧 ☆

まえがき	説教展開例
木下裕也 (名古屋教会牧師)	山口英俊 (豊明教会長老)
巻頭説教	長谷川潤 (四日市教会牧師)
熊田雄二 (上福岡教会牧師)	相馬伸郎 (名古屋岩の上伝道所宣教教師)
教会学校・日曜学校訪問	木下裕也 (名古屋教会牧師)
小宮 直 (横浜教会教会学校校長)	望月 信 (高蔵寺教会牧師)
諸教派の教会教育事情	辻 幸宏 (大垣伝道所協力牧師)
坂井純人 (北米改革長老教会日本中会議長)	二宮 創 (中部中会巡回教師)
「主の祈り」研究	伊藤治郎 (四日市教会長老)
山中雄一郎 (板宿教会牧師)	分級展開例
聖書研究	幼稚科
牧野信成 (神戸改革派神学校教授)	家山華子 (神戸改革派神学校特別研究生)
相馬伸郎 (名古屋岩の上伝道所宣教教師)	小学科下級
藤井 真 (堺みくに教会牧師)	小堀 昇 (いずみ教会牧師)
後藤公子 (前インドネシア派遣女性宣教教師)	小学科上級
カテキズム研究	上福岡教会教会学校教師会
大西良嗣 (滋賀摂理伝道所宣教教師)	中学科
坂井孝宏 (熊本伝道所宣教教師)	吉田通志子 (仙台教会日曜学校教師)
吉岡契典 (仙台カナン教会牧師)	イラスト作画
宮武輝彦 (芸陽教会牧師)	表紙 松田裕子 (秩父教会)
貫洞賢次 (札幌伝道所宣教教師)	本文 岡野美佳 (青葉台教会)

☆ 編集部 ☆

相馬伸郎 (長)	名古屋岩の上伝道所宣教教師
木下裕也	名古屋教会牧師
辻 幸宏	大垣伝道所協力牧師
長谷川潤	四日市教会牧師
望月 信	高蔵寺教会牧師

日本キリスト改革派教会 中部中会 『教会学校教案誌』
2010年1・2・3月号 (季刊)
第36号
2009年11月29日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 教会学校教案誌編集部 名古屋岩の上伝道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183 「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ
頒価	900円 (本体価格)
